

田多地小谷遺跡

—六方川災害復旧工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

昭和58年3月

兵庫県教育委員会

例 言

1. 本報告書は六方川災害復旧工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。調査は兵庫県豊岡土木事務所の委託を受けて兵庫県教育委員会が実施した。
2. 遺跡は兵庫県出石郡出石町^{ただら}田多地字小谷に所在する。
3. 遺跡の名称は田多地小谷遺跡とする。当該遺跡については、従来より田多地遺跡として遺跡台帳に記載されてきた。田多地小谷遺跡として小字名を付加したのは、今回の調査区からは、大量の土器が出土したものの、住居址等の遺跡本体が発見されていない為である。将来、近接して関連する遺跡本体が発見されれば田多地遺跡として包括されるはずである。なお、資料の一部はすでに瀬戸谷皓氏によって紹介されている。(瀬戸谷皓、「但馬出石町田多地出土の土師器」 古代文化 1978)
4. 遺物番号の表示は図版、図面、本文を通して統一した。
5. 本書で使用した 1/25,000 の地図については、国土地理院発行のものを使用した。1/10,000 の地図については出石町教育委員会の提供を受けたものである。
6. 遺物写真については森昭氏の手を煩わせた。
7. 整理後の出土遺物については兵庫県教育委員会魚住分館に保管している。
8. 本書の執筆、構成は森内秀造が行なったが、構成その他については大平茂、村上泰樹、平田博幸の教示、協力を得た。
9. 報告書作成の過程において、御教示いただいた方々の氏名については、第1章に別記した。

本文目次

第1章 発掘調査の経過	1
(1) 発掘調査に至るまで	1
(2) 発掘調査経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第3章 遺構	7
(1) 調査トレンチの設定	7
(2) 古墳時代前期の流路	7
(3) 井戸状遺構	8
第4章 遺物	11
(1) 土師器	11
(2) 弥生式土器	18
(3) 須恵器	18
(4) 石器	19
第5章 まとめにかえて	21
(1) 高杯の製作法について	21
(2) 遺物の検討	22
(3) おわりに	23

表目次

第1表 出土遺物個体数表	20
第2表 出土遺物観察表	25

挿 図 目 次

第1図	出石町の位置	3
第2図	田多地小谷遺跡周辺の遺跡分布地図	5
第3図	調査トレンチ設定図	6
第4図	遺構図・土層断面図	9

図 面 目 次

第1図	土 師 器 (甕形土器)
第2図	土 師 器 (甕形土器)
第3図	土 師 器 (甕形土器)
第4図	土 師 器 (甕形土器)
第5図	土 師 器 (甕形土器)
第6図	土 師 器 (甕形土器)
第7図	土 師 器 (甕形土器)
第8図	土 師 器 (壺形土器)
第9図	土 師 器 (壺形土器)
第10図	土 師 器 (壺形土器)
第11図	土 師 器 (壺形土器)
第12図	土 師 器 (高杯形土器)
第13図	土 師 器 (高杯形土器)
第14図	土 師 器 (器台形土器)
第15図	土 師 器 (小型精製土器・低脚杯)
第16図	土 師 器 (鉢形土器・手づくね土器)
第17図	土 師 器 (蓋形土器・甌形土器)
同	弥生式土器 (壺・甕形土器)
第18図	須 恵 器 (杯・蓋・甌・埴・皿)
第19図	石 器 (砥石)

図 版 目 次

- 図版 1 (a) 遺跡遠景 (b) 調査位置図
- 図版 2 (a) 調査地近景 (b) 田多地小谷遺跡
- 図版 3 (a) 第 I トレンチ (b) 第 IV トレンチ
- 図版 4 第 I トレンチ土層断面
- 図版 5 (a) 第 II トレンチ土層断面 (b) 第 IV トレンチ土層断面
- 図版 6 (a) 第 I トレンチ井戸状遺構 (b) 第 I トレンチ遺物出土状況
- 図版 7 (a) 第 I トレンチ遺物出土状況 (b) 第 II トレンチ遺物出土状況
- 図版 8 土 師 器 (甕形土器)
- 図版 9 土 師 器 (甕形土器)
- 図版 10 土 師 器 (甕形土器)
- 図版 11 土 師 器 (壺形土器)
- 図版 12 土 師 器 (壺形土器・高杯形土器)
- 図版 13 土 師 器 (高杯形土器)
- 図版 14 土 師 器 (高杯形土器)
- 図版 15 土 師 器 (高杯形土器・器台形土器)
- 図版 16 土 師 器 (小型精製土器・鉢形土器)
- 図版 17 土 師 器 (低脚杯・手づくね土器)
- 図版 18 弥生式土器 (壺・甕形土器)
- 図版 19 土 師 器 (甕・甕・壺形土器)
- 図版 20 弥生式土器・石器 (砥石)
- 図版 21 須 恵 器 (杯蓋・竈・壺)
- 図版 22 高杯接合部

第1章 発掘調査の経過

1. 発掘調査に至るまで

昭和55年8月30日、兵庫県出石郡出石町田多地の六方川災害復旧工事地区に於いて、工事中に古墳時代の土師器が多量に出土した。兵庫県教育委員会、社会教育・文化財課は工事主体者である兵庫県豊岡土木事務所と直ちに遺跡の取り扱いについて協議を行なった。その結果、すでに工事掘削が行なわれている区間については、工事を中断すれば堤防決壊等の危険性があるので、そのまま堤防の補強工事を続行することにした。そして残りの工事区間については災害復旧という特別の状況にあるので県教育委員会が早急に調査主体となって発掘調査を実施することになった。

調査は堤防の災害復旧工事に伴う河床中でのトレンチ作業であり、しかも時期的に台風シーズンと重なったため、調査が長びけば堤防の損壊だけでなく、作業上の危険性を伴う恐れがあった。幸い、工事中の土器の出土状況から、遺構は土器を大量に包含する旧流路であることが判明していたので、調査については土層観察と遺物採集を主とした作業を行なうことになった。

2. 発掘調査経過

調査方法

前節でも述べた通り、防災上の観点から、短期間のうちに調査を完了する必要がある。この為、掘削については機械力を使用し、掘削および調査が完了したところについては直ちに堤防の補強工事を実施していった。

遺跡の土層の堆積状況を把握するため、まず、すでに掘削されている瀬替水路(第Ⅰ区)を利用して断面観察を行なった。こうした予備調査を実施したうえで本調査区間(第Ⅱ区、第Ⅳ区)の掘削作業を行なった。掘削については上記のように機械力(バックホー)を使用し、遺物包含層については、近辺に仮置きして、作業員による遺物採集作業を行なった。調査は工事の作業工程にあわせて、次の3回に分けて実施した。

第1回 昭和55年9月25日～9月26日

- 第1区 ○瀬替水路区間の人力による掘削作業。
- 土層断面観察の実施。

第2回 昭和55年9月29日～10月3日

第Ⅱ区 ◦バックホーによる掘削作業と遺物採集作業、及び土層断面実測。

第Ⅲ区 ◦すでに工事が行なわれていた区間であり、土砂仮置場において遺物採集作業を実施。

第3回 昭和55年10月20日～10月24日

第Ⅳ区 ◦バックホーによる掘削作業と遺物採集作業。

発掘調査体制 昭和55年度

兵庫県教育委員会 社会教育・文化財課

課長 藤和 重喜
参事 田中 幹雄
副課長 道畑 實
課長補佐兼
管理係長 河合 幸一
課長補佐兼
埋蔵文化財係長 池田 義雄
係長 堀 洋
主査 大村 敬通
技術職員 森内 秀造(事務担当)
調査担当 森内 秀造
調査補助員 川見 時造

整理体制 昭和57年度

兵庫県教育委員会 社会教育・文化財課

課長 藤本 繁
参事 吉村 芳郎
副課長 道畑 實
課長補佐兼
管理係長 福永 慶造
課長補佐 池口 義雄
課長補佐 堀 洋
埋蔵文化財
係長 大村 敬通
主任 西口 和彦(事務担当)
整理担当 森内 秀造
整理補助員 森 新一、町口 弘子、
二階堂康子

調査については地元田多地地区や出石町教育委員会、兵庫県豊岡土木事務所、川島建設の協力を得た。遺物の実測、トレースについては森内が主として行なったが、一部については深井明比古、岸本一宏、平田博幸、山下史朗の協力を得た。本書の作成については池田正男、井守徳男、山本三郎、吉謙雅仁、大平 茂、村上泰樹の助言を得た。

また、執筆にあたって、次の方々に御教示をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。

松原 尤 (出石郡出石町教育委員会)

清水 真 -- (鳥取県埋蔵文化財センター)

野島 珠 美 (鳥取県文化財団)

杉原 和 雄 (京都府教育庁)

和田 長 治 (城崎郡日高町文化財審議委員)

川見 時 造 (" ")

加賀見 省 一 (城崎郡日高町教育委員会)

高橋 学 (立命館大学大学院)

(順不同、敬称略)

第2章 遺跡の位置と環境

遺跡は兵庫県出石郡出石町田多地字小谷に所在する。出石町は北但馬の東端にあたり、町の北部において丹後・久美浜町と接している。出石町は但馬6万石、仙石氏の城下町として栄えたところである。今なお城下町の面影を残し、最近では観光地として脚光を浴び、多くの観光客が訪れている。町の中央を出石川が流れ、北4kmの地点で、円山川に合流する。海拔は平地で10m前後と低く、有史以前は入江湖を形成していた。

遺跡の所在する田多地は出石町の最も北寄りに位置し、豊岡市との市町境に近い。豊岡市三宅から出石町宮内に至る地域は旧出石郡神美村に属し、市町村合併の際、現在の出石町田多地、安良と豊岡市倉見を境に出石町側、豊岡市側に分かれて編入されている。

周辺の遺跡として、古い時期に属するものに出石神社周辺の遺跡がある。同神社周辺からは、中津式に併行する縄文時代後期の土器片や弥生時代前期の土器片が採集されている⁽¹⁾。さらに、昭和54年度の調査では弥生時代中期から奈良・平安時代にかけての遺物・遺構が発見され、出石神社が所在する宮内周辺は、早くから開けていたことが明らかになっている。その他、弥生時代の遺跡として、宮内上坂や小野小学校裏山の遺跡があるが、土器が採集されているだけで実態は明らかではない。全般に弥生時代の遺跡については、その分布は稀薄であり、明らかでない点が多い。今後の資料の増加に期待せざるを得ない。

古墳時代の遺跡としては「[]始元年」銘をもつ三角縁神獸鏡が出土した豊岡市森尾の森尾市尾古墳が著名である。森尾周辺には、最近調査が行なわれ、珠文鏡や多数の玉類が出土したカチャ古墳や北浦古墳群、立石古墳群がある。また出石町側には但馬地方の円墳で最大の規模をもつ茶臼山古墳がある。茶臼山古墳は周濠をもち三段に築成されている。茶臼山古墳の南には横穴式石室をもった鶏塚古墳、東の丘陵には入佐山1号墳がある。鶏塚からは乳文鏡、入佐山1号墳からは但馬で唯一の家形埴輪が発見されている。また横穴式石室をもつ古墳は鶏塚のほか、出石町中村と大谷に分布している。



第1図 出石町の位置

一方、田多地小谷遺跡周辺に目を向けてみると、安良の下安良古墳からは石枕とともに四獣鏡が発見され、さらにその上方の田多地3号墳からは小型の仿製内行花文鏡が発見されている。また、田多地のすぐ南の独立丘陵上に立地する福居箱根山3号墳から変形四獣鏡が出土している。田多地小谷遺跡の背後にも最近、4基の古墳が発見されており、周辺には当遺跡と関連する古墳が群集している。このほか、遺跡の南には坪井群集墳や鳥居遺跡がある。

歴史時代の遺跡については、前述の通り、出石町宮内に天日槍の伝承をもつ出石神社があり、神社の南側の水田より、奈良時代から平安時代の建物跡が発見されている。また、豊岡市三宅には白鳳時代の薬師寺遺跡や中嶋神社があり、その南の香住では開場整備中に斎串、人形などの祭祀用の木製品が発見されている。また、先の入佐山1号墳⁽¹²⁾や田多地3号墳⁽¹³⁾から、平安時代後期の経塚が発見されている。このほか、出石町宮内の此隔山には山名宗全の居城であった比隅城址がある。

註(1) 西谷英昭 前田豊邦「出石町宮内遺跡調査概報」兵庫県埋蔵文化財調査集報第4集 兵庫県教育委員会 昭和54年

(2) 昭和54年度、国庫補助事業による遺跡範囲確認調査。調査では弥生時代前期の石槍、弥生時代中期から古墳時代前期の土器が多数出土した。遺構としては出石神社の南の水田より、奈良時代から平安時代前期頃の独立柱の建物が3棟検出されている。昭和58年度に報告書刊行予定。

(3) 梅原末治「出石郡神美村の古墳」兵庫県史蹟名勝天然記念物調査報告書第2輯 兵庫県教育委員会 大正14年

(4) 風道永留・豊岡線特殊改良工事に伴う発掘調査。兵庫県教育委員会が実施。本年度報告書刊行予定

(5) 瀬戸谷浩 友久伸子「北浦古墳群」豊岡市教育委員会 昭和56年

(6) 瀬戸谷浩「豊岡市立石古墳群発掘調査報告」兵庫県埋蔵文化財調査集報 第4集 兵庫県教育委員会 昭和54年

加賀見省一「立石古墳群—豊岡市立石古墳群第2次調査の概要—」豊岡市教育委員会 昭和56年

(7) 岡本久彦「下安良城山古墳調査概況」兵庫県埋蔵文化財調査集報 第2集 兵庫県社会文化協会 昭和49年

(8) 崖面に経塚の石室があらわれたために、国庫補助により緊急調査。昭和55年度、1/4以上削り取られた墳丘に箱式石棺、木棺直葬器など13の埋葬施設が検出された。築造時期は5世紀代。昭和59年度に報告書刊行予定。

「田多地経塚発掘調査—ニュース」出石町教育委員会 昭和55年

森内秀造「出石郡出石町田多地出土の経筒」兵庫県の歴史18号 兵庫県県史編集室 昭和56年
小川良太 森内秀造「田多地経塚・古墳群」兵庫県埋蔵文化財調査年報 兵庫県教育委員会 昭和55年

(9) 石野博信「但馬地方の古式土師器」兵庫県埋蔵文化財調査集報第3集 兵庫県社会文化協会 昭和51年

(10) 日本書紀 垂仁紀3年3月条(岩波古典文学大系67)

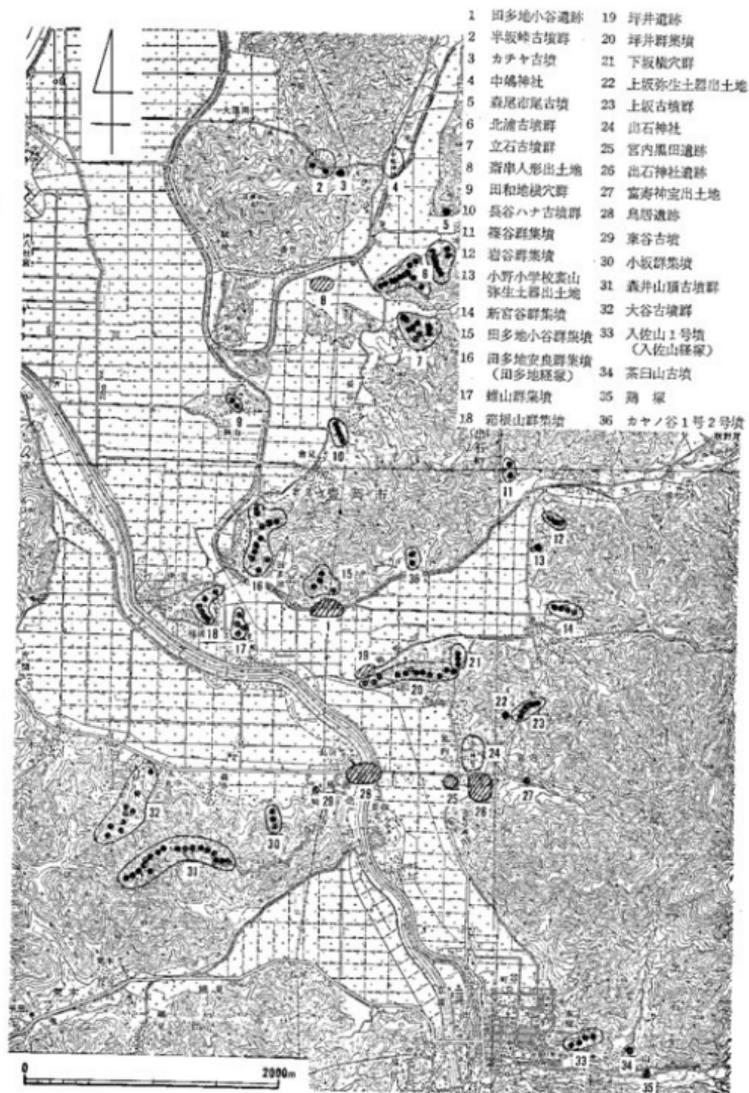
古事記 志神天皇条(岩波古典文学大系1)

(11) 註(2)と同じ。

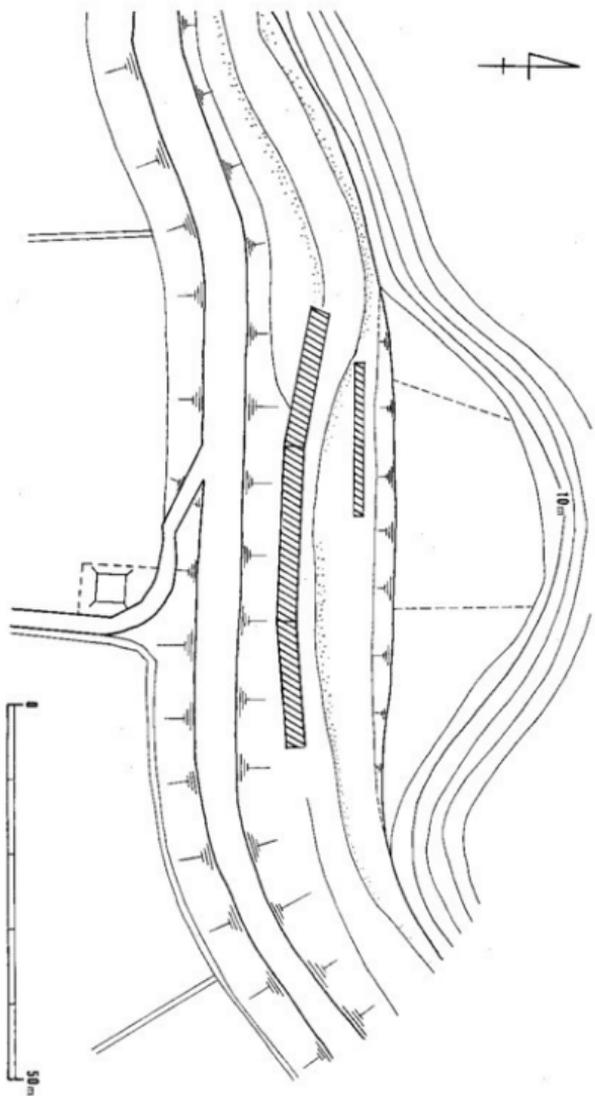
(12) 大正10年頃、入佐山1号墳の前方部より発見。銅製鍍銀経筒(1)と土器壺(1)、鉄製経筒(2~30)、宋銭が出土。東京国立博物館に保管。岡本久彦氏より御教示。

(13) 註(8)と同じ。小石室内より銅製経筒が出土している。

(追記) 本巻については、池田正男氏および出石町町史編纂家の御厚意により出石町史に所載予定の「考古学からみた出石」(脱稿済)を参照させていただいた。



第2図 田多地小谷遺跡周辺の遺跡分布地図



第3圖 調査トレンチ設定図

第 3 章 遺 構

1. 調査トレンチの設定

調査トレンチの配置については瀬替水路の予備調査のトレンチを第Ⅰ区とした。本工事区間の調査トレンチのうち、すでに工事によって削平された中央部の区間を第Ⅲ区とし、第Ⅲ区の前をそれぞれ第Ⅱ区・第Ⅳ区とした。

2. 古墳時代前期の流路

土層は各トレンチにより多少異なるが、基本層序は上から(1)表土層(積土等)(2)暗灰褐色(中粒砂シルト混り)(3)黒褐色(粗粒砂シルト混り)(4)暗灰褐色中粒砂(無遺物層)(5)腐蝕土層(無遺物層)となる。このうち第3層黒褐色粗粒砂層に古墳時代前期の遺物が大量に含まれている。古墳の直上を走る六方川は後世の付け替え水路であると云われており、遺跡が南に面した谷の開口部に立地することから、当初、この黒褐色粗粒砂層は背後の谷から流出した河道内に堆積したものと考えた。しかし、堆積土層をみるとその粒子については均一であり、土層の堆積状態は谷の旧河道に堆積したというよりも、平野部の自然流路の堆積状態を示している。このような土層の状況を見ると、恐らくこの黒褐色粗粒砂層は現在の六方川と重なって流れる旧流路内に堆積していたものと考えられる。

第Ⅰ区トレンチの東にあらわれている黒褐色粗粒砂層は第Ⅱ区トレンチ・第Ⅳ区トレンチのそれとは大きな高低差がある。第Ⅰ区・第Ⅱ区・第Ⅳ区の黒褐色粗粒砂層については調査時期が異なったため、相互の比較はできなかったが、出土遺物の形態、器種構成など時期的な差異は全く認められず、同一土層であると考えられる。

このように考えると黒褐色粗粒砂層はこの流路内にレンズ状もしくはそれに近い形で堆積していたものと思われる。第Ⅰトレンチと第Ⅱ・第Ⅳトレンチの黒褐色粗粒砂層のレベルに高低差があるのは、第Ⅰ区については流路の河口、第Ⅱ・第Ⅳ区については流路の中央部をほぼ横断するような形で設定されたことによるのであろう。また、第Ⅱ・第Ⅳ区の黒褐色粗粒砂層については、後世の流れによってその上面が削られていることが考えられ、このために第Ⅰ区のそれと一層大きなレベル差を生じているものと思われる。

以上のような観点から古墳時代前期の流路を推定したのが挿図第3図の遺構図である。これは土層断面にあらわれた黒褐色粗粒砂層をそのまま、平面図化したものである。第Ⅳ区のように黒褐色粗粒砂層の上面が削平されている箇所もあり、実際の流路の方向、幅と

は多少異なるかもしれない。いずれのトレンチからも完形品が多く出土しているが、流路の肩口にあたる第Iトレンチでは、図版6、7でみるように高柄形土器などの完形品が特に多く集中して出土しており、流路内に投げ込まれたような様相を呈している。

3. 井戸状遺構

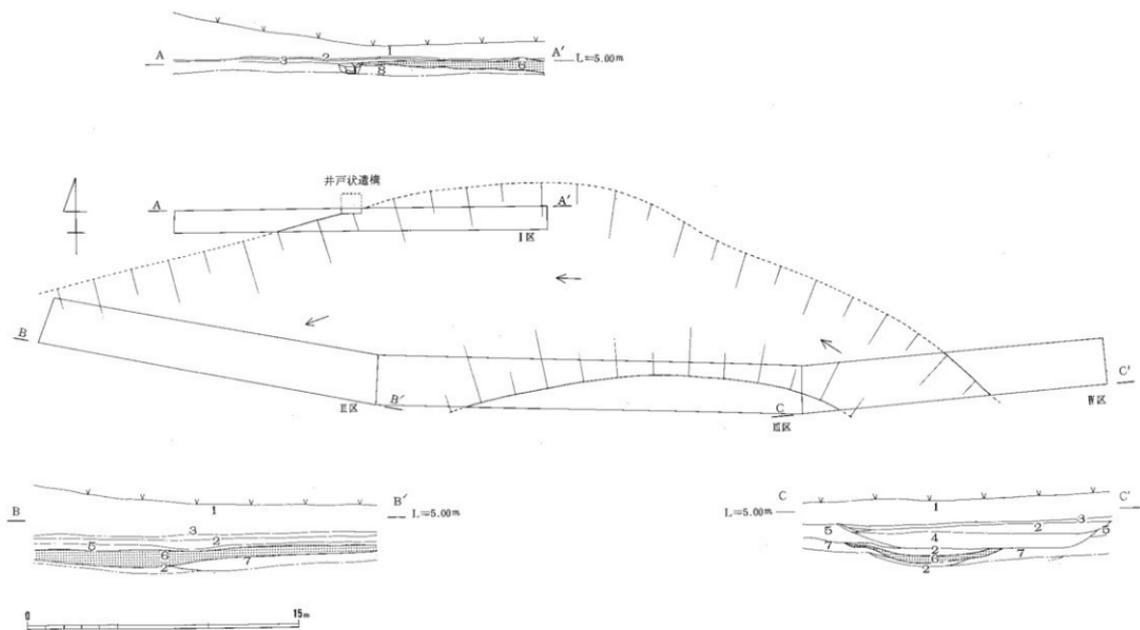
第2層暗灰褐色中粒砂（シルト混り）は須恵器を包含している。第I区の土層断面の観察の際、奈良時代に属する須恵器をこの土層から若干採集している。採集された点数がわずかである為、断定はできないが、当遺跡ではかなりの量の奈良時代の須恵器が採集されていることから、暗灰褐色中粒砂層については奈良期のものと一応考えてよいだろう。

第Iトレンチからは断面精査中にこの暗灰褐色中粒砂層の下から板枠を組んだ井戸状遺構（図版6）が発見された。井戸状遺構といっても簡単な集水槽のようなものである。断面に露呈しただけであるので完掘はせず、保存の為、埋め戻しを行なった。井戸の大きさは一辺50cm、高さ40cm程度のもので、井戸は単に板で四方を囲むという簡単な構造のものである。板枠については一枚板で組みあわせの為の細工はしていない。掘り方の大きさは底辺1m、深さ0.55mに達する。井戸の掘り方は暗灰褐色中粒砂層の下から古墳時代前期の黒褐色粗粒砂層を切っている。完掘していないこともあり、遺物の出土はなく、時期の断定は難しいが、土層からみて奈良時代に属するものであろう。

また第IV区ではこの暗灰褐色中粒砂層の下に灰褐色細粒砂層が南側の断面にあらわれている。この灰褐色細粒砂層は東の断面にもあらわれており、東から古墳時代前期の黒褐色シルト層を寸断するような形で南に流れていたと思われる。この層にも奈良時代の遺物が含まれている。



作業状況



第4図 遺構図・土層断面図

C 8

- 5 黄褐色中粒砂
- 6 黒褐色粗粒砂(シルト質混り)
- 7 暗灰褐色中粒砂
- 8 暗茶褐色中粒砂

- 土層名
- 1 表土
 - 2 腐植土
 - 3 暗灰褐色粗粒砂(シルト質混り)
 - 4 灰褐色粗粒砂

第4章 遺物

1. 土師器(第1図～第17図・図版8～図版19)

発掘調査面積約200㎡に対して、土器の出土量はコンテナ80箱に達する。そのほとんどが黒褐色粗粒砂層から出土した土師器である。調査面積に対して遺物量がきわめて膨大である。しかも遺物は一括遺物が多く、完形品も少なくない。出土遺物については、各トレンチの間で、その器形、器種構成について差異は認められなかったため、ここでは各トレンチの出土遺物を一括して、器種ごとに分類した。

第Ⅲ区の遺物については、すでに仮置場に運び込まれていた土砂の中より採集したものである。

壺A

二重口縁をもつものである。口縁の幅が広く、口縁下端部が突出し、肩がやや張るタイプのものをA₁、口縁は幅が短かく厚手につくられており、肩の張りの少ないものをA₂とした。大きくはこの2つに分けられるが、両者のタイプを折衷したようなものがあり、これについてはA₁の形態に近いものをA₁'、A₂に近いものをA₂'としたが、その区別については必ずしも厳密ではなく、あくまでも便宜的なものである。

壺A₁(1～22)

鳥取県など山陰地方に特有の二重口縁をもつ一群である。幅の広い外反する口縁をもち、口縁下端部は鋭く突出する。口縁端面は平坦で外方に拡張するものが多い。口縁内外面とも丁寧な横ナデを施す。体部内面については、上半部は横方向の削りを行ない、下半部は下方向から削りあげている。器壁は全体に薄く仕上げる。体部は倒卵形になるものが多いが、18は器高に対して胴径が広く球形に近い。底部は丸底である。21のように平底にするものがあり、鳥取県秋草遺跡⁽¹⁾や長瀬高浜遺跡⁽²⁾に類例がある。20は口径が30cmに近くなる大型の壺である。外面にはススが付着する。22はやや大型の器形で肩部に櫛描直線文と櫛描波状文を施す。壺A₁についてはその形態、手法上の特徴から青木Ⅶ期⁽³⁾(布留式併行期)に併行するものと思われる。

壺A₂(23～41)

壺A₁に比べて口縁が短く厚手に作る。口縁外面は強い横ナデにより凹部をつくっている。口縁は外反し、端部は丸くおさめる。肩の張りは少なく、全体に小型である。ハケは縦方向に施すものが多い。頸部の屈曲が長く、口縁を短かく直立させるもの(30～33)もある。また、内面の削りの位置によって壺A₂は2つのタイプに分れる。すなわち削りの

位置が低く、頸部内面がゆるやかに屈曲し口縁部に続くもの(23~33)と削りの位置が高く、頸部内面に鋭い稜をもつもの(34~41)がある。後者は肩の張りがほとんどなく、体部は頸部から直線的に下方に落ちてしまうものが多い。甕A₂は丹後地方の擬凹線をもつ弥生式土器の系譜を引くもので、京都府裏陰遺跡、橋爪遺跡、曾我谷遺跡にみられる。擬凹線を消失した段階のものとして、庄内式に併行すると考えられている。これについては次章で検討を加えたいと思うが、庄内期に比定されている橋爪遺跡、曾我谷遺跡のものは平底をもつものに対して、当遺跡から出土した甕A₂はこれに対応する平底の底部は採集されておらず、甕A₂は丸底の底部をもつと考えられる。これらの遺跡から出土したものは時期にやや差があるものと思われる。

甕A₁' (42~49)

甕A₁とA₂の中間的な形態であるが、甕A₁的な要素が強いものを一応甕A₁'とした。二重口縁をもつが、口縁下端部は突出せず、丸くおさめる。肩部が張り、やや大型の器形である。45はやや直立する口縁をもつが肩の張りは小さい。47は甕A₂的な口縁をもつが、肩がやや張るタイプである。49は直立する幅の広い口縁をもつが、肩はほとんど張らない。

甕A₂' (50~55)

甕A₁とA₂の中間的な形態をもつもののうち、甕A₂的な要素が強いものである。小型のもので肩の張りが比較的小さい。50・54はやや斜め上方に伸びる口縁をもち、下端部をわずかに突出させている。55は口縁外面を強く横ナデして、口縁外面に凹部をつくり口縁下端部を突出させている。

その他 (57~62)

口縁内面はくの字状に屈曲するが、口縁外面に凹部をもち二重口縁風にするもの(57・58)や頸部を強くなるもの(59・61・62)がある。57・58は出石神社遺跡にも出土例がある。また60は口縁部が直立し、断面が三角形になる。口縁外面に斜め方向のハケがあり、京都府久美浜町橋爪遺跡に出土例がある。

甕B

口縁部が内彎気味に屈曲する一群である。口縁部内面が肥厚し、いわゆる布留式土器にみられる特徴をもつもの(B₁)、内面が肥厚せず、口縁端面を平坦にするもの(B₂)、口縁端面を上方につまみあげるもの(Ba)がある。

甕B₁ (63~92)

口縁部内面が肥厚するものである。体部上半には横ハケを施し、体部下半には縦方向のハケを施す。内面にはヘラ削りを施す。肩部に刺突文を施すもの(63・64・65)がある。口縁は直線的に斜め上方に伸びるもの(76・77・79・84・91など)と内彎気味に丸味をもつて伸びるもの(68・73・74・80・92など)がある。また口縁端面が平坦なもの(66~79)

と肥厚部が内側に長く傾斜するもの(80~92)がある。前者の方は全体に薄手で整形が丁寧である。後者の方は厚手でつくりはやや雑である。

変B₂ (93~98)

内彎気味の口縁をもつ。口縁端面は平坦で、外側に傾斜する。口縁端面内面は肥厚しない。体部内面はヘラ削りである。

変B₃ (99~103)

口縁端部を上方につまみあげる。口縁は頸部から大きく屈曲し、受け口状になる。外面は縦ハケを施し、体部内面はヘラ削りを施す。101には刺突文が施されている。

変C

口縁部がくの字形に屈曲する甕である。変Bのように口縁が内彎するのではなく、外反するものである。

変C₁ (107~115)

口縁端面が平坦で外傾する。体部外面は縦方向のハケを施している。内面はヘラ削りを施すが、128についてはハケを施している。

変C₂ (116~131)

口縁の外反の程度がC₁よりも強く、口縁端部を丸くおさめる。116から124の甕は口縁の外反の度合いが一層強く、口縁端部を下方に折り返す。この為口縁内面が上方を向く。体部内面はヘラ削りを施す。119については内面にハケを施している。124から131の甕については口縁端部は丸くおさめるが、口縁の外反度は前者ほど極端ではない。125は肩の張りがほとんどなく、頸部から胸部上半にかけて直線的にのびる。鳥根県タテチヨウ遺跡⁽⁹⁾に類似例がある。127は算盤形になる器形で、内面はハケ調整。129から131については肩部から胸部にかけて丸味をもつ。

その他 (132~136)

頸部が長く、短い口縁部をもつ132・133などがある。

変D

変D₁ (137~143)

やや斜めに立ちあがる口縁をもつ。体部は楕円形に近い。いずれも胎土は粗く、器壁は厚い。体部外面に粗いハケを施す。整形はきわめて雑で、内面に粘土ヒモの雑目跡がそのまま残されているものがある。内面のヘラ削りは下から上の方に削りあげられている。

変D₂ (144~147・150)

やや斜めに立ち上がる口縁をもつが、D₁に比べて口径が広くやや大型の器形になる。いずれも外面にススが付着する。その他、口縁が長く、外反するもの(144)や口縁が短かく胴が大きく張るもの(148)や直口で体部が丸味をもつもの(149)などがある。

壺A

壺A₁ (151~162)

二重口縁をもつ。口縁は外反し、口縁端部を平坦にするものが多い。口縁下端部は鋭く突出し稜をもつ。頭部は下方に長くのびる。151・155のように肩部に横線直線文をもつものがある。口縁内外面とも横ナデを施す。体部内面はへら削り。頭部に縦ハケが残るもの(151・153・161)がある。153は内面にハケ痕が残る。

壺A₂ (163~166)

二重口縁をもつが、口縁下端部が下垂する。口縁はA₁よりも外反度が強い。163の口縁外面には竹管文が1つ施されている。164は整形が粗く、口縁内面にも粗いハケが残り、口縁下端部は断面三角形の突帯を貼りつけたものである。166は口縁部を欠くが、頭部外面は縦ハケ、胴部は横方向のハケを施す。内面のへら削りの位置はきわめて低い。

壺A₃ (167~170)

幅の広い二重口縁をもつ。167・168の口縁部は大きく外反する。169は口縁端部内面が肥厚する。170については口縁端面が平坦で外側に傾いている。

壺B (171~174・176)

口縁の幅は短かく、直立または外反する。171は短かく外反する二重口縁をもつ。これに対して172は同様の二重口縁をもつが、171に比べて口縁はあまり外反せず、体部外面は目の粗いハケを施す。174は短かくほぼ直立する口縁をもつ。176は口縁下端部が外方に突出し、上端が内傾する大型の壺である。肩が張るが、胴の張りが少ない。外面に細かいハケを施し、体部内面は肩部については横方向、胴部については下からの削りを行なう。

壺C (180~185)

口縁が内傾し、口縁の下端部が斜め下方に鋭く突出する。口縁部や頭部外面に刺突文や竹管文を施すのが特徴的である。兵庫県朝来郡朝来町ミゾ谷古墳出土と伝えられている壺棺、鳥取県秋里遺跡などに類例がある。185は竹管文と組み合わせたS字状のスタンプをもつ。S字状のスタンプ文は、島根県松本1号墳出土の壺や京都府谷堀遺跡出土の特殊円筒形埴輪に類例がある。

壺D (186~188)

直口系統の壺である。口縁はやや斜め上方に立ちあがる。188は二重口縁を意識しており、口縁と頭部の間に断面三角形の突帯を貼りつけている。186と187は同一個体になるものと思われる。187は底部をわずかに平底にする。器壁は非常に薄い。鳥取県秋里遺跡や鳥取県長瀬高浜遺跡に同様の壺が出土している。

壺その他 (175・177~179・189~193)

口縁がわずかに内面に拡張し、胴の張りが極めて小さいもの(175)、長い頸部をもち、

口縁が内傾するもの(177)、直口系統のもの(190・191)がある。

高杯

杯部はその形態によって次の3つに分類した。すなわち、下半部に稜をもつもの(A)、下半部に稜はもたず、底部からゆるやかに屈曲しながら、上部で大きく開くもの(B)、また、これらに比べて小型のもので、器壁は厚く外面に粗いハケを残すもの(C)がある。数量的にはA形態、B形態に対して、C形態のものが圧倒的に多い。また、脚部については分類せず、一括して説明を加えた。

高杯A(197・200~203)

体部下半に稜をもつもので比較的大型の高杯である。200の脚部は太く短かい柱状部をもち、裾部は柱状部から屈曲して広がる。201は下半分を作った後、上半部を乗せている。上半部と下半部の接合部には断面三角形の突帯を貼りつけている。203は口縁部が大きく外反するもので秋里遺跡に類例がある。

高杯B(204~207)

底部からゆるく彎曲しながら上方で外に大きく開く杯部をもつ。器壁は薄く、胎土は精良であり、内外面のヘラ磨きが顕著である。脚部は柱状部からゆるやかに開く。204の脚は外面に細かいハケ痕が残る。

高杯C(194~196・198・199・208~218)

浅い杯部をもち器壁は全体に薄手に仕上げるもの(209・210)と器壁は厚く、やや深めの杯部をもつものがある。後者は胎土は粗く、外面に粗いハケの痕を残すものが多い。底部から屈曲して外反するもの(208・216・217・218)とほとんど屈曲しないもの(212・214・215)がある。199は中実の脚部をもち、杯部が塊状に丸味をもつ。

その他(219・278・279)

ガラスコップ状の杯部をもつもの(219)がある。また278・279は底部から丸く内彎気味に立ちあがり、口縁部で外反する。京都府裏陰遺跡に類例がある。

高杯(脚部)(220~234)

柱状部から屈曲して裾部に続くもの(220・221・222・230)や柱状部から大きく屈曲して裾部に続き、裾部から水平に近くなるもの(224・226・227・228)がある。このほか裾部にかけてほとんど屈曲せずゆるやかに八の字状に広がるもの(225・231・233)がある。225はやや厚手のもので、裾部は大きく開く。234は上部に塊状の杯をもつ脚部である。透しは全くないものや1つだけのもの、2つもつもの、また3つもつものがある。

器台

器台には丹後地方の弥生時代からの系譜を引く器台A₁・A₂と山陰地方のいわゆる鼓形器台と呼ばれている器台Bがある。

器台A₁ (237~240)

くの字形に開くもので、複合する口縁をもつ。口縁部を擬口縁に貼りつけて、口縁下部を下垂させるもの(237・239)、口縁部に断面三角形の突帯を貼りつけ、下部部を下垂させるもの(238・240)がある。237は口縁部外面に細い擬凹線を施している。脚部柱状部内面はしぼり、裾部はハケを施している。脚部外面と口縁部内面はヘラ磨きを施している。四方通しである。238~240は内外面ともヘラ磨きを施している。

器台A₂ (235・236)

くの字形に大きく開くもので、口縁部は受部から屈曲するが、A₁のように下垂しない。235はやや小型のもので脚部内面にはハケ目が明瞭に残る。236は内外面ともヘラ磨きを施している。

器台A・脚部 (241~243)

外面はヘラ磨きを施すが、裾部内面にはハケを施す。243は裾部外面にハケを施している。通しには4方通し、3方通し、2方通しがある。

器台B (244~248)

上台は脚台より径が大きく、口縁部は外反する。上台内面はヘラ磨きを施す。脚台内面はヘラ削りを施し、裾部については横ナデしている。244・245は上台と脚台の接合部の間隔が広い。248は器高が低く、扁平な感じを受ける。

小型精製土器

小型丸底壺 (249~257)

胴部の最大径が口径に対して等しいか、それを上まわる。頸部がくの字形に大きく屈曲し、口縁が斜め上方に伸びるもの(249~252・257)と頸部はあまり屈曲せず、口縁が直上、若しくはわずかに斜めに立ちあがるもの(253~256)がある。体部外面はハケ調整を施し、内面をヘラ削りするものが多い。252は体部が算盤形になるもので、体部下半部にハケ調整とヘラ削りを行なう。256は京都府裏陰遺跡に類例がある。

小型器台 (258~260)

くの字形に大きく開くもの(258・259)と、口縁が短かく直立するもの(260)がある。前者はそれぞれ器台A₁とA₂を小型化したものである。

小型高杯 (261~265)

261の杯部は底部からゆるやかに上方に伸びるもので、口縁はやや外反気味になる。形態としては高杯Cを小型化したものである。262・263は体部下半に稜をもつもので、口縁は大きく外反する。高杯Aを小型化したものであり、262は高杯203、263は高杯202に共通する形態である。この他ミニチュアのグラス状高杯(264)がある。265は出石神社遺跡に類例がある。

低脚杯 (266~275)

器高に対して口径が小さく、体部が底部から大きく屈曲してやや直上方向に伸びて碗状になるもの(266・267)と底部からほとんど屈曲せず斜め上方に大きく開き皿状になるもの(268~275)がある。脚部については外方に大きく広がるものと短かくふんばるものがある。

鉢形土器

鉢A (276~277)

斜め上方に大きく広がる口縁をもつ。口縁は体部から屈曲して続く。内外面に磨きを施す。276は口縁外面に盤凹線をもつ。

鉢B (280~290)

小型の鉢である。底部は丸底ないしは小さい平底をもつ。体部内外面ともハケを施すもの(280・283)と外面をハケ調整、内面にヘラ削りを施すものがある。また、280~282のように口径が広く、体部が斜め上方に大きく広がるものと、283・286のように口径が小さく、体部が直上方向に伸びるものがある。

台付鉢脚部 (293~304)

外方にふんばる短い脚である。体部は脚からゆるやかに立ちあがっていくもの(298・301)と脚から急角度で上方に立ちあがっていくもの(299・300・302)がある。303は大型のもので短くふんばる脚をもち、内面はヘラ磨きを行なっている。脚部外面にヘラ磨きを行なうもの(288・293)とハケ目を残すもの(289・294・300)がある。脚部のつくり方は、次章で述べるとおり、弥生式土器の高杯の製作法にみられるように、脚部と体部を連続的につくり出し、内面の穴を粘土円板で充填するもの(296・300・301・302)がある。296は上方と下方の両サイドから粘土円板を充填している。

甕形土器 (291・292・317)

291は小さな平底、292は丸底である。いずれも穿孔は1つである。291は穿孔に2度失敗し、最後に横から穿孔している。穿孔は291については焼成後、292については焼成前に行なっている。317はいわゆる山陰型の甕形土器である。外面にハケ調整を行ない、口縁部内面は横ナデ、体部上半については横方向のヘラ削り、下半については下からの削りを行なっている。

小型粗製土器 (305~309)

305・306は小型の鉢型土器である。306には口縁外面と内面底部に指押さえの痕がある。305は平底風であり、306は丸底である。307~309はいわゆる手づくね土器である。307は小型の甕形土器を模したもので、くの字形に屈曲する口縁をもち、底部は平底である。308は同じく口縁は頸部からくの字形に屈曲するが底部は平底である。309は小さな鉢を模

したもので、内外面には指押さえ痕が明瞭に残る。

蓋型土器 (310~316)

つまみ上端部を斜め上方につまみ上げ、中央部を凹状にするものが多い。体部はつまみの下部からややそり返るようにして口縁部に続く。内外面ともハケ調整を行なうものが多いが、311と316の外面にはヘラ磨きを行なっている。315は直立するつまみと笠形に彎曲する体部をもつ。

2. 弥生式土器 (第17図・図版18・図版20)

318から322までは口縁部に擬凹線を施すもので、弥生後期から庄内併行期に比定されるものである。内面の整形については318・322はハケ、319・321はヘラ磨き、320はヘラ削りを施す。胎土はいずれも精良である。体部の張りはほとんどない。322の口縁は直立する。その他、弥生時代中・後期の土器323~330が出土しているが、点数はごくわずかである。

3. 須恵器 (第18図・図版21)

古墳時代の須恵器

杯A (331~334) は立ちあがりが高く内傾する。蓋には口縁内面にかえりのつくもの(336)がある。杯B (337~339) は小型のもので、蓋と杯身が逆転したものである。表探資料の為、時期的にばらつきがあると思われるが、全体的には杯と蓋が逆転した陶器の⁽¹³⁾TK217の頃に比定されるものが多い。

奈良・平安時代前期の須恵器

蓋Cにはやや小型のもの(343・345)と大型のもの(344・346)があり、つまみには偏平なものと宝珠形のものがある。天井部はヘラ削りを施し、口縁端部は鋭く屈曲する。347・348は口径の広い皿であり、底部の切り離しはヘラ切りである。348の口縁はわずかに外反する。杯C (349~352) は平底の杯で、底部の切り離しはヘラ切りである。底部と体部の境が明瞭なもの(351・352)と底部と体部の屈曲部が丸く、境がやや不明瞭なもの(349・350)がある。杯Dは付高台をもつ一群である。体部が付高台より、やや横に張って斜め上方に立ちあがるもの(353~355)と体部が付高台より直ちに斜め上方に立ちあがるもの(356)がある。後者については底径が小さく、壙形に変わる前の段階の杯である。357~360は大型の杯、361は大型の皿である。個々の遺物についてはやや時代幅があると思われ、蓋類のように古い形態をもつものもある一方、356のように新しい形態をもつもの

のもある。時代的には8世紀中葉から9世紀前半のものであろう。

平安時代中・後期の須恵器

埴A (362・363・365) は糸切りの平底に高台を貼りつけたものである。363は高い高台をもち、底部内面に沈線を円形(直径4mm)にめぐらしている。出石神社遺跡にも出土例がある。364は糸切り平高台をもち、高台側面はヘラで整えている。

4. 石 器 (第19図・図版20)

砥 石

いずれも砂岩系統の石である。1は大型のもので上面、下面、両側面とも使用している。特に上面、下面がよく使用され、硯石のような形になっている。2は上面、下面ともよく使用している。上面には細い擦痕が何本かある。3は上面、下面ともよく使用され偏平になっている。

註(1) 鳥取・秋里遺跡 I 鳥取市教育委員会 昭和51年

(2) 長瀬高浜遺跡発掘調査報告書 I～IV 鳥取県教育文化財団 昭和56年～昭和57年

(3) 青木遺跡発掘調査報告書 I～III 鳥取県教育委員会 昭和51年～昭和53年

(4) 真除遺跡発掘調査概報 京都府大宮町教育委員会 昭和54年

(5)-1 「橋爪遺跡発掘調査概要」 埋蔵文化財発掘調査概報 京都府教育委員会 昭和56年

(5)-2 黒田恭正 杉本 宏 「京都府久美浜町橋爪遺跡出土の土器について」 古代文化33巻第3号 昭和56年

(6) 曾我谷遺跡発掘調査概報 園部町教育委員会 昭和52年

(7) 第2章 註(2)に同じ

(8) 註(5)-2に同じ

(9) タテチョウ遺跡発掘調査報告書 鳥取県教育委員会 昭和54年

(10) 立脇トウスガ谷古墳群 一第2号墳の調査— 朝来郡朝来町教育委員会 昭和54年

(11) 松本古墳調査報告 鳥根県教育委員会 昭和38年

(12) 「谷垣遺跡」 中上司遺跡発掘調査報告書 加悦町教育委員会 昭和54年

(13) 田辺昭三 「陶器古窯址群 I」 平安学園考古学クラブ 昭和41年

第1表 出土遺物個体数表

	I	II	III	IV	小計	総計
甕 A ₁	3	96	183	37	319	1,188
" A ₂	4	30	50	36	120	
" A ₁ ' A ₂ '	2	26	21	9	58	
" B ₁	12	142	251	81	486	
" B ₂	2	8	17	10	37	
" B ₃	3	12	18	5	38	
" C	5	19	43	10	77	
" D	4	11	29	1	45	
壺 A ₁	2	9	37	10	58	
" A ₂	2	4	6		12	
" A ₃		3	2		5	
" B		4	6	3	13	
" C		3	11	3	17	
" D		2	2	3	7	
高杯 A	2(1)	3	4(1)	4	13(2)	193+(7)
" B	3	5(1)	4	2	14(1)	
" C	6(2)	6(1)	3(1)		15(4)	
" 脚部	11	55	90	37	193	
器台 A ₁	2	2	4		8	44
" A ₂	2	14	14	6	36	
" B完形		(2)	(2)	(1)	(6)	
" B杯部	3	11	26	11	51	
" B脚部		7	20	2	29	
小型丸底壺	8	7	12	11	38	38
鉢	1	26	20	6	53	53
台付鉢脚	3	19	20	10	52	52
低脚杯	2		8	1	11	11
蓋形土器		5	11		16	16

- (註) 1. 個体数については、破片の大小にかかわらず、識別可能なものをすべて選び出した。
 2. 各器種において、いずれのタイプに属さないものについては、表から除外してある。
 3. () については、完形品の個体数を示す。
 4. 高杯の総計については、脚部の個体数をそのまま用いた。
 5. 器台Bについては、正確な個体数が出せないで総計の欄については空白にした。

第5章 まとめにかえて

1. 高杯の製作法について

当遺跡での高杯及び台付鉢の脚部の接合法について、2、3気がついた点があるので、若干の説明を加えておきたい。⁽¹⁾

まず、高杯の杯部と脚部の接合法については次の2つの方法がある。1つは、杯の底部に脚部を差し込む方法であり、いわゆるソケット式に近い方法である。杯はあらかじめ、底部に穴をあけて成形し、その穴に脚部を差し込んでいる。脚の中空部上端には粘土を詰め込み穴をふさいでいる。詰め込む粘土はあらかじめ下面を球形に整形したもの（図版22、207・366・367）と整形をせず、単にそのまま中空部に押し込んだもの（図版22、208）がある。杯部の穴が大きすぎた場合は、202（図12）のように、差し込んだ脚部と杯部のすき間に粘土をつめている。また215（図版22・図13）のように中実の脚部を差し込んでいられると思われるものもある。

脚部の接合法の2つめは杯の底部に脚部を単に接着させただけのものである。脚接合部周囲は粘土で固め、脚を固定させている。368（図版22）は粘土を底部全体に大きく広げて、脚部を固定させている。

このほかの特徴として、杯底部外面に、下方から突き刺した3mmから5mm程度の小さな穴がある。山陰地方の高杯に一般的にみられるものである。穴の深さは368（図版22）のように深くあけられているものや274（図版22）のように浅いものがあり、一定しない。穴はほとんどの高杯にみられるが、199（図版12）、225（図版13）のように脚の上部が中実になっているものについては、このような穴はみられない。穴のかわりに半截竹管をあてたような痕跡がみられるものがある。底部の穴は脚の中空部に粘土をつめ込む時に、棒状のものを下からあてがったことも考えられる。しかしながら、316（図版22）のように上と下の両方から穴があけられているものもあり、また、368（図22）のように粘土を充填しないものにも穴が見られるなど、上記の考えについては必ずしも的を得ているとは思われない。いずれにしても、このように底部に穴のみられる高杯については、その分布範囲、時期の検討も含めて考慮すべきであろう。またそれとともに、先に述べたような高杯の成形手法が鳥根や鳥取などの山陰地方でも共通して行なわれているのか否かという検討も必要であろう。

高杯には以上のような製作手法が見られたが、台付鉢については次のような成形手法が

見られた。すなわち台付鉢296・300～302の観察結果によれば、体部と脚部は別々に成形せず、体部から脚部にかけて、連続して成形し、粘土円板を充填して仕上げている。いわゆる弥生時代の高杯の成形手法に見られる円板充填法に似ている。先にみた高杯とは異なった成形手法を用いており、このような成形手法の違いは時期差によるものかどうかは不明であるが、注目してよい。

2. 遺物の検討

遺物は山陰系、丹後系、畿内系の3つの系統の遺物が混在している。時期的には畿内の口縁端部内面が肥厚した甕に代表される布留式併行期に求められるが、なお、山陰、丹後地方の土器編年の問題もあるので、遺物の時期について検討を加えてみる。

出土遺物の器種構成についてみると、秋里遺跡や青木遺跡など山陰地方の土器と共通するものが多い。代表的なものとして甕A₁・壺・高杯・器台B・甕形土器(317)などがある。器台Bの244・245や壺178などに古い形態のものがみられるが、全体としては布留式併行期に比定されている青木Ⅷ期の時期に求められる⁽²⁾。

一方、甕A₂は丹後地方にみられる甕である。口縁部に縦凹線をもった弥生式土器の系譜をもつものであり、口縁部の縦凹線を消失し、ナデ調整を施したものである。このタイプの甕の時期については従来より、弥生第5様式後半に求める見解や庄内式、あるいは布留式に求める見解などがあり、きわめて流動的であった。最近の京都府園部町曾我谷遺跡では、庄内式に比定されており、甕A₂のタイプの時期については一応、庄内併行期のものとする見方が一般的である。

しかしながら、当遺跡では先述のとおり、甕A₂は畿内の布留式の土器と共伴しており、上記の遺跡の調査結果とは異なっている。もちろん出土遺物は旧流路からの出土であり、時期の異なるものが混在している可能性がある。この点については、確かに、古い時期に属するものとして、この甕A₂のほかには蓋形土器⁽⁷⁾、前述の器台Bの244・245や壺178などがある。しかし、これらの出土点数はごくわずかであり、これとセットになる壺・高杯などは明らかに布留式に併行するものである。甕A₂だけが庄内の時期に属していたとは考え難い。第4章で述べたとおり、甕A₂の底部は丸底と考えられるのであり、叩きをもち、平底の底部をもった曾我谷遺跡などの甕とは明らかに時期を異にしているものと思われる。縦凹線を消失した甕A₂は、弥生時代後期、もしくは庄内という一時期に限定されるのではなく、恐らくその存続期間に幅があるのであって、その形態については布留式併行期までは確実に残るものと考えて差しつかえなからう。

また、このほか丹後系統のものとして器台Aがある。器台Aは出石町大谷西の谷遺跡や⁽⁸⁾

日高町称布ヶ森東遺跡出土の器台に続く系統のものである。この器台Aと九重式に祖型をもち、明らかに系譜の違う器台Bが混在していることは注目値する。

一方、畿内系統の土器には甕B₁や小型丸底壺がある。甕B₁には口縁端面が平坦で、内側に丸く小さく肥厚するものと肥厚部が内側に長く傾斜するものがある。後者の方が新しい要素と考えられているが、⁽¹⁰⁾いずれも流路内より混在して出土しており、時期差の有無については、今回の調査では明確にし難い。

小型丸底壺については⁽¹¹⁾253のように船橋遺跡のK-1出土のものと同様のものもあるが、全体に口径に対して体部の径が上まわっており、同じ船橋遺跡のO-1の小型丸底壺に共通するものが多い。小型丸底壺をみる限りは、布留式のうちでも、それほど古い段階に置くことはやや難しい。

但馬地方の古式土師器については石野氏の研究があるが、それ以後については出土資料も少なく、実際に集落址等の発掘例がきわめて少ないことから、ほとんど進展をみせていない。今回の田多地小谷遺跡のように多量の遺物が出土したのは、但馬地方で初めてであり、資料的な価値を充分にもつものと思われるが、旧流路からの出土という問題点もあり、いずれにしても今後の資料の増加に期待せざるを得ないであろう。

3. おわりに

今回の発掘調査では、旧流路内から多量の土師器が出土し、完形品もかなりの点数にのぼる。第1表の個体数表にみるように、なかでも高杯の出土量はきわめて多く、その数は200個体をこえる。手づくね土器が出土している点や図版6のように流路の肩口に高杯と小型丸底壺が重なって出土している状況などから、遺構の性格として、水に対する祭祀が行なわれた可能性もある。このような例としては、⁽¹²⁾加東郡社町の家原遺跡がある。⁽¹³⁾周辺の水田は古い時期に耕地整理されているので、この付近の旧地形は残念ながら復元できないが、集落は背後の丘陵から伸びる微高地上か、あるいは川の自然堤防上に営まれていたであろう。

また、前節で述べたとおり、当遺跡からの出土遺物の器種構成からみると山陰系統の土器の占める割合が高いが、甕B₁にみるように、畿内の影響も強く受けている。これに対して甕A₂など丹後系統の土器の占める割合は前二者に比べてきわめて低い。器台についても、それまでの伝統的な丹後系の器台に対して、山陰系の鼓形器台が新たに加わっている。丹後地方では布留式壺の出現段階になると、それまでの丹後の様相は払拭され、山陰系と畿内系の二者に統一されてくるようであり、⁽¹⁴⁾当遺跡についてもこの傾向が強く現われている。このような傾向がどのような社会的状況を意味するかは明らかではないが、当

地域には、出石屯倉の設置が推察される地名（旧出石郡神美村三宅⁽⁶⁸⁾）が残されており、年代的なずれはあるが、このような事実は、古くから畿内の勢力が進出していたことの1つの裏づけにならう。遺跡周辺には多くの古墳が群集し、鏡の出土もきわめて多い。有力な在地集団がこのあたりに居住していたことが想定されるが、このような在地集団と畿内勢力がどのような関係を保っていたのか、今後改めて検討を加えることが必要であろう。

また、当遺跡からは古墳時代前期の土師器のほか、須恵器も多く出土している。その多くが奈良・平安時代に属するものである。その中には墨書土器も2点含まれている。今回の井戸状遺構程度のもものでは、とても官衙の一部とは言い難いが、付近にあるいは官衙的な遺跡の存在も考えられる。須恵器についてはかなりの個体数が出土したが、時間的余裕がなかった為すべてを整理するには至らず、その一部について実測、図化したものを掲載しただけである。整理が完了すれば何らかの形で公開する機会をもちたい。

註(1) 岸本一宏の協力、教示を得た。

(2) 鳥取県、清水真一氏 野島珠美氏に御教示いただいた。

(3) 釈島雄 林和宏 奈良遺跡発掘調査報告書 弥生町教育委員会 昭和47年

(4) 神尾恵一 「京都府竹野川流域（中郡）の弥生式遺跡」 同志社考古9 昭和47年

(5) 片岡 肇 「第1号土壌」 桑飼下遺跡発掘調査報告 京都平安博物館 昭和50年

(6) 平良泰久他 曾我谷遺跡発掘調査概報 園部町教育委員会 昭和52年

(7) 通常、布留の段階では伴わない器形であり弥生式土器もわずかながら出土していることから弥生式土器に伴う可能性もあるが、桑飼下第1号土壌（註5）からは当遺跡でみられるような器形に混って蓋形土器が出土している。

(8) 渡辺 昇 「出石郡出石町西の谷遺跡出土器台」 兵庫考古7号 昭和54年

(9) 「柿布ヶ森東遺跡」 日高町史資料編 昭和55年

柿布ヶ森東遺跡の器台については弥生後期もしくは庄内式といわれており、当遺跡出土の器台はその形態からみて後出のものであろう。

(10) 木下正史 「飛鳥地方出土遺物について」 埋蔵文化財技術者交流会 第5回研究会記録 昭和54年

(11) 田辺昭三 「船橋遺跡の土器の研究」 昭和34年

(12) 石野博信 「但馬の古式土師器」 兵庫県埋蔵文化財集報2 兵庫県社会文化協会 昭和49年

(13) 大平茂より教示を得た。

(14) 国道176号線社バイパス工事に伴う埋蔵文化財調査 昭和56年

溝上面より高杯と小型丸底壺が集中して出土している。吉織雅仁より教示を得た。

(15) 杉原和雄 裏塗遺跡発掘調査概報 京都府大宮町教育委員会 昭和54年

(16) 現在は豊岡市に編入されている。

第2表 出土遺物觀察表

土師器・弥生土器

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区	
壺形土器	A 1	1	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は斜め上方に立ち上がり、口縁下端部は鋭く突出する。 口縁端部は丸くおさめる。 口縁部と頸部の接合部内面はあまり屈曲しない。 肩部には櫛歯直線文。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面には縦ハケの痕がある。 内面へら削り。 器壁は薄く仕上げる。 	スス付着	Ⅲ区
	2	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は斜め上方に立ち上がり、口縁下端部は鋭く突出する。 口縁端部は外反し、端面は平坦。 肩部に櫛歯波状文。 頸部は大きく屈曲し体部に続く。 口縁部と頸部の接合部内面は、大きく屈曲する。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 口縁は内外面ともていねいに横ナデ。 器壁は薄く仕上げる。 		Ⅲ区	
	3	<ul style="list-style-type: none"> 肩部に櫛歯波状文 口縁端部は丸くおさめやや外反。 口縁部と頸部の接合部内面は大きく屈曲。 	<ul style="list-style-type: none"> 肩部に横方向と斜め方向のハケ。 内面へら削り。 器壁は薄く仕上げる。 		Ⅲ区	
	4	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は斜め上方に立ち上がり、口縁下端部は鋭く突出する。 口縁端部は平坦。 肩部に櫛歯波状文。 口縁部と頸部の接合部内面は大きく屈曲。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 へら削りの位置は低い。 器壁は薄く仕上げる。 		Ⅲ区	
	5	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は斜め上方に立ち上がり、口縁下端部は鋭く突出する。 口縁端部は平坦で外傾。 肩部に櫛歯波状文。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 口縁部外面は横ナデによる凹凸がある。 	全面スス	Ⅲ区	
	6	<ul style="list-style-type: none"> 口縁はやや直立する。 口縁端面は平坦。 口縁端部はやや外反する。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部外面は横ナデによる凹凸がある。 器壁は薄く仕上げる。 		Ⅰ区	
	7	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦。 口縁部は斜め上方に立ち上がり、口縁下端部は鋭く突出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面には斜め方向のハケ。 体部内面へら削り。 	スス付着	Ⅰ区	
	8	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦で外傾。 口縁は斜め上方に立ち上がり、口縁端部は外反する。 口縁下端部は斜め下方に突出する。 頸部は大きく屈曲し、口縁に続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部内面へら削り。 口縁内外面ともていねいな横ナデ。 		Ⅳ区	
	9	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部は平坦で外傾。 頸部は大きく屈曲。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面に横方向のハケ。 	スス付着	Ⅲ区	
	10	<ul style="list-style-type: none"> 口縁下端部はあまり突出しない。 口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦ハケの後、横ハケ。 	スス付着	Ⅲ区	
	11	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦でやや外傾する。 口縁端部はやや外反。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 		Ⅲ区	
	12	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部はやや外反。 口縁部は斜め上方に立ち上がり、口縁下端部は鋭く突出する。 口縁端部は丸くおさめる。 頸部は大きく屈曲する。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦ハケの後、横ハケ。 整形はていねい。 	スス付着	Ⅲ区	

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区
A 1	13	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部は外反。 頸部は大きく屈曲する。 	<ul style="list-style-type: none"> 肩部は縦ハケの後、横ナデを施している。 	胎土良好	Ⅲ区
	14	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部は丸くおさめる。 口縁部は斜め上方に立ち上がる。 口縁下端部は鋭く突出する。 頸部は大きく屈曲。 	<ul style="list-style-type: none"> 斜め方向のハケ。 内面へら削り。 		Ⅲ区
	15	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦で外傾。 肩部は丸味をもって胴部に続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部内面に凹部。 肩部ハケの後、横ハケ。 胴部縦ハケ。 		Ⅲ区
	16	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦でやや外傾。 口縁下端部は磨減により丸くなっている。 肩の張りは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 肩部は縦ハケの後、横ナデ。 		Ⅰ区
	17	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦で内傾。 口縁端部は外反。 	<ul style="list-style-type: none"> 肩部に縦ハケ残る。 		Ⅱ区
	18	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部は平坦で外傾。 頸部は大きく屈曲。 頸部と口縁部の接合部内面は強くナデて凹部をつくる。 底部は丸底。 	<ul style="list-style-type: none"> 胴部上半は縦ハケの後、横ナデを施して消す。 胴部下半は一面にススが付着している為、ハケは見えず。 内面はへら削り、底部内面は指押え痕が残る。 	完形 図版 8	Ⅳ区
	19	<ul style="list-style-type: none"> やや外反気味の口縁をもつ。 胴部の最大径はやや上の方にある。 口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部上半は横方向のハケ。 	口縁部にややひずみ 一部にスス 図版 8	Ⅱ区
	20	<ul style="list-style-type: none"> 大型の甕。 口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面はハケ状工具による削り。 	全面にスス 付着	Ⅱ区
	21	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面に細かいハケ。 口縁端部は平坦で外傾。 底は平底風。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り、下から上へ削る。 肩部はハケの後、横ナデ。 	完形 図版 8	Ⅱ区
	22	<ul style="list-style-type: none"> 肩部に櫛状直線文と櫛状波状文。 	<ul style="list-style-type: none"> 肩部と胴部にハケ痕残る。 器壁は薄い。 	図版 19	Ⅱ区
A 2	23	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部は丸くおさめ、外反する。 口縁外面は強くナデて凹部をつくる。 体部の肩はほとんど張らない。 口縁部は厚くつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面は粗いへら削り。 		Ⅲ区
	24	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は短く厚く、下端部は丸くおさめる。 体部の肩はほとんど張らない。 口縁端面は平坦。 頸部は大きく屈曲。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 	スス付着	Ⅱ区
	25	<ul style="list-style-type: none"> 口縁外面は凹部を有する。 口縁は短く端部は丸い。 体部の張りは少なく、その最大径は口縁の径とあまり変らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦方向のハケ。 内面へら削り。 	頸部を除いてスス付着	Ⅳ区

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区	
壺形土器	A 2	26	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は外反気味。 口縁外面にはやや浅い凹部がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面はやや粗いハケ。 内面へら削り。 	スス付着	IV区
	27	<ul style="list-style-type: none"> 口縁はやや直線的に斜め上方に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面縦ハケ。 内面へら削り。 	スス付着	III区	
	28	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部はやや外反し、丸くおさめる。 口縁部下端には稜がつく。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面は縦ハケが顕著。 	スス付着	IV区	
	29	<ul style="list-style-type: none"> 頸部はあまり大きく屈曲せず、ゆるやかに立ち上がり、口縁に続く。 口縁は短く、まっすぐに立ち上がる。 口縁外面は凹部を有する。 胴部の最大径は口縁の径よりもやや小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面のへら削りはやや粗い。 		II区	
	30	<ul style="list-style-type: none"> 長い頸部から短く立ち上がる口縁をもつ。 口縁端部はやや外反。 やや肩が張る。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 外面横方向のハケ 	図版 8	IV区	
	31	<ul style="list-style-type: none"> 頸部はゆるやかに屈曲し、口縁部に続く。 口縁部は短く立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 肩部に横ハケ。 		IV区	
	32	<ul style="list-style-type: none"> 頸部は上方に長く伸びる。 口縁は短かく、やや斜め上方に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 肩部外面横ハケ。 	スス付着	IV区	
	33	<ul style="list-style-type: none"> 頸部はゆるやかに屈曲。 口縁は斜め上方に伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部と体部内面にハケ。 体部外面に縦ハケ。 		II区	
	34	<ul style="list-style-type: none"> 短い口縁をもち、口縁外面は凹部をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 削りの位置は高く、頸部内面は鋭く屈曲し、稜をもつ。 体部外面は縦ハケの後、横ハケ。 		I区	
	35	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は厚く、外面に凹部。 口縁下端部の稜は甘く鈍い。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面の削りの位置は高く、頸部内面は鋭く屈曲し、稜をもつ。 		III区	
	36	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は斜め上方へ伸びる。 口縁部外面には凹部。 体部はやや直線的に斜め下に伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> 頸部の下より縦ハケ。 内面へら削り。 	スス付着	II区	
	37	<ul style="list-style-type: none"> 口縁外面横ナデ。 口縁下端部は鋭く稜をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 体部の張りはほとんどない。 内面のへら削りの位置は高く、頸部内面は鋭く屈曲し、稜をもつ。 	外面はへら削り風	III区	
	38	<ul style="list-style-type: none"> 口縁はまっすぐ立ち上がる。 口縁端面は平坦。 体部はほとんど張らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面縦ハケ。 内面へら削り。 頸部内面には鋭く稜をもつ。 	スス付着	III区	

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区	
甕形土器	A 2	39	<ul style="list-style-type: none"> 口縁内面はほとんど屈曲しない。 口縁外面に凹部。 口縁下端部は鋭い稜をもつ。 体部はほとんど張らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面のヘラ削りの位置は高く、頸部内面には稜をもつ。 外面縦ハケ。 	スス付着	Ⅳ区
		40	<ul style="list-style-type: none"> 口縁外面に凹部。 口縁下端部は丸くおさめ頸部に続く。 口縁内面は屈曲しない。 体部の肩は張らない。 口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り。 外面縦ハケ 		Ⅳ区
		41	<ul style="list-style-type: none"> 上方に長く伸びる頸部をもつ。 肩は張らず、まっすぐ胴部に続く。 口縁下端部は鋭い稜をもつ。 口縁外面に凹部。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り。 外面縦ハケ。 	スス付着	Ⅲ区
	A 1'	42	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部と頸部の接合部内面は大きく屈曲。 口縁下端部は丸くおさめる。 口縁端面は丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り。 	ススかなり剝離	Ⅰ区
		43	<ul style="list-style-type: none"> やや斜めに立ち上がる口縁をもつ。 頸部の屈曲は大きい。 口縁外面には横ナデによる凹部がある。 口縁下端部は丸くおさめる。 やや肩が張る。 口縁端面は平坦で外積する。 	<ul style="list-style-type: none"> 頸部内面に、ハケ痕が残る。 内面のヘラ削りの位置は高く、鋭い稜をもつ。 		Ⅱ区
		44	<ul style="list-style-type: none"> 口縁下端部は丸くおさめる。 口縁端面はやや外反気味。 口縁部と頸部の接合部内面はほとんど屈曲しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部外面には横ナデによる凹凸がある。 内面ヘラ削り。 	スス付着	Ⅱ区
		45	<ul style="list-style-type: none"> 口縁下端部は丸くおさめ、突出しない。 頸部はゆるく屈曲して、体部に続く。 肩は張らない。 口縁はまっすぐ上方に立ち上がる。 口縁端面は丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面のヘラ削りの位置は高い。 体部外面はハケ。 		Ⅱ区
		46	<ul style="list-style-type: none"> やや斜め上方に伸びる長い口縁をもつ。 口縁端面は丸くおさめる。 口縁下端部は丸くおさめる。 やや肩が張る。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り。 肩部は縦ハケを横ナデにより消す。 口縁内面の屈曲はゆるやか。 	全面スス付着	Ⅳ区
		47	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は丸くおさめる。 口縁はわずかに外反。 口縁下端部は突出せず丸くおさめる。 45に比べてやや肩が張る。 頸部は大きく屈曲して口縁に続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 肩部は横ハケ。 胴部は縦ハケ。 	スス付着 図版 8	Ⅳ区
		48	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は直立する。 口縁端面は丸くおさめる。 頸部の屈曲はゆるやか。 口縁端面は丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 頸部の縦ハケは横ナデにより消されている。 内面ヘラ削り。 外面には細かい縦ハケ。 口縁部外面には強い横ナデ。 	スス付着	Ⅰ区

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区
甕形土器	A1'	49 <ul style="list-style-type: none"> 口縁下端部の稜は甘い。 口縁はやや長く直立する。 肩部はほとんど張らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へう削り。 	スス付着	Ⅱ区
	A2'	50 <ul style="list-style-type: none"> 口縁下端部はわずかに突出する。 肩はわずかに張る程度。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁内面にハケ痕。 口縁外面横ナデ。 		Ⅲ区
		51 <ul style="list-style-type: none"> 頸部内面は屈曲し、稜をもつ。 口縁外面横ナデ。 口縁下端部は稜をもつ。 胴部の張りはほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面はへう削り。 		Ⅲ区
	52 <ul style="list-style-type: none"> 口縁は短くやや外反気味。 口縁下端部は稜をもつ。 胴部の最大径は口縁部の径より小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁外面は横ナデ。 体部内面へう削り、上半は横方向、下半は下からのへう削り。 	口縁と体部にスス付着	Ⅱ区	
	53 <ul style="list-style-type: none"> 直立する口縁をもつ。 口縁下端部は鋭く、やや下方に下がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へう削り。 外面はススのため整形痕見えず。 	スス付着	Ⅱ区	
	54 <ul style="list-style-type: none"> 頸部はやや屈曲。 口縁はやや外反気味に立ち上がる。 口縁下端部はやや突出する。 体部は丸稜をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁外面は横ナデによる凹凸がある。 外面は縦ハケ。 内面はへう削り、上半は横方向、下半は下からのへう削り。 		Ⅱ区	
	55 <ul style="list-style-type: none"> 外反する短い口縁をもつ。 口縁下端部は突出するが端部は丸くおさめる。 胴部はほとんど張らず、底部に続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面縦ハケ。 内面は粗いへう削りのため凹凸が激しい。 	ススが全面に付着	Ⅳ区	
台付甕	56 <ul style="list-style-type: none"> やや下ぶくれの胴部をもつ台付の甕である。 口縁下端部は鋭く稜をもつ。 口縁の形態は55の甕の口縁と同様か？ 	<ul style="list-style-type: none"> 胴部外面はハケの後、粗く磨く。 器壁は厚い。 内面に粘土の継ぎ目が見える。 内面はへらの後、ナデか？ 		Ⅱ区	
甕形土器	Aその他	57 <ul style="list-style-type: none"> 斜め上方に伸びる口縁をもつ。 口縁下端部はわずかに突出する。 口縁内面は屈曲しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面にハケ痕残る。 外面ハケ。 		Ⅳ区
		58 <ul style="list-style-type: none"> 長い頸部をもつ。 口縁下端部は突出気味。 口縁内面は屈曲せず、くの字形になる。 口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へう削り。 	ススで真黒	Ⅱ区
	59 <ul style="list-style-type: none"> 頸部外面は強いナデにより屈曲。 内面は屈曲せず、くの字形になる。 やや肩が張る。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へう削り。 外面ハケ。 	スス付着	Ⅳ区	
	60 <ul style="list-style-type: none"> 直立する口縁をもつ。 口縁部は断面三角形になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁内面強いナデ。 口縁外面ハケ痕残る。 内面へう削り。 へう削りの位置が高く、鋭い稜をもつ。 	ススで全面真黒	Ⅲ区	

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区	
甕形土器	Aその他	61	<ul style="list-style-type: none"> 口縁下部部に稜をもつ。 外面は二重口縁風になるが、口縁内面は屈曲せず、くの字形になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 外面、粗い横ハケ。 	スス付着	Ⅲ区
		62	<ul style="list-style-type: none"> 頸部は大きく屈曲し、外面は二重口縁風になるが、口縁内面は屈曲せず、くの字形になる。 肩の張る甕である。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 口縁は厚手に作る。 	スス付着	Ⅱ区
	B1	63	<ul style="list-style-type: none"> 内彎する口縁をもつ。 口縁端部は丸くおさめる 肩部にきざみ。 	<ul style="list-style-type: none"> ていねいなつくり。 内面へら削り。 横方向のハケ。 		Ⅲ区
		64	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦。 端面は内側に傾く。 肩部にきざみ。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面は下から上にへら削りを行なう。 体部外面上半には細かい横ハケ。 	スス付着 図版8	Ⅱ区
		65	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部は平坦。 肩部に刻み目。 口縁外面は丸味をもたずやや直線的に斜め上方に伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部上半は横ハケ。 体部下半は縦ハケ 内面へら削り。 		Ⅱ区
		66	<ul style="list-style-type: none"> 内面の肥厚は小さい。 口縁端部は丸くおさめる。 頸部の屈曲はゆるやか。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 外面縦ハケ。 		Ⅰ区
		67	<ul style="list-style-type: none"> 内面の肥厚は小さい。 口縁端面は平坦で外傾する。 	<ul style="list-style-type: none"> ていねいなつくり。 内面へら削り。 	スス付着	Ⅰ区
		68	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦で外傾する。 	<ul style="list-style-type: none"> 器壁は薄い。 外面に細かい縦ハケ。 	スス付着	Ⅰ区
		69	<ul style="list-style-type: none"> 内面の肥厚は小さい。 口縁端面は平坦で外傾する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部上半に横ハケ。 	磨滅	Ⅳ区
		70	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は内彎気味に外上方に伸びる。 端部外面に凹部。 口縁端面は平坦。 肩部に櫛歯直線文。 	<ul style="list-style-type: none"> 整形はていねい。 内面へら削り。 		Ⅳ区
		71	<ul style="list-style-type: none"> 内面の肥厚は小さい。 口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 	スス付着	Ⅰ区
		72	<ul style="list-style-type: none"> 内面の肥厚は小さい。 口縁端面は平坦。 口縁は内彎気味。 	<ul style="list-style-type: none"> ていねいなつくり。 器壁は薄い。 		Ⅳ区
		73	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> 器壁は薄い。 		Ⅰ区
		74	<ul style="list-style-type: none"> 口縁内面の肥厚は小さい。 口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> 整形はていねい。 内面へら削り。 外面横方向のハケ。 		Ⅱ区
		75	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部は平坦で内傾。 口縁は頸部から直線的に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 		Ⅱ区
		76	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦。 口縁は直線的に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面横ハケ。 内面へら削り。 	スス付着	Ⅱ区

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区	
甕形土器	B 1	77	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は直線的。 口縁端面は平坦。 口縁端部は外側にも拡張する。 	<ul style="list-style-type: none"> 整形は粗い。 外面は縦ハケ。 内面は粗い削り。 		Ⅱ区
	78	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦。 口縁部はやや直線的に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦ハケの後、横ハケで消す。 整形はていねい。 内面へ削り。 	スス付着	Ⅲ区	
	79	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部は平坦で内側に長く傾斜。 口縁は頸部からやや直線的に伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へ削り。 外面横方向のへ削り。 	スス付着	Ⅳ区	
	80	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦で内側に傾斜。 口縁外面は丸味をもって立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へ削り。 外面横方向のハケ。 ていねいなつくり。 		Ⅲ区	
	81	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦で内傾。 口縁は頸部から直線的に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へ削り 	口縁と肩部にスス付着	Ⅳ区	
	82	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は内側に長く傾斜。 口縁は直線的に斜め上方に立ち上がる。 肩部は丸味をもって体部に続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部上半、横ハケ。 内面へ削り。 肩部は強いナデ。 	スス付着	Ⅲ区	
	83	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦でやや内側に傾斜する。 口縁部はやや直線的に斜めに立ち上がる。 肩部は丸味をもって体部に続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部の器壁はやや厚い。 縦ハケの後、横ハケ 	磨滅 図版 8	Ⅰ区	
	84	<ul style="list-style-type: none"> 肥厚部は内側に長く傾斜。 口縁外面はやや丸味をもって立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 肩部に縦ハケが見える。 内面のへ削りの位置は低い。 	全面にスス付着	Ⅳ区	
	85	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部は丸くおさめる。 口縁は内彎気味。 	<ul style="list-style-type: none"> 器壁は薄い。 外面横ハケ。 	スス付着	Ⅰ区	
	86	<ul style="list-style-type: none"> 口縁内面はわずかに肥厚。 肩は大きく張る。 口縁外面はややくぼむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 器壁は厚い。 		Ⅱ区	
	87	<ul style="list-style-type: none"> 肥厚部は内側に長く傾斜。 口縁部はやや丸味をもって斜めに立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へ削り。 	スス付着	Ⅲ区	
	88	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦で内傾。 口縁は頸部から直線的に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へ削り。 器壁は薄い。 整形はていねい。 		Ⅰ区	
	89	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は直線的というよりも外反気味に伸びる。 口縁端面は平坦。 内面の肥厚はあまり顕著ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へ削り。 外面横ハケ。 	やや磨滅	Ⅰ区	
	90	<ul style="list-style-type: none"> 肥厚部は内側に長く傾斜。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へ削り。 外面横ハケ。 		Ⅲ区	
91	<ul style="list-style-type: none"> 肥厚部は内側に長く傾斜。 口縁部はやや直線的に斜めに立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面のへ削りの位置は低い。 外面に横ハケの痕が見える。 		Ⅱ区		

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区	
甕形土器	B 1	92	<ul style="list-style-type: none"> 口縁肥厚部は内側に長く傾斜。 口縁は丸縁をもって立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部上半は縦ハケの後、横ハケ。体部下半は縦ハケ。 体部内面はヘラ削り。 		Ⅱ区
	B 2	93	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦。 口縁は内彎気味。 口縁端部内面は肥厚しない。 94を除いて口縁端面は外傾する。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り。 口縁内面は強く横ナデ。 頸部下は横ナデ。 98は縦ハケの痕跡を残す。 	口縁にスス付着	Ⅲ区
		94				Ⅳ区
		95				Ⅲ区
		96				Ⅱ区
		97				Ⅲ区
		98				Ⅱ区
	B 3	99	<ul style="list-style-type: none"> 頸部は大きく屈曲する。 口縁部は頸部から内彎気味に立ち上がり、端部を上方につまみ上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り。 	図版 9	Ⅱ区 Ⅲ区
		100	<ul style="list-style-type: none"> 頸部は大きく屈曲する。 口縁部は頸部から内彎気味に立ち上がり、端部を上方につまみ上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面縦ハケ、一部に横ハケ。 内面ヘラ削り。 	全面スス付着	Ⅱ区
		101	<ul style="list-style-type: none"> 頸部は大きく屈曲する。 口縁部は頸部から内彎気味に立ち上がり、端部を上方につまみ上げる。 外面に刺突文。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り。 外面縦ハケと横ハケ。 	スス付着	Ⅰ区
102		<ul style="list-style-type: none"> 頸部は大きく屈曲する。 口縁部は頸部から内彎気味に立ち上がり、端部を上方につまみ上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面縦ハケ、一部に横ハケ。 内面ヘラ削り。 	全面スス付着	Ⅱ区	
103		<ul style="list-style-type: none"> 頸部は大きく屈曲する。 口縁部は頸部から内彎気味に立ち上がり、端部を上方につまみ上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り。 		Ⅱ区	
Bその他	104	<ul style="list-style-type: none"> くの字形に屈曲する。 頸部内面には鋭く稜をもつ。 口縁増部は丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面のヘラ削りの位置は高い。 体部外面に縦ハケ。 		Ⅱ区	
	105	<ul style="list-style-type: none"> 頸部から口縁部にかけてのくの字形に屈曲し、口縁増部をつまみ上げる。 口縁端面には凹線がめぐる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面のヘラ削りの位置は高く、頸部内面は鋭く屈曲し稜をもつ。 	口縁内面にスス	Ⅳ区	
	106	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部はくの字形に屈曲。 口縁増部は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り、ヘラ削りの位置は低い。 外面は縦ハケ。 		Ⅳ区	
C 1	107	<ul style="list-style-type: none"> 外反する口縁をもつ。 口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> 頸部に接合の際の跡が目に残る。 内面にはハケ痕が残る。 		Ⅱ区	

器形	土器 番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土 地区		
壺 形 土 器	C 1	108	<ul style="list-style-type: none"> 外反する口縁をもつ。 口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面は縦ハケ。 内面へう削り。 		IV区	
		109	<ul style="list-style-type: none"> 外反する口縁をもつ。 口縁端面は平坦であるが、一条の凹線がある。 			III区	
		110	<ul style="list-style-type: none"> 外反する口縁をもつ。 口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へう削り。 外面は粗い縦ハケ。 	スス附着	II区	
		111			スス附着	II区	
		112			全面にスス	II区	
		113	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部はやや丸い。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁内面にハケ目が残る。 体部内面へう削り。 		II区	
		114	<ul style="list-style-type: none"> やや外反気味に斜め上方に立ち上がる。 口縁端面は狭い平面をもつ。 肩の張り小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面は粗いへう削り。 削りの位置はやや下の方にある。 		III区	
		115		<ul style="list-style-type: none"> 外面に目の粗いハケ。 内面へう削り。 頸部外面に強い横ナデ。 		IV区	
		C 2	116	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部が大きく外反するに、口縁内面が上を向き口縁端面は下方にそり返る。 口縁端部は丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 粗いハケ。 内面へう削り。 		IV区
		117		<ul style="list-style-type: none"> 体部外面縦ハケ。 内面にハケの痕とへう削りの痕。 		II区	
		118		<ul style="list-style-type: none"> 外面のハケの方向は一定しない。 		II区	
		119		<ul style="list-style-type: none"> 外面はやや粗い縦ハケが残る。 内面はハケ。 	スス附着	II区	
		120		<ul style="list-style-type: none"> 外面は細かいハケが残る。 口縁はやや厚く作る。 内面へう削り。 		II区	
	121		<ul style="list-style-type: none"> 内面のへう削りは粗く、凹凸がある。 外面はやや磨き風。 		IV区		
	122		<ul style="list-style-type: none"> 外面は縦ハケが残る。 内面のへう削りは粗い。 	スス附着	III区		
	124		<ul style="list-style-type: none"> 内面へう削り。 		I区		
	123	<ul style="list-style-type: none"> やや外反する口縁をもつが、口縁端部は下方に折り返さない。 口縁端部はやや細くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁内面に目の粗いハケ痕が残る。 口縁外面に横ナデによる凹凸がある。 		IV区		
	125	<ul style="list-style-type: none"> ややくの字形に外反する口縁をもつが、口縁端部は下方に折り返さない。 体部は下方に直線的にのびる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面は縦ハケの後、横ハケ。 内面に粘土の継ぎ目が残る。 	大粒の石を含む。 内面磨減	I区		

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区	
甕形土器	C 2 126	<ul style="list-style-type: none"> • わずかに外反する口縁をもつ。 • 頸部の屈曲はゆるく、頸部から体部にかけてゆるやかに伸び、算整形の体部をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> • 内面はハケともヘラ削りとも区別できない。 • 外面は削り風の仕上げ。 	体部にスス付着 図版 9	Ⅳ区	
	127	<ul style="list-style-type: none"> • く字形に外反する口縁をもつ。 • 口縁端部は丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 口縁外面、体部に縦ハケが残る。 		Ⅱ区	
	128		<ul style="list-style-type: none"> • 外面は粗いハケ。 • 内面へら削り。 	スス付着	Ⅰ区	
	129	<ul style="list-style-type: none"> • 口縁外面は大きく外反。 	<ul style="list-style-type: none"> • 内面は粗いへら削り。 • 外面はススで整形不明。 	ススが全面に付着	Ⅲ区	
	130	<ul style="list-style-type: none"> • く字形に外反する口縁をもつ。 • 口縁は外方へ折り返す。 • 体部はやや丸味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> • 内面へら削り。 • 外面は磨滅のため、整形不明 	体部外面にスス	Ⅱ区	
	131	<ul style="list-style-type: none"> • く字形に外反する口縁をもつ。 • 口縁端部は丸くおさめる。 • 体部は丸味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> • 外面は整形不明。 • 内面はへら削り。 		Ⅲ区	
	Cその他	132	<ul style="list-style-type: none"> • 頸部から口縁にかけて外反する。 • 口縁は短く直立する。 • 頸部は厚手。 	<ul style="list-style-type: none"> • 体部に縦ハケが見られる。 		Ⅱ区
		133			スス付着	Ⅱ区
		134	<ul style="list-style-type: none"> • 外反する短い口縁をもつ。 • 体部の張りはほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 内面はナゲ整形か? • 外面に縦ハケの痕跡がある。 	スス付着	Ⅰ区
		135	<ul style="list-style-type: none"> • 短く外反する口縁をもつ。 • 頸部の器壁はきわめて厚い。 • 口縁端面はやや鋭い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 外面に目の粗いハケがある。 • 内面へら削り。 		Ⅲ区
136		<ul style="list-style-type: none"> • 大きく外反する口縁をもつ。 • 口縁端面は平埜で、下方に屈曲する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 口縁内面は横ナゲ。 • 体部内面はへら削り。 		Ⅳ区	
D 1	137	<ul style="list-style-type: none"> • やや外反気味の口縁をもつ。 • 下半部に最大径がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 体部外面には粗いハケ。 • 内面のへら削りの位置は低い。 • へら削りはきわめて粗く、下半部については下から上にかけて行ない、上部については横方向に行なう。 • 口縁部には粘土紐を縫ぎ足し、指押えした痕がある。 • 念体的に整形はきわめて雑である。 • 頸部内面にも粘土紐の縫ぎ目が見られる。 	胎土は大粒の石を多量に含む。 下半部にはススが付着	Ⅰ区	

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区
壺形土器	D 1 138	<ul style="list-style-type: none"> やや斜めに立ち上がる口縁をもつ。 底部は丸底。 体部は楕円状。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面には目の粗いハケが施に施されている。 口縁外面には粘土粒の継ぎ目と、指押えの痕が見られる。 ヘラ削りの位置は低く、削りは下から上に施されている。 ヘラ削りは粗い。 体部内面の上部には粘土粒の継ぎ目が明確にみえる。 整形はきわめて雑。 	完形 肩部以下スス付着 内面に煮沸した時の焦げあとが見られる。 図版 9	Ⅱ区
	139	<ul style="list-style-type: none"> くの字形に立ち上がる口縁をもつ。 口縁はやや長い。 楕円形に近い体部。 底部は丸底。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部にまで目の粗いハケの痕が見られる。 口縁上半は横ナゲによりハケを消す。 体部内面は粗い削り。 整形はきわめて雑。 	図版 9	Ⅰ区
	140	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部を欠く。 体部はやや卵形に近い。 底部は丸底。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面は縦ハケが明瞭、肩部に横ハケ。 体部内面については上半が指押え、下半はヘラ削りを施している。 ヘラ削りは粗く、凹凸が激しい。 	肩部下からススが全面に付着 図版 9	Ⅲ区
	141	<ul style="list-style-type: none"> 口縁はやや長く、斜め上方に立ち上がる。 口縁外面は横ナゲによる凹部がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 整形、胎土とも良い。 内面ヘラ削り。 		Ⅱ区
	142	<ul style="list-style-type: none"> くの字形に立ちあがる口縁をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面に粗いハケ。 頸部から肩部にかけて粘土粒の痕。 内面は下からのヘラ削り。 	図版 9	Ⅲ区
	143	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は斜め上方に立ち上がる。 口縁は先端部が細くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り。 口縁内面横ナゲ。 	胎土は大粒の石を含み、きわめて悪い。	Ⅱ区
	D 2 144	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は長く、外反する。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁にはハケの痕が見られる。 口縁部や頸部内面には粘土粒の継ぎ目が明瞭に見える。 		Ⅲ区
	145	<ul style="list-style-type: none"> 斜めに立ち上がる口縁をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面に横ハケ。 内面押さえ。 体部の器壁は厚い。 口縁内面の先端部は強いナゲによりやや内彎気味になる。 	全面にスス付着	Ⅳ区
	146	<ul style="list-style-type: none"> くの字形に立ち上がる口縁をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁内面横ナゲ。 体部ヘラ削り。 	スス付着	Ⅰ区

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区	
壺形土器	D 1	147	<ul style="list-style-type: none"> ◦く字形に立ち上がる口縁をもつ。 ◦口縁先端部は細くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦体部には粗いハケが全面に施される。 ◦口縁内面、頸部内面にハケ目。 ◦体部内面は下から上へのヘラ削り。 		Ⅱ区
		150	<ul style="list-style-type: none"> ◦口縁端部はやや肥厚気味。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦内面粗いハケ。 ◦肩部外面に縦ハケが残る。 	口縁部と体部にスス、胎土は粗い。	Ⅲ区
	D 2	148	<ul style="list-style-type: none"> ◦直口系統の器形であり、肩が張る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦外面はハケ調整、ハケの方向は一定しない。 ◦内面は粗いヘラ削り。 	外面にスス付着	Ⅰ区
		149				Ⅲ区
壺形土器	A 1	151	<ul style="list-style-type: none"> ◦口縁部端面は平坦。 ◦口縁下端部は突出する。 ◦肩部に横溝直線文。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦頸部下よりヘラ削り。 ◦頸部外面に縦ハケの痕跡が残る。 ◦内面ヘラ削り。 		Ⅲ区
		155				Ⅱ区
		153	<ul style="list-style-type: none"> ◦口縁下端部はあまり突出しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦頸部内外面とも縦ハケの痕が残る。 		Ⅳ区
		152	<ul style="list-style-type: none"> ◦口縁下端部突出。 ◦口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦内面ヘラ削り。 		Ⅳ区
		154				Ⅰ区
		156	<ul style="list-style-type: none"> ◦口縁下端部突出。 ◦口縁端面は平坦。 ◦口縁部は外反する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦内面ヘラ削り。 		Ⅱ区
		157	<ul style="list-style-type: none"> ◦外反する口縁と長い頸部をもつ。 ◦口縁端面は平坦。 ◦口縁下端部は鋭く突出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦内面ヘラ削り。 		Ⅲ区
		158		<ul style="list-style-type: none"> ◦外面には横ナデによって消された縦ハケの痕が残る。 		Ⅲ区
		159				Ⅲ区
		160				Ⅱ区
		161		<ul style="list-style-type: none"> ◦頸部外面には縦ハケを横ナデによって消した痕がある。 		Ⅱ区
		162	<ul style="list-style-type: none"> ◦口縁下端部は鋭く突出する。 ◦口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦口縁内外面とも横ナデ。 		Ⅱ区
A 2	163	<ul style="list-style-type: none"> ◦口縁外面に竹管文が1つ。 ◦口縁下端部は下方に突出。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦頸部に縦ハケの痕が残る。 	図版10	Ⅱ区	
	164	<ul style="list-style-type: none"> ◦口縁下端部は下方に突出。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦整形は粗い。 ◦口縁下端部の突出は張りつけ。 ◦口縁内面に横方向のハケが残る。 	図版10	Ⅲ区	
	165	<ul style="list-style-type: none"> ◦口縁下端部は下方に突出。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦体部内面ヘラ削り。 		Ⅱ区	

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区	
壺形土器	A 2	166	◦口縁下端部突出。	◦肩部は縦ハケ。 ◦胴部は横ハケ。 ◦内面へう削り。		Ⅱ区
	A 3	167	◦口縁は外反気味に斜め上方に長く立ち上がる。 ◦口縁下端部は鋭く稜をもつ。 ◦口縁端部は外反する。			Ⅲ区
		168	◦167に比べて口縁下端部の稜は甘く、口縁部もやや短い。		図版10	Ⅱ区
		169	◦口縁部にはナデによる凹部がある。 ◦口縁下端部の稜は甘い。 ◦口縁端部は内側に折れる。			Ⅲ区
		170	◦やや外反気味の口縁をもつ。 ◦口縁端部は面をもち外傾する。			Ⅱ区
	B	171	◦やや外反する口縁をもつ。 ◦口縁下端部は丸くおさめる。	◦内面、粗いへう削り。 ◦外面、粗いハケ。	図版10	Ⅱ区
		172	◦やや球形に近い体部をもつ。 ◦口縁下端部は突出するが、端部は丸くおさめる。	◦外面粗いハケ、上半部は横方向、下半部は縦方向。	図版10	Ⅱ区
		173	◦直立する頸部にやや短い口縁がつく。	◦頸部に縦ハケ痕残る。	図版10	Ⅲ区
		174	◦やや斜めに立ち上がる口縁をもつ。 ◦口縁下端部は突出するが、端部は丸くおさめる。	◦胴部外面に縦方向のハケの痕が残る。 ◦底部内面は指押さえ。 ◦胴部内面は下からのへう削り。	図版10	Ⅳ区
		176	◦器高約55cmの大型の壺。 ◦口縁端部は平坦につくるが、端部には浅い凹部。 ◦口縁端部内面はわずかに肥厚気味。 ◦口縁部と頸部の接合部内面は横ナデにより凹部をつくる。 ◦口縁外面上部に凹縁。 ◦口縁下端部は突出する。	◦外面には非常に細かいハケが見える。 ◦内面は下から上へのへう削りが顕著。 ◦頸部は横方向のへう削り。	図版11	Ⅱ区
その他	175	◦口縁はほぼ直立する。 ◦口縁は内側に拡張。 ◦頸部はゆるやかに屈曲して口縁に続く。 ◦体部はやや長筒形。	◦体部外面に細かいハケ。 ◦内面は下からのへう削り。	胎土良好 図版12	Ⅱ区	
	177	◦やや内傾する口縁をもつ。 ◦口縁端面は平坦。 ◦口縁下端部は屈曲し、稜をもつ。	◦口縁、頸部内面にハケ。 ◦体部内面へう削り。		Ⅲ区	
	178	◦肩部に夾帯、刺突文を施す。 ◦夾帯の下に竹管文、竹管文の押し方は雑。	◦外面、磨き。 ◦内面へう削り。	図版19	Ⅲ区	
	179	◦直立する頸部をもつ。 ◦胴の張りはきわめて大きい。	◦外面、磨き。 ◦内面、目の細かいハケ。	図版12	Ⅳ区	

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区
壺形土器	C 180	<ul style="list-style-type: none"> 内傾する二重口縁をもつ。 口縁部には刺突文、頸部には竹管文を施す。 口縁端面は平坦。 口縁下端部は突出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は横ナデ。 口縁内外面とも横ナデ。 		Ⅱ区
	181	<ul style="list-style-type: none"> 内傾する二重口縁をもつ。 頸部は大きく屈曲し、肩が張る。 口縁部と頸部の接合部内面は大きく屈曲。 			Ⅱ区
	182	<ul style="list-style-type: none"> 頸部に刺突文。 内傾する二重口縁をもつ。 口縁端面は平坦。 			Ⅳ区
	183	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦。 内傾する二重口縁をもつ。 口縁下端部は突出する。 口縁部には竹管文、頸部には凹線をほき込んで上下に刺突文、肩部にも同様の刺突文が施されている。 		図版19	Ⅱ区
	184	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦。 口縁下端部は突出。 			Ⅲ区
	185	<ul style="list-style-type: none"> 口縁外面に竹管文と半截竹管を利用した施文がある。 口縁下端はやや下方に厚く突出。 		図版19	Ⅲ区
	D 186	<ul style="list-style-type: none"> 直口に近い口縁をもつ。 口縁はやや外反気味に立ち上がる。 口縁下端部は突出し、二重口縁状になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁外面は横ナデ。 体部はへら削り。 	187と同一個体になる可能性がある。 図版12	Ⅲ区
187	<ul style="list-style-type: none"> 器高に対して胴径の大きな壺。 底部は平底。 	<ul style="list-style-type: none"> 器壁は薄い。 内面は胴部下半は下から上方向の削り。 外面は横ハケの後、横ハケを施す。 内面のへら削りは粗く凹凸が激しい。 	図版12	Ⅳ区	
188	<ul style="list-style-type: none"> 直口系統の壺。 口縁下部に突帯を貼りつけ、二重口縁風にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 頸部内面には指押さえの痕。 体部はへら削り。 口縁外面は横ナデ。 	図版12	Ⅳ区	
その他	189	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は長く直立し、口縁下端部をわずかに突出させる。 体部の張りはほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部内面へら削り。 内外面とも磨き。 		Ⅱ区
	190	<ul style="list-style-type: none"> 直口の壺。 口縁内外面には強いナデによる凹部がある。 肩の張る器形。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面へら削り。 外面磨き。 		Ⅲ区
	191	<ul style="list-style-type: none"> 短く直立する口縁をもつ。 頸部に2箇の穴が穿孔されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面磨き。 頸部内面ハケ。 胴部内面へら削り。 		Ⅳ区

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区
壺形土器	192	◦ 斜め上方に伸びる口縁に突帯を貼りつけて二重口縁にした壺。	◦ 胴部内面はへら削り。 ◦ 体部は目の粗いハケを施す。 ◦ 口縁内面にハケ目痕。 ◦ 器壁の厚い大型品。	図版12	Ⅱ区
	193	◦ 短く直立する口縁をもつ。 ◦ 口縁端面は平坦。 ◦ 口縁内面は強いナデによる屈曲。 ◦ 口縁下端部は丸くおさめる。	◦ 器壁はきわめて厚い。 ◦ 体部内面へら削り。		Ⅳ区
高杯形土器	194	◦ 杯部は浅く口縁は八の字状に開く。 ◦ 脚部は柱状部から八の字状に広がり、裾部で平坦になる。	◦ 杯部外面にハケの痕。 ◦ 脚部外面に磨きの痕。 ◦ 柱状部内面はへら削り、裾部はハケ。 ◦ 杯部底部外面には5mm程度の穴があく。	図版12 図版22	Ⅰ区
	195	◦ 杯部は浅く、やや直線的に開く。 ◦ 円筒形に近い柱状部をもつ。 ◦ 裾部の広がり小さい。	◦ 脚部外面磨き。 ◦ 杯部内外面にハケが残る。 ◦ 柱状部内面はへら削り。 ◦ 裾部内面にハケ目痕。 ◦ 脚部は杯部に差し込んだ後、中空部に粘土を充填する。	図版12	Ⅲ区
	196	◦ 杯部は底部からわずかに屈曲してハの字形に広がる。 ◦ 口縁はやや外反気味。	◦ 器壁は薄く仕上げる。 ◦ 脚部内面ははしほり目とへら削り。 ◦ 裾部を欠く。 ◦ 脚部は杯部の底面に貼りつける。	図版13	Ⅰ区
	198	◦ 杯部は底部からわずかに屈曲し斜め上方に伸びる。 ◦ 脚部は柱状部から裾部にかけてゆるやかに開く。 ◦ 透しは1つ。	◦ 柱状部内面ははしほりの後指押さえ。 ◦ 器部内面はハケ。 ◦ 脚部は杯部に差し込んだ後、中空部に粘土を充填。	杯部には焼成時のひずみがある。 図版13	Ⅱ区
	199	◦ 碗状に丸味をもった杯部。 ◦ 脚は屈曲せず柱状部からハの字状に開く。	◦ 脚部は中実。 ◦ 脚部外面へら磨き。 ◦ 脚部内面へら削り。	図版13 完形	Ⅲ区
	197	◦ 杯部は下半部で屈曲し、斜め上方に伸びる。 ◦ 杯部体部と底部の境は屈曲し稜をもつ。 ◦ 脚部柱状部から裾部にかけてゆるやかにハの字状に開く。 ◦ 脚部端面は稜をもつ。	◦ 柱状部内面は上半部がはしほり目、下半部はへら削りが残る。 ◦ 裾部はハケ目痕が残る。 ◦ 杯部外面にはハケ、柱状部外面にはへら磨きの痕が見える。	図版13	Ⅲ区
200	◦ 杯部は体部下半で屈曲し、外反しながら上方に伸びる。 ◦ 脚部は三方透し。 ◦ 脚は太く短い。柱状部は下方で屈曲して裾部に続く。 ◦ 裾部は大きく開く。	◦ 外面は全体磨滅。 ◦ 柱状部に内面はへら削りを施す。 ◦ 裾部内面は横方向のハケが見られる。 ◦ 杯底部外面には小さい穴があく。 ◦ 脚部は杯部に貼りつけ。	図版13 完形	Ⅰ区	

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区
高杯形土器	A 201	<ul style="list-style-type: none"> 杯部は体部下半で屈曲し、外反しながら上方に伸びる。 口径に対して器高が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 杯部の屈曲部は尖帯を貼りつけている。 杯はこの屈曲部を境に2段に接合されている。 脚は杯部の底部に直接に接合する。 光焼した粘土がはずれたために杯底面に2cm程度の穴があく。 		I区
	202	<ul style="list-style-type: none"> 体部下半に屈曲部をもつ。 口縁端部は外反。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部と体部の屈曲部にハケの痕が残る。 脚部は杯部に差し込む。 脚部と杯部のすき間には粘土をつめ込む。 脚部中空部には粘土が充填してある。 	図版14	II区
	203	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は体部から屈曲し、外反しながら上方に伸びる。 底部はやや丸味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ともヘラ磨き。 	胎土良好	IV区
B	204	<ul style="list-style-type: none"> 杯部はゆるく彎曲しながら上半で外方に開く。 脚部は柱状部から裾部にかけてゆるやかに八の字形に開く。 裾部は大きく開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 杯部内外面ともヘラ磨き。 脚部外面にはハケ目が残る。 柱状部内面についてはヘラ削り。 裾部についてはハケを施す。 器壁は薄く仕上げる。 杯底部外面には小さい穴が残る。 	図版13	II区
	205	<ul style="list-style-type: none"> 体部は底部からゆるやかに屈曲しながら、やや外反気味に伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ともヘラ磨き。 薄く仕上げる。 		II区
	206		<ul style="list-style-type: none"> 内面縦方向の磨き。 外面横方向の磨き。 器壁は薄く仕上げる。 脚部は杯部に差し込み、脚部中空部に粘土をつめ込む。 杯の底部外面には下から、突き刺した直径3mm程度の穴があく。 	図版14	III区
	207		<ul style="list-style-type: none"> 内外面ともいいない磨き。 	図版22	II区
C	208	<ul style="list-style-type: none"> 底部から屈曲し、斜め上方に直線的に伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦方向の磨き。 脚部は杯部に差し込む。 	胎土精良 図版22	II区
	209	<ul style="list-style-type: none"> 底部からはほとんど屈曲せずに斜面上方に開く。 口縁はやや外反気味。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面にハケの痕跡。 脚部は杯部に差し込む。 		III区

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区
高杯形土器	210	<ul style="list-style-type: none"> 浅い杯部。 口縁端部は外反気味。 底部から体部にかけてはやや屈曲気味。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部内面に粘土を充填した痕がある。 脚部と杯部の接合方法は不明。 底部外面に下からの小さな穴がある。 	磨滅	I区
	211	<ul style="list-style-type: none"> 体部は底部からやや屈曲して上方に開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面とも粗いハケ。 脚部は杯部に差し込んだ後、中空部を粘土で埋め込む。 器壁は厚い。 	胎土悪い	II区
	212	<ul style="list-style-type: none"> 体部はやや直線的に斜め上方に伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚部は杯部に差し込んだ後、中空部に粘土を充填。 	磨滅	I区
	213	<ul style="list-style-type: none"> 底部からゆるやかに屈曲して八の字状に開く。 器高は他の高杯に比べてやや深い。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面とも磨き。 脚部は杯部に差し込む。 底部内面に粘土を充填した痕が見える。 底部に下から突き刺した穴がある。 器壁は厚い。 	図版14	III区
	214	<ul style="list-style-type: none"> 体部は底部からゆるやかに斜め上方に八の字状に伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部外面に下方から突き刺した2mm程度の穴がある。 脚部は杯部に差し込む。 	図版14 図版22	II区
	215	<ul style="list-style-type: none"> 体部は底部からゆるやかに八の字状に開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面とも磨き。 脚部は杯部に差し込む。 脚部は中実。 	図版22	III区
	216	<ul style="list-style-type: none"> 体部は底部からやや屈曲し、斜め上方に直線的に伸びる。 口縁はやや外反。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部外面にハケ目痕残る。 脚部は杯部に差し込む。 底部外面に4mm程度の小さな穴。 		I区
	217	<ul style="list-style-type: none"> 体部は底部からやや屈曲して上方に伸びる。 口縁端部は面をなし外側に傾く。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面磨き。 底面に放射状の磨き。 脚部は杯部に差し込む。 		IV区
	218	<ul style="list-style-type: none"> 体部は下半でやや屈曲し、口縁は外反する。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦方向のハケ。 体部上半は横ナデ。 底部内面に粘土を充填した痕跡が見える。 	内面は磨滅 図版14	II区
	その他	219	<ul style="list-style-type: none"> コップ状の杯部をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面とも磨き。 脚部は杯部に差し込んだ後、中空部を小さな粘土でふさぐ。 	
脚部	220	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部から屈曲して裾部に続く。 裾部端部は鋭く稜をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部内面へ削り。 裾部内面はハケ。 柱状部外面は幅の広い磨き。 		II区

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区
高 杯 形 土 器	221	<ul style="list-style-type: none"> 短い柱状部から屈曲し裾部に続く。 裾部は大きく広がる。 裾端部は鋭く稜をなす。 	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部内面へう削り。 裾部はハケ。 柱状部外面は幅の広い磨き。 	図版14	Ⅱ区
	222	<ul style="list-style-type: none"> 短い柱状部。 裾部は平坦に近い。 三方通し。 	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部外面には幅の広い磨き。 柱状部内面はへう削り。 	図版14	Ⅱ区
	223	<ul style="list-style-type: none"> 裾部の広がりはいきわめて小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部外面は磨き。 裾部内面はハケ。 柱状部上端に、充填した粘土がはずれた痕跡が見られる。 		Ⅲ区
	224	<ul style="list-style-type: none"> 裾部は平坦で大きく広がる。 裾部先端は先細りになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部内面はへう削り。 柱状部の上端には小さい穴があく。 		Ⅰ区
	225	<ul style="list-style-type: none"> 裾部は大きく広がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面へう磨き。 	図版14	Ⅲ区
	226	<ul style="list-style-type: none"> 三方通し。 柱状部から裾部にかけてほぼ直角に折れ、裾部は水平に近くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部内面はへう削り。 柱状部外面は幅の広い磨きを施す。 	図版14	Ⅲ区
	227	<ul style="list-style-type: none"> 短い脚部。 柱状部から脚部へは大きく屈曲し、裾部は平坦に近くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部内面はへう削り。 脚部上端には、上からの穴がある。 脚部中空部は粘土を充填したものと思われる。 		Ⅳ区
	228	<ul style="list-style-type: none"> 細長い柱状部をもつ。 裾部は水平に近い。 	<ul style="list-style-type: none"> 上端に杯部がはずれた痕跡がある。 柱状部内面はへう削り。 裾部内面にハケ痕。 	図版14	Ⅱ区
	229	<ul style="list-style-type: none"> 円筒状の柱状部からゆるやかに開く裾部をもつ。 三方通し。 杯部は底部からほぼ直角に屈曲し立ち上がり、底径は小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 器壁は薄く仕上げる。 脚部内面にハケ目。 杯部底に径5mm程度の穴があく。 内外面とも磨き。 		Ⅱ区
	230	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部から裾部にかけてゆるやかに開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部はへう削り。 裾部はハケ。 外面磨き。 器壁は薄い。 底部外面には4mm程度の穴。 		Ⅲ区
	231	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部から裾部にかけてゆるやかに開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 器壁は薄い。 柱状部はへう削り。 裾部内外面はハケ。 杯部底部外面には3mm程度の小さな穴。 	図版15	Ⅱ区
	232	<ul style="list-style-type: none"> 三方通し。 柱状部は円筒形に近く、裾部は大きく開く。 裾部端部は鋭く稜をなす。 	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部内面へう削り。 裾部はハケ調整。 外面へう磨き。 器壁は薄い。 		Ⅲ区

器形	土器 番号	形態の特徴	成形手の特徴	備考	出土 地区	
高杯形土器	233	<ul style="list-style-type: none"> 透しは1つ。 柱状部と脚部は屈曲しないでゆるやかに八の字状に開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面へら磨き。 内面ハケ痕残る。 杯部との接合方法は不明。 	胎土良好 図版15	Ⅱ区	
	234	<ul style="list-style-type: none"> 三方透し。 柱状部は短く、裾部が大きく開く。 上部は碗形の杯がつくものと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面については、上部はへら削り、下部はハケの後ナデ。 外面は磨き。 		Ⅱ区 Ⅲ区	
器台形土器	A 2	235	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は受部から屈曲して斜め上方に立ち上がる。 口縁下端部は下垂しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚部内面はハケ。 全体に磨滅。 脚部を欠く。 口縁端部は先細りになる。 		Ⅰ区
		236		<ul style="list-style-type: none"> 口縁端部は丸くおさめる。 外面には粗い磨き。 		Ⅱ区
	A 1	237	<ul style="list-style-type: none"> 口縁外面に瓣凹線状の沈線。 口縁下端部は下垂する。 四方透し。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁内面と体部外面に磨き。 脚部内面にハケ痕。 	図版15	Ⅳ区
		238	<ul style="list-style-type: none"> 口縁外面に凹部。 口縁下端部は外方に下垂する。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ともいねいな磨き。 口縁部の突出は三角形の突帯を貼りつける。 		Ⅲ区
		239		<ul style="list-style-type: none"> 内外面とも磨き。 口縁部は体部に貼りつけ。 		Ⅳ区
		240		<ul style="list-style-type: none"> 内外面とも磨き。 外面の磨きは粗い。 口縁下端部の突出は三角形の突帯を張りつけたもの。 		Ⅱ区
	A 脚部	241	<ul style="list-style-type: none"> 三方透し。 ゆるやかに八の字状に開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面に縦方向の磨き。 裾部にハケ目。 	図版15	Ⅱ区
		242	<ul style="list-style-type: none"> 四方透し。 裾部は大きく八の字状に開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面縦方向の磨き。 裾部はハケ目、柱状部はへら削り。 		Ⅲ区 Ⅳ区
		243	<ul style="list-style-type: none"> 二方透し。 ゆるやかに八の字状に開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 裾部内外面ハケ。 柱状部はへら削り。 		Ⅲ区
	B	244	<ul style="list-style-type: none"> 上台は脚台よりも径が大きい。 口縁部は外反。 	<ul style="list-style-type: none"> 上台部はへら磨き。 脚台内面はへら削り、裾部は横ナデ。 	図版15	Ⅲ区
245		<ul style="list-style-type: none"> 上台口縁部は大きく外反する。 上台に比べて脚台の器高が低い。 248は上台、脚台とも器高が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 上台、脚台とも外面は横ナデ。 上台と脚台の接合部の稜線はいずれも鋭い。 	図版15	Ⅱ区	
246					Ⅲ区	
247					Ⅱ区	
248					Ⅳ区	

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区
小型 丸底壺	249	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部はくの字形に屈曲。 ・底部は丸底。 ・胴部は球形に近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外面ハケ。 ・内面へら削り。 ・口縁部内面ハケ。 	図版16 大粒の石を含む。	Ⅲ区
	250	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁は長く斜め上方に立ち上がる。 ・口縁の径が胴部の最大径より大きい。 ・底部は丸底。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整形は雑。 ・内面へら削り。 ・外面へら削り。 	図版16	I区
	251	<ul style="list-style-type: none"> ・底部は丸底。 ・体部は球形に近い。 ・口縁はわずかに斜め上方に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・胴部上半にハケ目が残る。 ・胴部内面へら削り、底部は指押さえ。 	図版16	I区
	252	<ul style="list-style-type: none"> ・体部は算盤型。 ・口縁は直線的に斜め上方に伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体部内面は下半部をへら削り。 ・体部下半にハケ。 	図版16	Ⅳ区
	253	<ul style="list-style-type: none"> ・底部はわずかに平底をなす。 ・胴部の最大径は頸部の直下であり、口縁の径とはほぼ等しい。 ・口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内面へら削り。 ・口縁外面にハケ目痕がある。 	図版16	Ⅲ区
	254	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部はあまり屈曲せず、口縁はわずかに斜め方向に立ち上がる。 ・底部は丸底。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部に接合痕がある。 ・やや目の粗いハケを底部外面にまで施す。 ・体部内面上半へら削り、下半指押さえ。 	図版16	Ⅱ区
	255	<ul style="list-style-type: none"> ・底部はわずかに平底をなす。 ・口縁部はやや内傾。 ・口縁端面は平坦。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部に粘土紐の跡が目あり。 ・内面ナデ。 	図版16	Ⅲ区
	256	<ul style="list-style-type: none"> ・頸部はほとんど屈曲しない。 ・底部は丸底。 ・頸部内面の屈曲は鋭く残をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁から底部まで全面に縦方向のハケ。 ・口縁内面にハケ。 ・体部内面ナデ。 	底部と胴部にスス付着 図版16	I区
	257	<ul style="list-style-type: none"> ・底部は丸底。 ・頸部は鋭く屈曲し、稜をなす。 ・体部上半に最大径。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部外面に接合痕。 ・胴部は短いハケ。 	図版16	Ⅲ区
小型 器台	258	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁部は柱状部から屈曲して斜め上方に伸びる。 ・口縁下端部は丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外面、へら磨き。 ・脚部内面はへら削り。 	図版16	Ⅱ区
	259	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁外面は凹部を有し、下端部は下垂する。 ・三方透し。 ・受部は大きく柱状部から屈曲し口縁に続く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内外面とも磨き。 ・柱状部外面へら削り。 	脚部を欠く。 図版16	Ⅲ区
	260	<ul style="list-style-type: none"> ・口縁は短く立ち上がる。 ・脚部は八の字状に開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・脚部のうち、柱状部内面はへら削り、裾部はハケ。 ・柱状部外面はへら磨き。 	脚部を欠く。 図版16	Ⅲ区
小型 高杯	261	<ul style="list-style-type: none"> ・底部からゆるやかに屈曲して伸びる。 ・脚端部は丸くおさめる。 ・口縁はやや外反気味。 ・脚部は柱状部から裾部にかけてゆるやかに開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・杯内外面、脚外面ともへら磨き。 	図版16	Ⅳ区

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区
小型 高杯	262	<ul style="list-style-type: none"> 体部は底部から大きく屈曲し、大きく外反する。 体部と底部の境は稜をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部外面に小さい穴。 		Ⅲ区
	263	<ul style="list-style-type: none"> 体部は底部から大きく屈曲して立ち上がる。 体部と底部の境は稜をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚部は杯部に差し込んだ後、中空部に粘土をつめ込んだ痕跡がある。 		Ⅲ区
	264	<ul style="list-style-type: none"> グラス状の高杯。 体部は底部から内傾して立ち上がる。 柱状部は短い。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ともへら磨き。 脚内部には粘土をつめ込んだ痕跡がある。 	図版16	Ⅲ区
	265	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は斜め上方に伸び、外面に凹部を有する。 口縁下端部はわずかに下垂する。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚部内面にくもの巣状のハケ目がある。 杯部内面と脚部裾にハケ目が残る。 	脚部先端を欠く。	Ⅱ区
低 脚 杯	266	<ul style="list-style-type: none"> 外方へ、ふんばる脚部。 口縁に対して器高が高い。 体部は底部からゆるやかに屈曲して直上方向に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ともへら磨き。 	図版17	Ⅲ区
	267	<ul style="list-style-type: none"> 脚部は他の低脚杯の脚部に比べて高くつくる。 脚は外方へふんばる。 杯部はあまり外側へ開かず、266のように体部下半で屈曲して立ち上がり、器高は深くなる。 脚部の径は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面磨き。 外面ハク。 		Ⅱ区
	268	<ul style="list-style-type: none"> 外方へふんばる脚部。 口径に対して器高が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ともへら磨き。 		Ⅳ区
	269				Ⅰ区
	270				Ⅲ区
	271			図版17	Ⅲ区
	272	<ul style="list-style-type: none"> やや口径の小さな杯である。 体部は底部から丸味をもって伸びる。 脚端部のふんばりは小さい。 		図版17	Ⅲ区
	273	<ul style="list-style-type: none"> 外方へふんばる脚部。 体部はやや直線的に斜め上方に立ち上がる。 		図版17	Ⅲ区
	274	<ul style="list-style-type: none"> やや口径が小さく、器高が高い。 口縁端面は平坦で外傾する。 脚部は外方にふんばる。 		図版17	Ⅲ区
	275	<ul style="list-style-type: none"> 口縁端面は平坦で外傾する。 脚端部は外方にふんばる。 		図版17	Ⅲ区
鉢形土器	A 276	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部外面に鬚凹線。 口縁は斜め上方に傾く。 体部はわずかに彎曲しながら底部に続く。 		胎土良好	Ⅱ区

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区
鉢形土器	A 277	<ul style="list-style-type: none"> 大きく外反する二重口縁をもつ。 口縁下端部は鋭く稜をもつ。 頸部は大きく屈曲して体部に続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ともヘラ磨き。 	胎土良好	Ⅱ区
	高杯形土器	278	<ul style="list-style-type: none"> 体部中央から内傾して口縁に続く。 口縁増部は外反する。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ヘラ磨き。 器壁は薄く仕上げる。 	
		279	<ul style="list-style-type: none"> 体部は丸味をもち内傾する。 口縁部は外反。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ヘラ磨き。 底部中央は膝部に充塞した粘土がはずれた為にあいた穴がある。 	
鉢形土器	B 280	<ul style="list-style-type: none"> 小さな平底をもつ。 口縁端面は平坦。 体部は内彎気味に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ハケ調整。 		Ⅱ区
	281	<ul style="list-style-type: none"> 底部は丸底。 体部は内彎気味に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面はヘラ削り。 		Ⅳ区
	282	<ul style="list-style-type: none"> 小さな平底をもつ。 体部は外方に大きく開く。 口縁増部はやや先細り。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体磨滅のため整形不明。 		Ⅱ区
	283	<ul style="list-style-type: none"> 小さな平底をもつ。 体部はほぼ直上に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面とも目の細かいハケ。 	図版16	Ⅱ区
	284	<ul style="list-style-type: none"> 小さな平底。 体部は上方で大きく開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面粗いハケ。 内面ヘラ削り。 	外面にスス付着	Ⅱ区
	285	<ul style="list-style-type: none"> 外方にやや開く体部をもつ。 底部は平底。 口縁増部をわずかに欠く。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部内面は横方向のヘラ削り。 口縁に近いところは横ナデ。 底部周辺にヘラ削りを施す。 		Ⅲ区
	286	<ul style="list-style-type: none"> 小さな平底をもつ。 頸部はわずかに屈曲し、口縁に続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り。 外面は全面にススが付着している為、整形不明。 		Ⅱ区
	287	<ul style="list-style-type: none"> 小さな平底。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り。 外面ハケ。 	内外面ともスス付着	Ⅲ区
	288	<ul style="list-style-type: none"> 底部は小さな平底風。 厚くつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面は縦ハケ。 内面ヘラ削り風。 		Ⅱ区
	289	<ul style="list-style-type: none"> 小さな平底をもつ。 体部は外方に大きく開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面は縦ハケ。 	内面に全面スス付着	Ⅳ区
	290	<ul style="list-style-type: none"> 高台風の平底をもつ。 底部外面は指押さえしたためにやや角ばる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面ヘラ削り。 外面ハケ。 		Ⅳ区
甕形土器	291	<ul style="list-style-type: none"> 小さな平底をもつ。 底部からの穿孔は途中で中断した後、横から2つの穿孔。1つは貫通、後の1つは貫通していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部ヘラ削り。 底部内面指押さえ。 外面ハケ。 		Ⅲ区

器形	土器番号	形態の特徴	成形手の特徴	備考	出土地区	
甔形土器	292	<ul style="list-style-type: none"> 小さな底部に1cm程度の穴を穿孔。 体部の立ち上がりは急である。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面に目の粗いハケが全面。 穴は下から穿孔。穿孔は焼成前。 		Ⅲ区	
台付鉢	脚部 293	<ul style="list-style-type: none"> 脚部は笠形にやや丸味をもつ。 脚部内面は横ナデを施す。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面磨き。 		Ⅲ区	
	294	<ul style="list-style-type: none"> ハの字状に開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚部外面磨き。 脚部内面ハケ。 		Ⅲ区	
	295	<ul style="list-style-type: none"> 短い脚部。 脚部は丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚部内面横ナデ。 全体の整形は粗い。 		Ⅳ区	
	296	<ul style="list-style-type: none"> 脚部はハの字状に開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚部には上と下の両方から粘土を充塞している。 		Ⅱ区	
	297	<ul style="list-style-type: none"> ゆるやかにハの字状に開く。 脚部端部は鋭く稜をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚部内外面横ナデ。 	一部にスス	Ⅲ区	
	298	<ul style="list-style-type: none"> 体部は内彎気味に斜め上方に伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面ハケ。 体部内面へう磨き。 		Ⅳ区	
	299	<ul style="list-style-type: none"> 体部は脚部から斜め上方に立ち上がる。 脚部端部は丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部内面はハケの後、一部にへう磨き。 脚部内面にハケ。 		Ⅱ区	
	300	<ul style="list-style-type: none"> 体部はやや長めの脚部からゆるやかに立ち上がる。 脚部は外方にふんばる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内面にわずかに磨きの痕跡。 脚部には上部から粘土をつめ込んだ痕が見られる。 		Ⅳ区	
	301	<ul style="list-style-type: none"> 斜め上方に立ち上がる体部をもち、脚部はハの字に開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部と脚部は連続的につくり出す。 つくりはきわめて雑。 		Ⅳ区	
	302	<ul style="list-style-type: none"> 脚部は外方にふんばる。 体部はやや内彎気味に立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部外面ハケ。 内面ハケの後、へう磨き。 全体に薄く仕上げ。 脚部には上部から粘土をつめ込んだ痕が見られる。 		Ⅱ区	
303	<ul style="list-style-type: none"> 体部はやや外側へ開き気味に上方に伸びる。 脚部はわずかにふんばる程度。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ともへう磨き。 脚部内面にハケ痕。 		Ⅲ区		
304	<ul style="list-style-type: none"> ハの字状に開く。 脚部端部は鋭く稜をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚部内外面ともハケ。 底部内面へう削り。 	胎土粗い。	Ⅱ区		
小型粗製土器	305	<ul style="list-style-type: none"> わずかに平底の底部をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 粗製、内外面ともナデ。 つくりは雑。 	図版17	Ⅲ区	
	306	<ul style="list-style-type: none"> 丸底。 	<ul style="list-style-type: none"> 粗製、体部内外面とも指押さえ。 		Ⅰ区	
	手づくね土器	307	<ul style="list-style-type: none"> 底部丸底。 体部はほとんど張らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁はつまみ出し。 口縁外面に指押さえ。 	図版17	Ⅲ区
		308	<ul style="list-style-type: none"> 底部平坦。 体部は直線的。 		図版17	
		309	<ul style="list-style-type: none"> 底部は丸底。 		図版17	

器形	土器番号	形 態 の 特 徴	成形手法の特徴	備 考	出土地区
蓋 形 土 器	310	◦ 体部は直線的に開き、口縁近くで水平になる。	◦ 内外面ハケ。 ◦ つまみ外面指押さえ。 ◦ 口縁内面にはリング状にスス付着。 ◦ 天井部内面は指押さえ。	図版18	Ⅱ区
	311	◦ 体部はややそり気味。 ◦ 口縁部は体部からゆるやかに屈曲し、平坦になる。 ◦ つまみ上部はくぼみをもつ。	◦ 内面ハケ調整。 ◦ 外面磨き。	つまみ端部を欠く。 図版18	Ⅲ区
	312	◦ 器高が高く笠形に開く体部をもつ。 ◦ つまみは斜め上方に端部をつまみ上げる。	◦ 内外面ともハケ調整。	内面スス付着 図版18	Ⅱ区
	313	◦ つまみ外面に指押さえ。 ◦ つまみ部分はくぼむ。 ◦ 笠形に開く。	◦ 外面ハケ調整、部分的に磨き。 ◦ つまみ上面磨き。 ◦ 内面にハケ痕。	図版18	Ⅲ区
	314	◦ つまみの先端部は外方に開く。 ◦ 口縁端部は鋭く稜をもつ。 ◦ 体部はややそり気味。	◦ 外面ハケの後、磨き。 ◦ 内面磨き。	図版18	Ⅲ区
	315	◦ つまみは直立して、上部はくぼみをもつ。 ◦ 体部は笠形を呈し、体部はやや丸味をもつ。 ◦ 口縁端部は丸くおさめる。 ◦ つまみ上部はくぼむ。	◦ 内外面ともハケ。 ◦ つまみ外面は指押さえ。	外面スス付着 図版18	Ⅱ区
	316	◦ 笠形に開く体部をもつ。	◦ 外面は粗いヘラ磨き。 ◦ つまみの端部は粘土を貼りつけている。 ◦ 内面ハケ。	図版18	Ⅲ区
甌形土器	317	◦ 口縁端面は平坦。	◦ 外面細かい縦ハケ。 ◦ 口縁内面は横ナデ。 ◦ 体部については、上部は横方向のヘラ削り、下部は下からのヘラ削り。	図版19	Ⅲ区
甕形土器	318	◦ 短く直立する口縁をもつ。 ◦ 口縁外面に縦凹線。 ◦ 長い頸部をもつ。	◦ 体部外面と口縁内面はヘラ磨き。 ◦ 体部内面はハケの後、ナデを施す。	図版20	Ⅱ区
壺形土器	319	◦ 長い頸部とはほぼ直立する口縁をもつ。 ◦ 口縁外面には縦凹線。 ◦ 口縁下端部は鋭く稜をもつ。 ◦ 口縁端部は平坦。	◦ 内外面に磨き。	図版20	Ⅱ区 Ⅲ区
甕形土器	320	◦ 口縁外面に縦凹線。 ◦ ヘラ削りの位置は高く、頸部内面に稜をもつ。	◦ 口縁内面と体部外面にヘラ磨き。 ◦ 体部内面ヘラ削り。	図版20	Ⅱ区

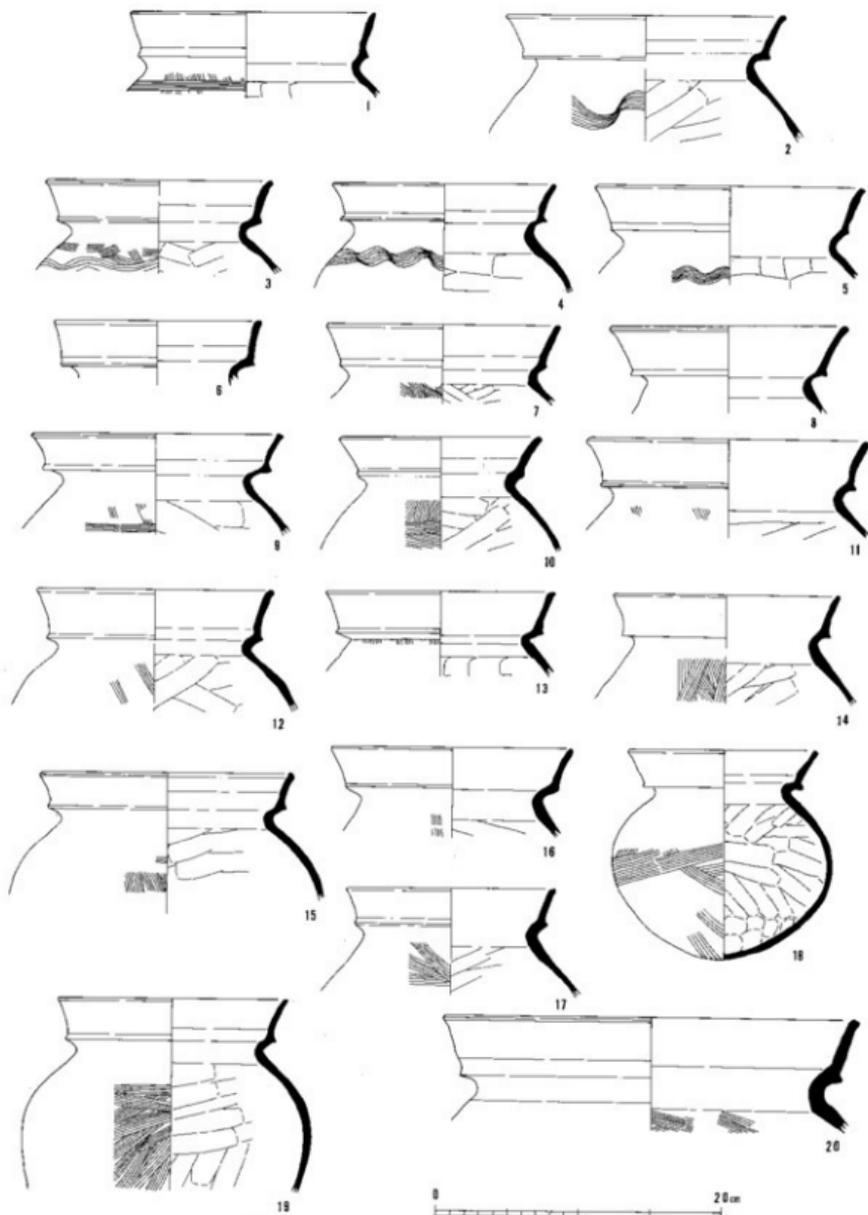
器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区	
壺形土器	321	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は外反気味。 口縁外面に縦凹線。 口縁内面は屈曲せず、まっすぐ立ち上がる。 体部は丸味をもつが、肩は張らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ともヘラ磨き。 	図版20	Ⅳ区	
	322	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は直立し、外面には縦凹線を施す。 口縁から大きく屈曲して体部に続く。 肩の張りはない。 	<ul style="list-style-type: none"> 体部内面については、上半部はハケ、下半部は下からのヘラ削り。 	図版18	Ⅰ区	
壺形土器	323	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は下垂し、口縁外面には斜格子がめぐる。 口縁上端部には△状の列点が続く。 			Ⅲ区	
	324	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は内傾する。 口縁部には凹線を施した後、きざみを入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 頸部外面には縦ハケが残るが、内面の調整については不明。 		Ⅲ区	
壺形土器	325	<ul style="list-style-type: none"> くの字状に屈曲する口縁をもつ。 口縁端面は平直で外側に傾いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面に縦ハケ。 内面ナデ。 		表探	
壺・壺形土器	底部	326	<ul style="list-style-type: none"> やや上げ底の底部をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部内面に指頭正痕。 外面は磨滅のため整形不明。 		Ⅲ区
	327	<ul style="list-style-type: none"> 底は小さい平底である。 やや厚くつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ともハケ。 		Ⅲ区	
	328	<ul style="list-style-type: none"> 底径が小さく、体部の立ち上がりは急である。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面縦ハケ。 底部内面指押さえ。 器壁は薄い。 		Ⅲ区	
	329	<ul style="list-style-type: none"> 底部からの立ち上がりは急である。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面ハケ。 内面ヘラ削り。 		Ⅱ区	
	330	<ul style="list-style-type: none"> 幅の広い底部をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面ヘラ削り。 		Ⅳ区	

須恵器

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区	
杯	A	331	<ul style="list-style-type: none"> 立ち上がりは低く、内傾する。 口縁端部は丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部のヘラ削りは埴程度である。 		Ⅰ区
	332	<ul style="list-style-type: none"> 立ち上がりは内傾し、非常に低くなる。 器高は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部のヘラ削りは埴以下になる。 		Ⅲ区	
	333					Ⅲ区
	334				体部外面に破片が接着	Ⅳ区

器形	土器番号	形態の特徴	成形手法の特徴	備考	出土地区
蓋	A 335	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部と天井部の境には鈍い稜がある。 口縁部はわずかに内側に屈曲。 	<ul style="list-style-type: none"> 天井部外面はヘラで切り離したままである。 		I区
	B 336	<ul style="list-style-type: none"> 内側にかえりをもつ。 かえりの先端は口縁部よりも上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 小破片の為、全体の整形は不明。 		III区
杯	B 337	<ul style="list-style-type: none"> 小型の杯で口径は11cm前後である。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部はヘラ削り。 体部は横ナデ。 338は口縁部に稜をもち、やや上方に立ち上がる。蓋の可能性もあるが、底部を意識的に作り出しているので一応杯とした。 		II区
	338			図版21	IV区
	339				図版21
喙	340	<ul style="list-style-type: none"> 口頸部はラップ状に開き、肩部に凹線をめぐらす。 	<ul style="list-style-type: none"> 肩口近くまでヘラ削りを施している。 口頸部内面は成形時の凹凸が激しい。 	口縁部を欠く。 図版21	表採
高杯	341	<ul style="list-style-type: none"> 脚部端面は鋭く稜をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体に仕上げはいていわれている。 		IV区
	342	<ul style="list-style-type: none"> 柱状部から八の字状に開き裾部は平坦になる。 		図版21	IV区
蓋	C 343	<ul style="list-style-type: none"> 扁平なつまみがつく。 小型の蓋である。 	<ul style="list-style-type: none"> 天井部ヘラ削り。 	胎土は大きな砂粒を多く含む。	III区
	344	<ul style="list-style-type: none"> 扁平なつまみがつく。 口縁端部は下方へ短くつまみ出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 天井部ヘラ削り。 内面ナデ。 火ぶくれがある。 	胎土は粗い。ひずみが大きい。 図版21	IV区
	345	<ul style="list-style-type: none"> 扁平な宝珠形つまみがつく小型の蓋。 天井部から大きく屈曲し口縁に続く。 口縁は鋭く折り曲げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 天井部ヘラ削り。 内面ナデ。 	大粒の石を含む。	III区
	346	<ul style="list-style-type: none"> 扁平な宝珠形の形を残したつまみをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> つまみ周辺のみヘラ削り。 内面ナデ。 	胎土良好	IV区
皿	347	<ul style="list-style-type: none"> 器高が低く、底径は広い。 体部は斜めに立ち上がる。 底部と体部の境は丸味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部ヘラ削り。 	大粒の石を含む。 図版21	IV区
	348				III区
杯	C 349	<ul style="list-style-type: none"> 体部は底部からやや丸味をもって屈曲し、わずかに外傾して立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 底部ヘラ削り。 内面ナデ。 	墨書がある。	I区
	350	<ul style="list-style-type: none"> 体部は底部からやや丸味をもって屈曲し、やや外反気味に斜め上方に立ち上がる。 口縁端部はやや先細り。 			IV区
	351	<ul style="list-style-type: none"> 体部と底部の境は明瞭である。 体部はわずかに外傾する。 			III区

器形	土器番号	形態の特長	成形手法の特徴	備考	出土地区	
杯	C 352	・わずかに外反する体部をもつ。	・底部はヘラ切りである。 ・体部と底部の境はヘラ削りされている。	図版21	Ⅲ区	
	D	353	・やや外反気味の体部をもつ。 ・口縁端部は先細り。 ・高台は体部の直下に垂直に短くつく。 ・体部と底部の境は丸味をもつ。	・底部はヘラ切りの後、高台を貼り付ける。 ・底部はヘラ切りである。	図版21	Ⅳ区
		354	・体部と底部の境は明瞭で稜をもつ。 ・体部はわずかに外反。 ・高台は体部の直下に短く垂直につく。	・底部はヘラ切り。		Ⅲ区
		355	・高台は底部のやや内側に垂直に短くつく。			Ⅳ区
	356	・やや外方にふんばる短い高台をもつ。 ・体部は高台から連続して続き、斜め上方に立ち上がる。			Ⅱ区	
	357	・口径に対して器高が高い。 ・高台は体部の直下に短く垂直につく。 ・体部は底部から斜め上方に立ち上がる。 ・体部と底部の屈曲部の稜はヘラにより消されている。		図版21	Ⅱ区	
	358	・体部は底部から丸味をもって斜め上方に立ち上がる。 ・体部の直下にはやや高い高台が垂直につく。			Ⅲ区	
	359	・体部は底部から丸味をもって斜め上方に立ち上がる。 ・体部の直下にはやや高い高台が垂直につく。 ・底径のかなり大きな杯である。			Ⅳ区	
	360	・口径、器高とも大きい。 ・体部は底部から丸味をもって斜め上方に伸びる。 ・口縁端部は先細りになる。	・底部はヘラ切りである。 ・高台はわずかにひずんでいる。	大粒の石を含む。	Ⅳ区	
	Ⅲ	361	・底径の大きな甕であろう。 ・高台は底部のやや内側につく。	・底部はヘラ切り。		Ⅲ区
壺	A	362	・体部は高台から直接斜め上方に伸びる。 ・底径は小さい。 ・小さな輪高台をもつ。	・底部糸切り。 ・内面横ナデ。		Ⅱ区
		363	・体部は高台から直接斜め上方に伸びる。 ・高台は高く、わずかに外方に張り出す。	・底部糸切り。 ・内面横ナデ。 ・底部内面に凹線状のものが円を描く。		Ⅱ区
		365	・高台はわずかに外方にふんばる。	・底部糸切り。		Ⅱ区
	B	364	・平高台をもつ壺。 ・高台側面はヘラで整える。	・底部糸切り。		Ⅱ区

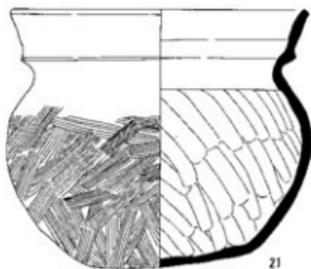


I区 6. 7. 16

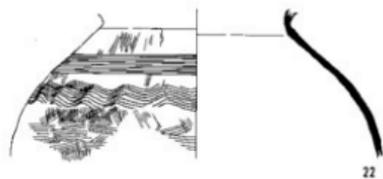
III区 1. 2. 5. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15

II区 3. 4. 17. 19. 20

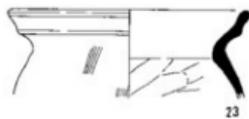
IV区 8. 18



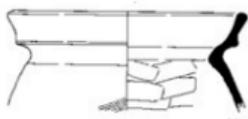
21



22



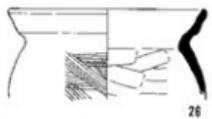
23



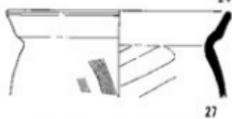
24



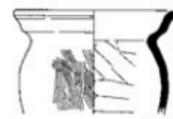
25



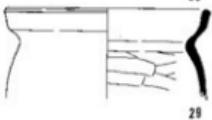
26



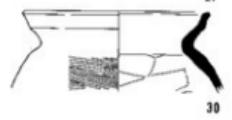
27



28



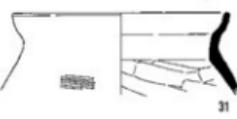
29



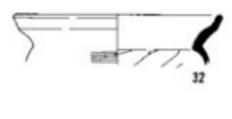
30



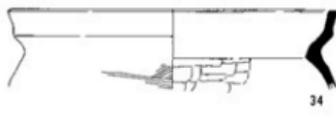
33



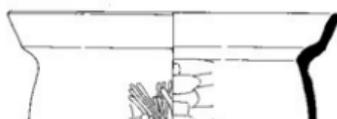
31



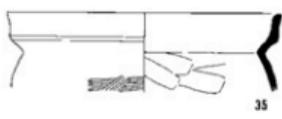
32



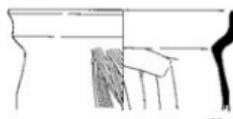
34



37



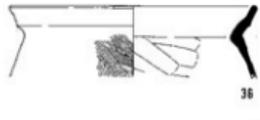
35



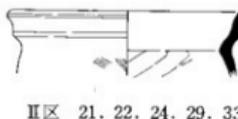
38



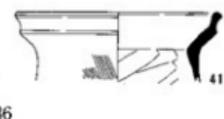
39



36



40



41

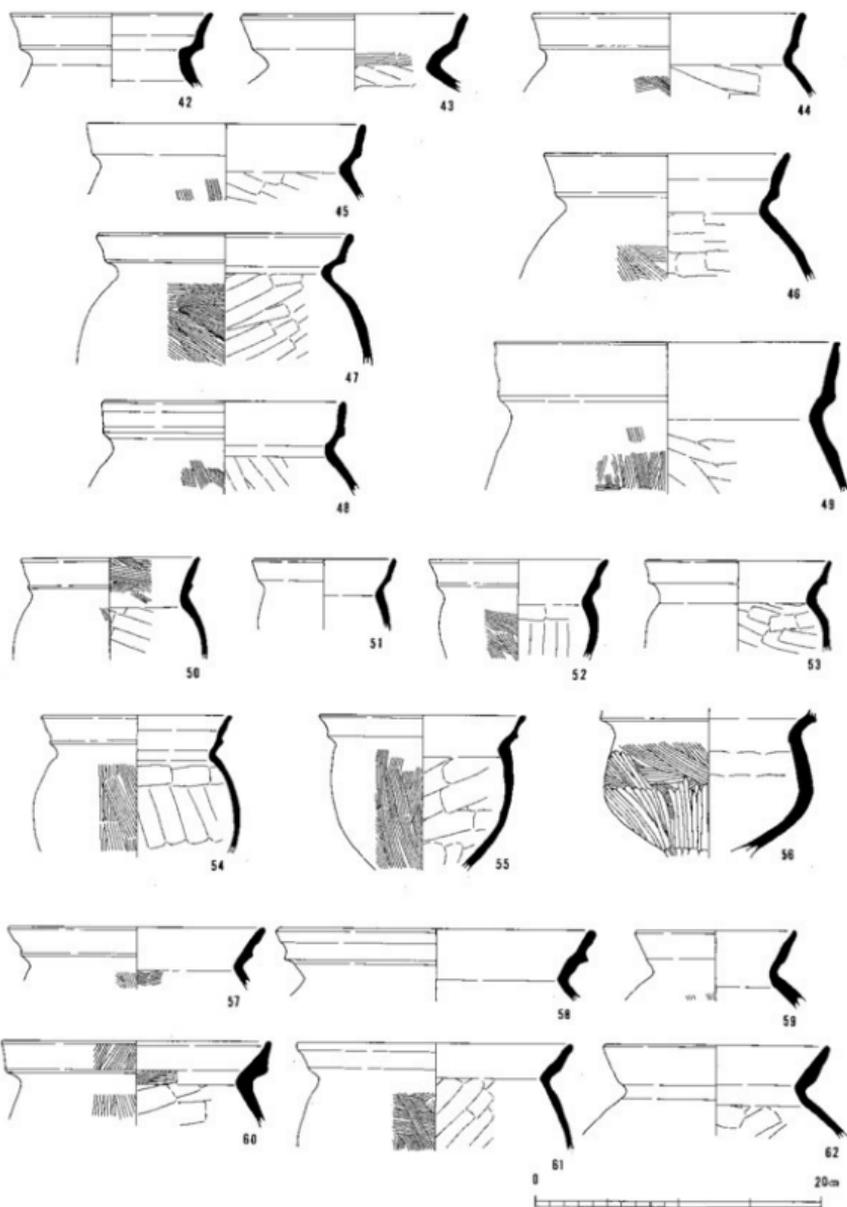


I区 34

III区 23. 27. 35. 37. 38. 41

II区 21. 22. 24. 29. 33. 36

IV区 25. 26. 28. 30. 31. 32. 39. 40

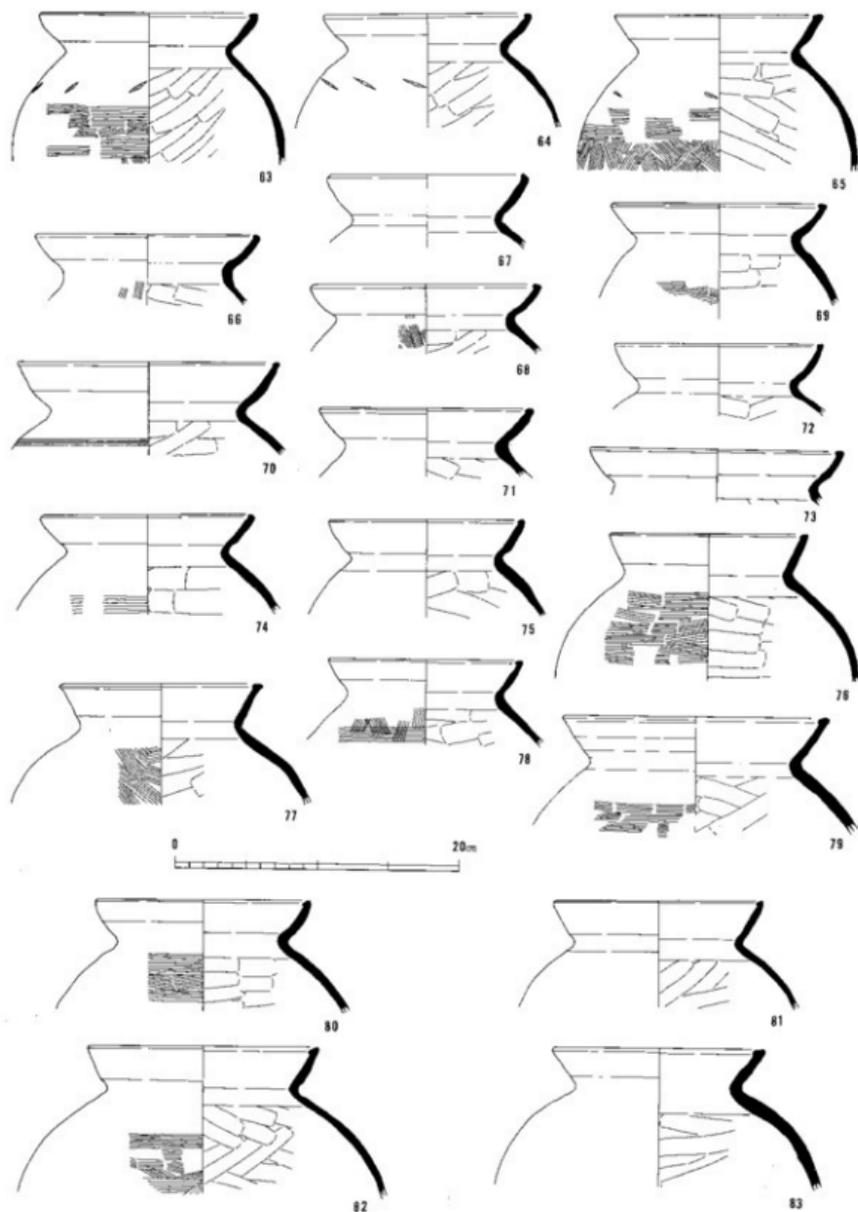


I区 42. 48

II区 43. 44. 45. 49. 52. 53. 54. 56. 58. 62

III区 50. 51. 60. 61

IV区 46. 47. 55. 57. 59

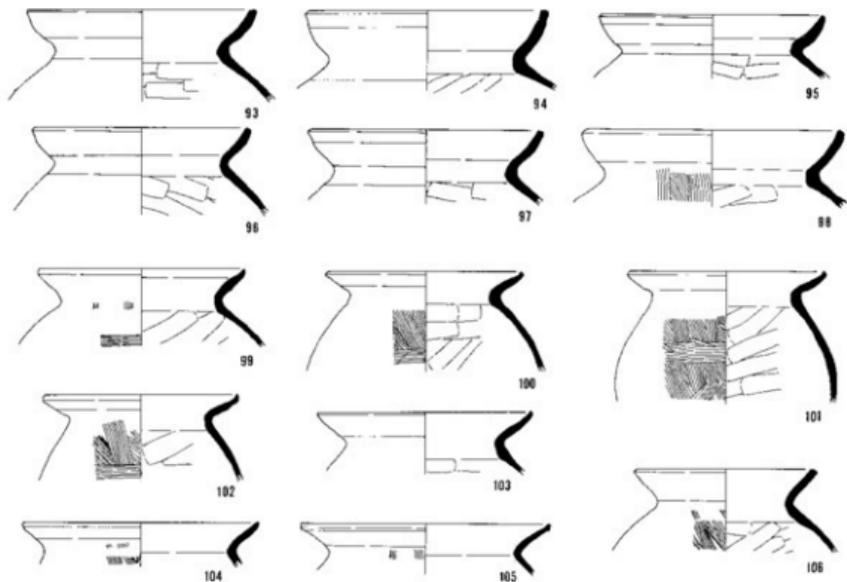
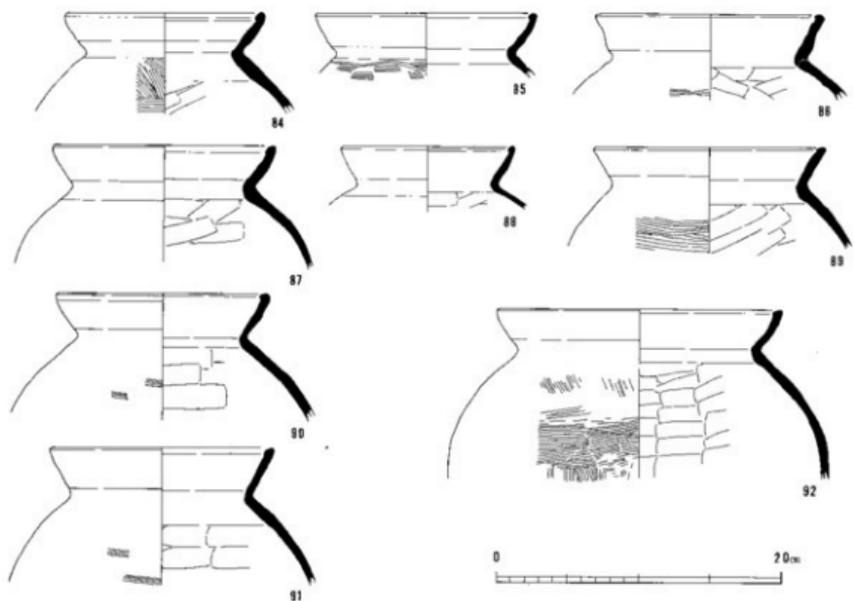


I区 66. 67. 68. 71. 73. 83

III区 63. 78. 80. 82

II区 64. 65. 74. 75. 76. 77

IV区 69. 70. 72. 79. 81



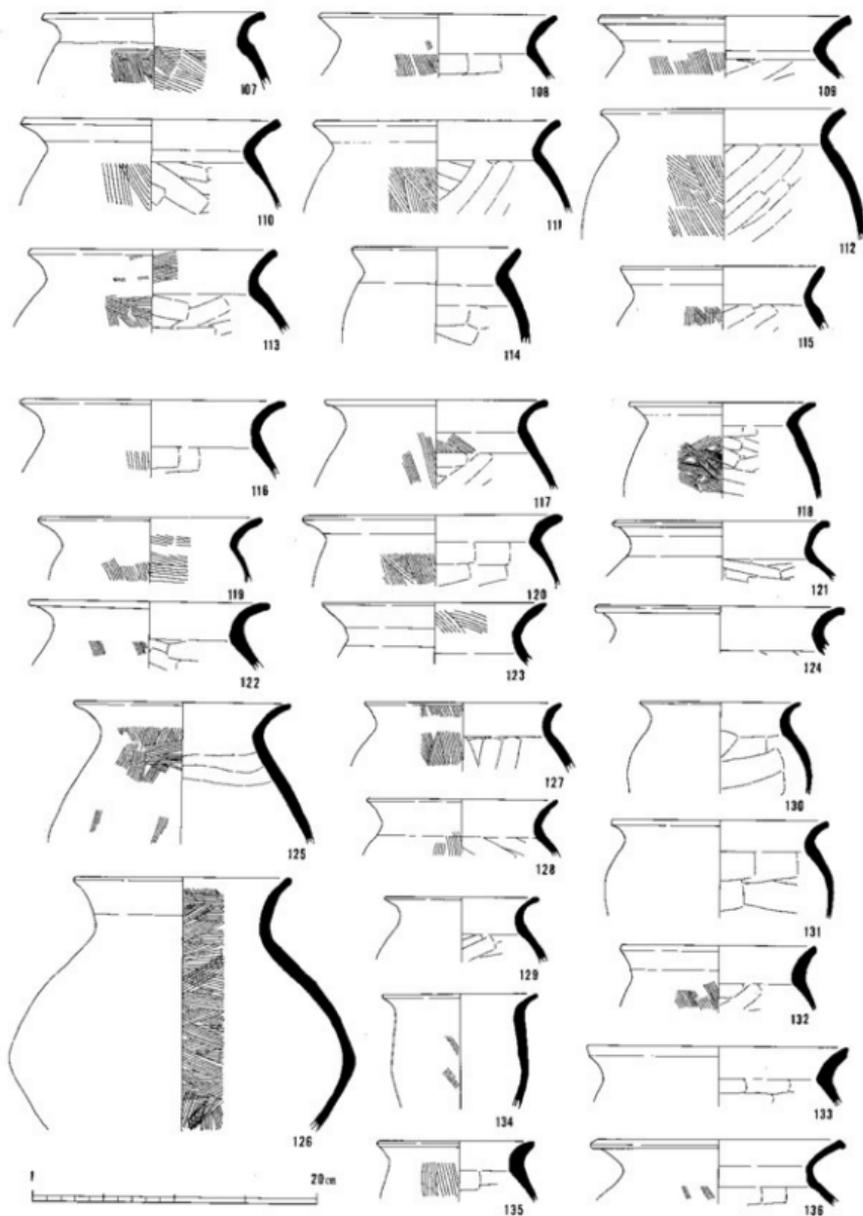
I区 85.88.89.101

II区 { 86. 91. 92. 96. 98.
100. 102. 103. 104

II区・III区99

III区 87. 90. 93. 95. 97

IV区 84. 94. 105. 106

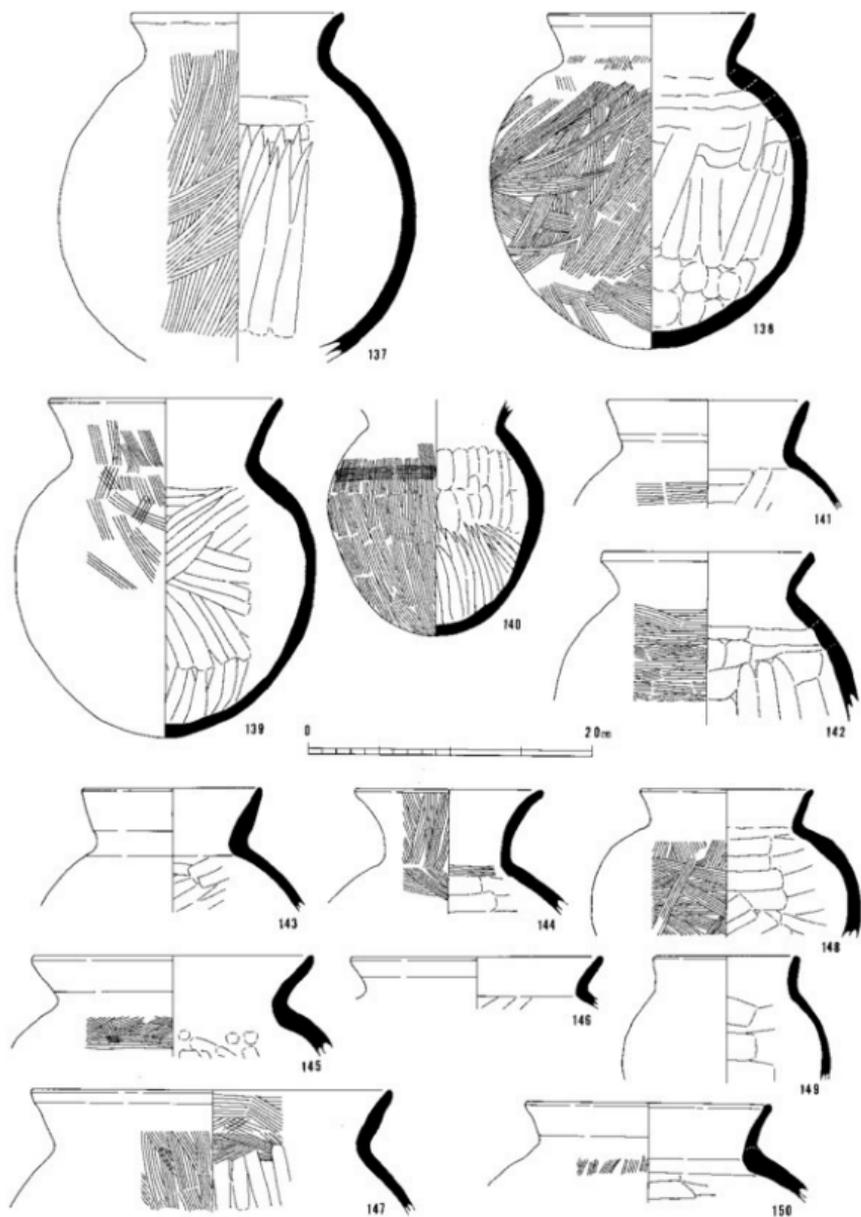


I区 124. 125. 128. 134

II区 107. 110. 111. 112. 113. 117. 118.
119. 120. 127. 130. 132. 133

III区 109. 114. 122. 129. 131. 135

IV区 108. 115. 116. 121. 123. 126. 136

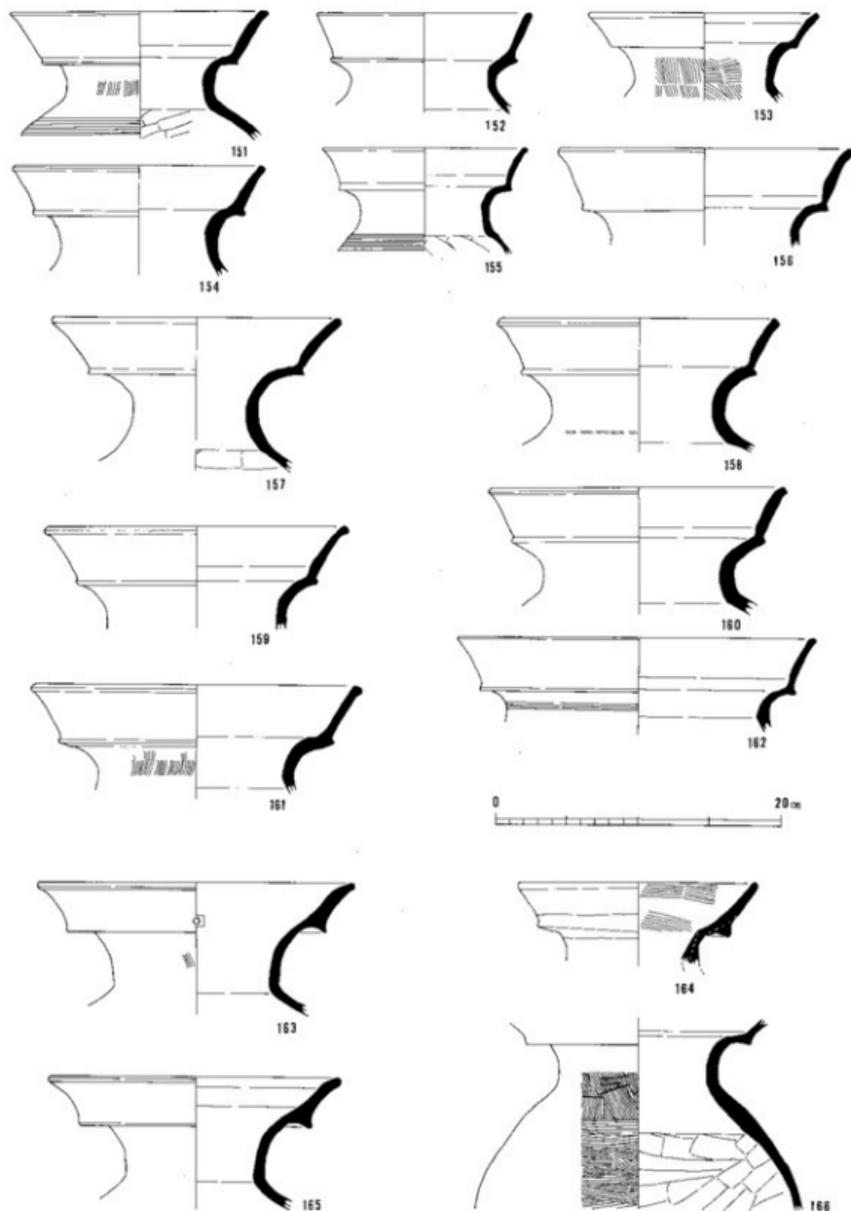


I区 137. 139. 146. 148

III区 140. 142. 144. 149. 150

II区 138. 141. 143. 147

IV区 145

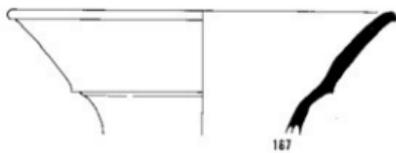


I区 154

II区 152. 156. 160. 161. 162. 163. 165. 166

III区 151. 157. 158. 159. 164

IV区 153. 155



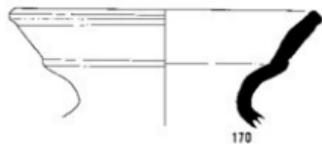
167



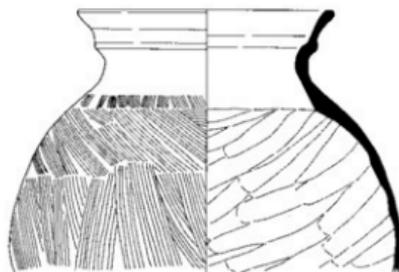
168



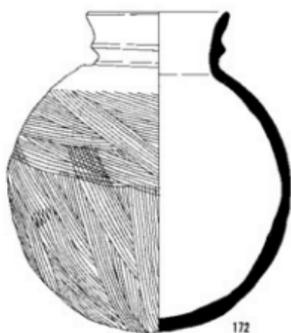
169



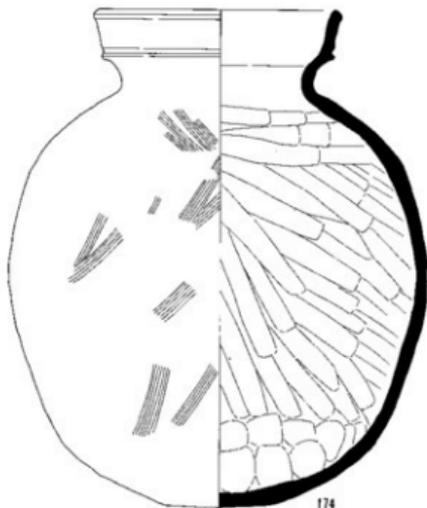
170



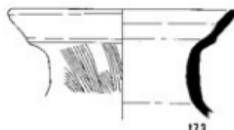
171



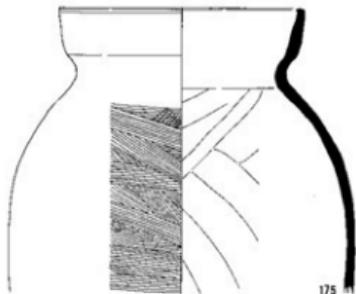
172



174



173

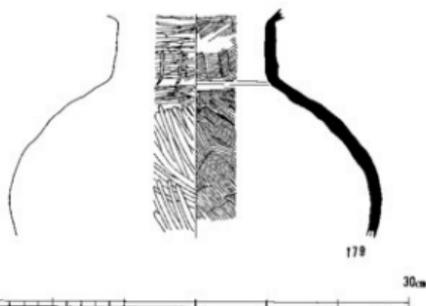
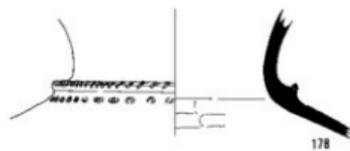
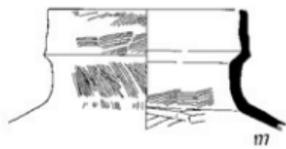
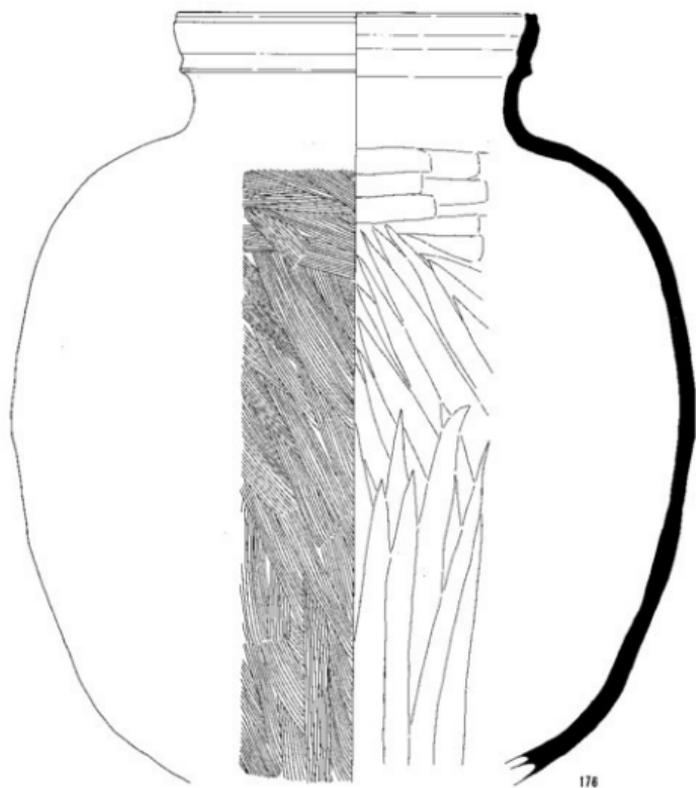


175

Ⅲ区 167. 169. 173

Ⅱ区 168. 170. 171. 172. 175

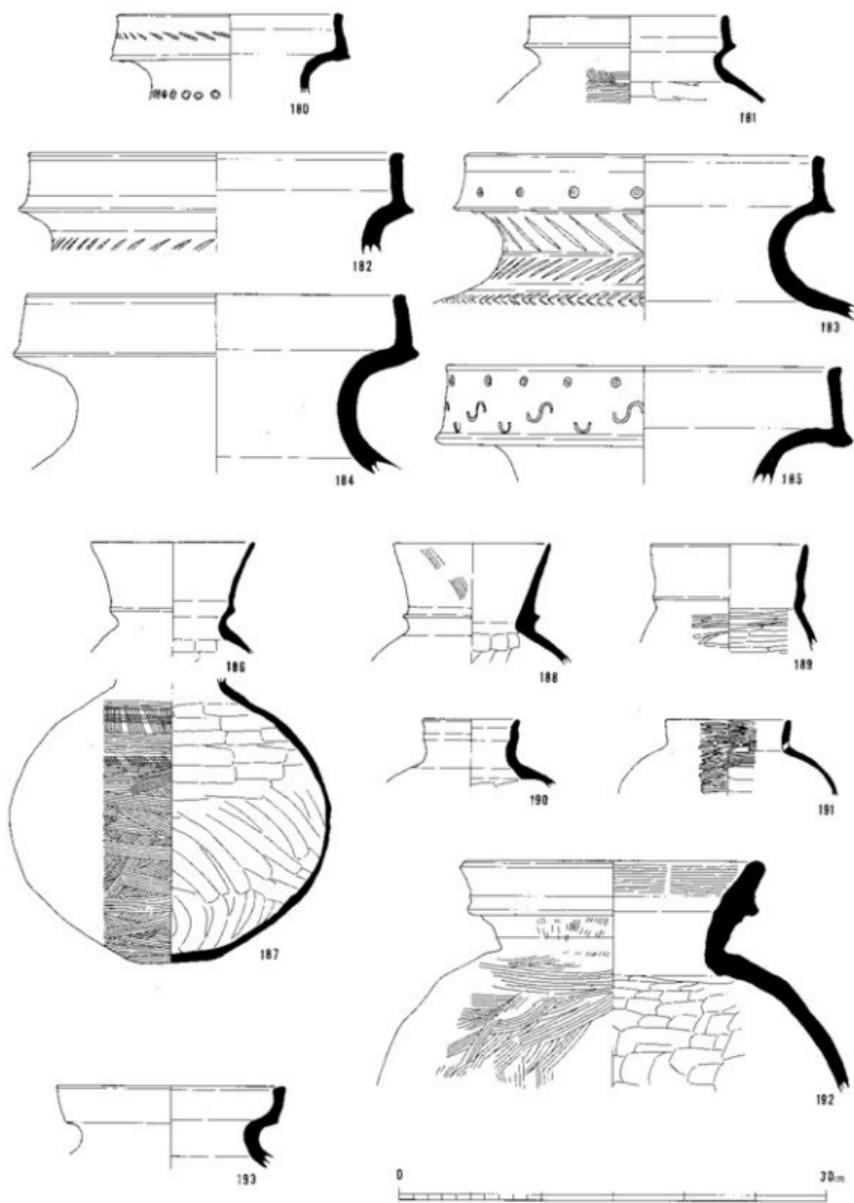
Ⅳ区 174



Ⅲ区 177. 178

Ⅱ区 176

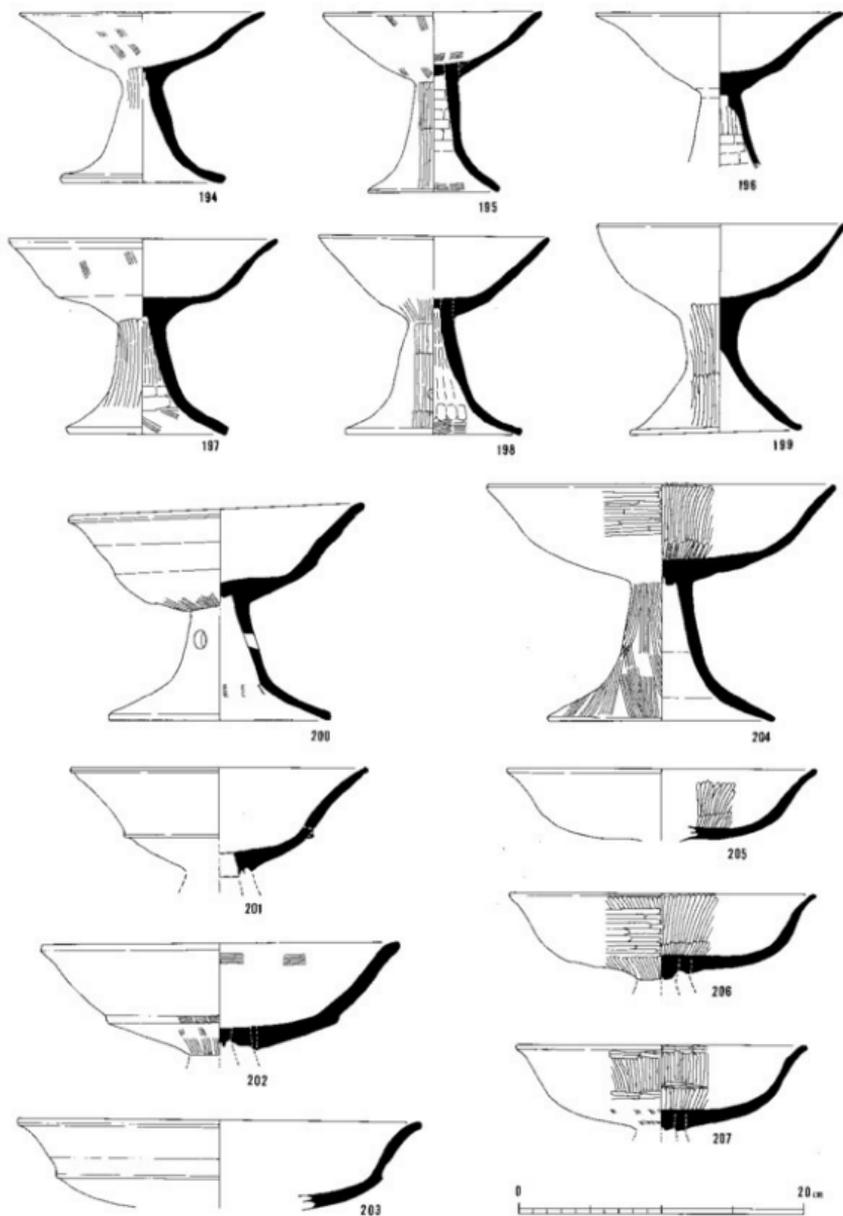
Ⅳ区 179



III区 184. 185. 186. 190

II区 180. 181. 183. 189. 192

IV区 182. 187. 188. 191. 193

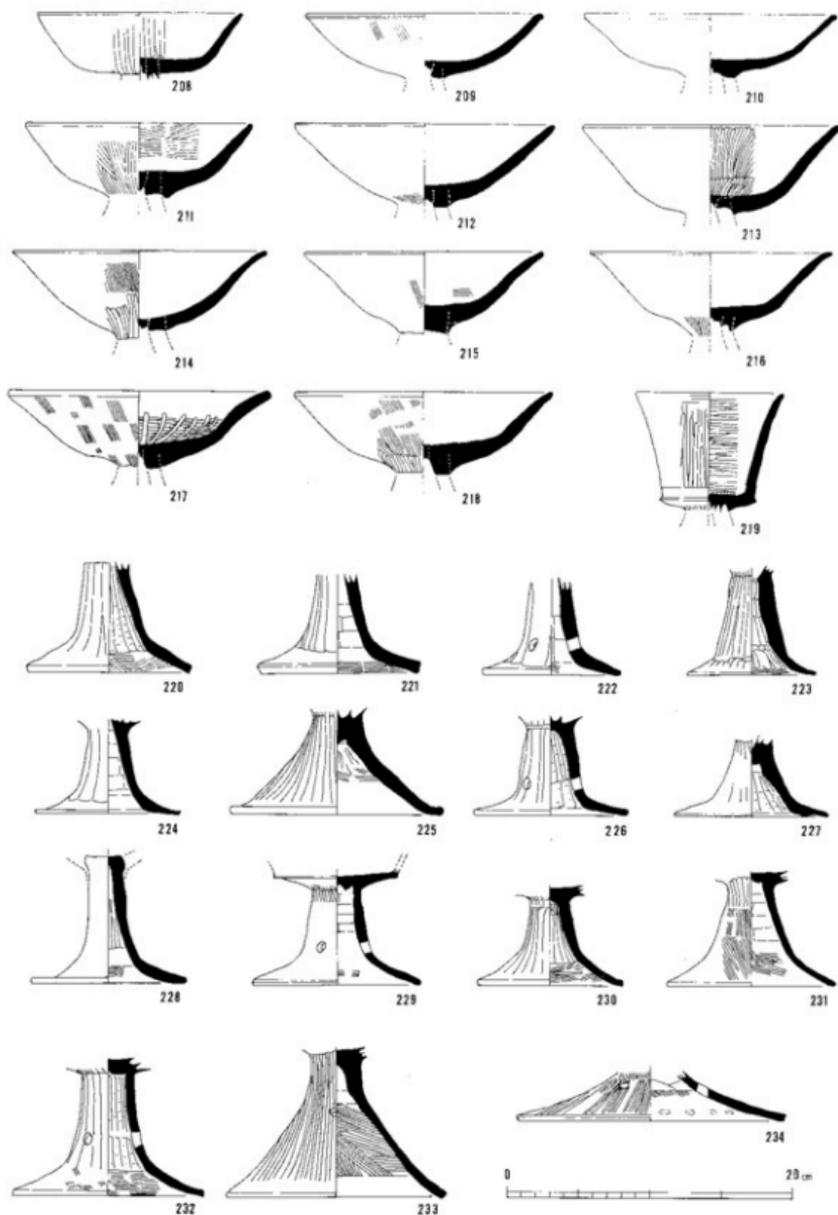


I区 194. 196. 200. 201

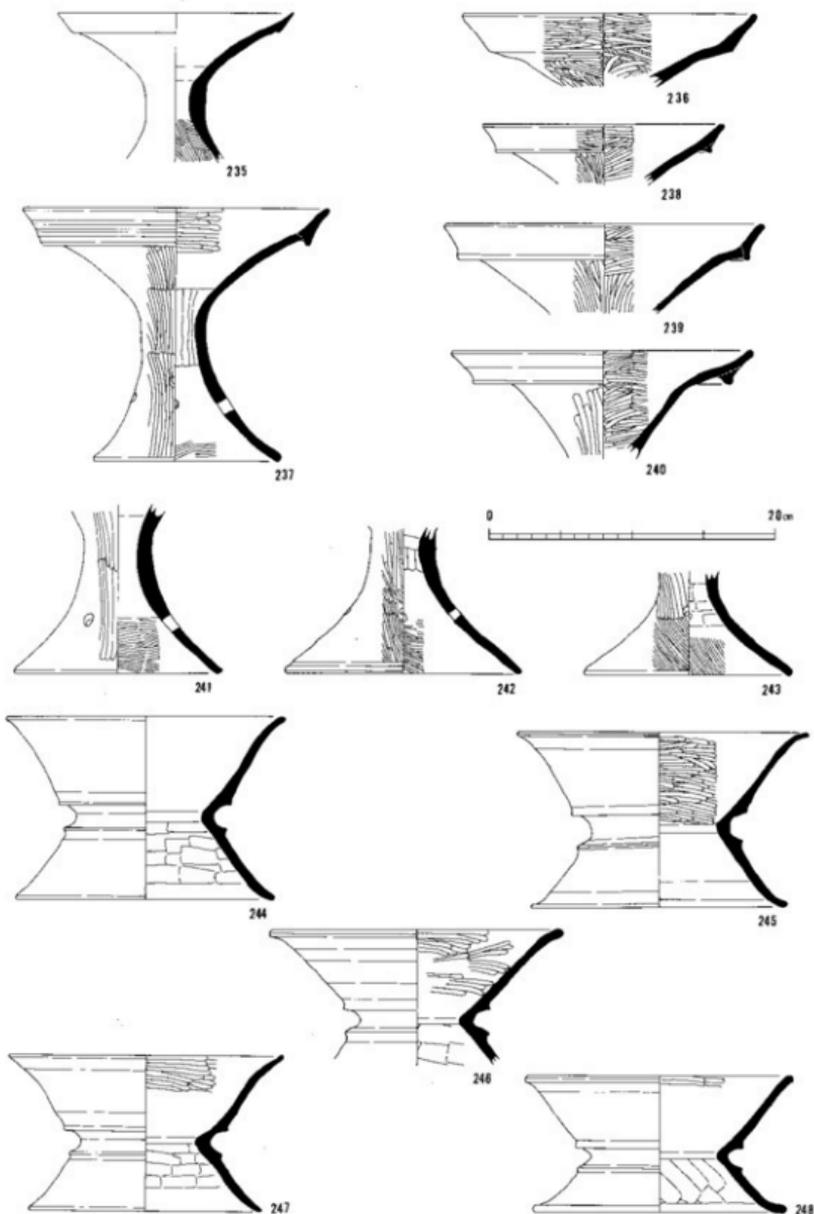
III区 195. 197. 199. 206

II区 198. 202. 204. 205. 207

IV区 203



I区 210. 212. 216. 224 II区 {208. 211. 214. 218. 219. 220.
221. 222. 228. 229. 231. 233 II区・III区 234
III区 209. 213. 215. 223. 225. 226. 230. 232 IV区 217. 227



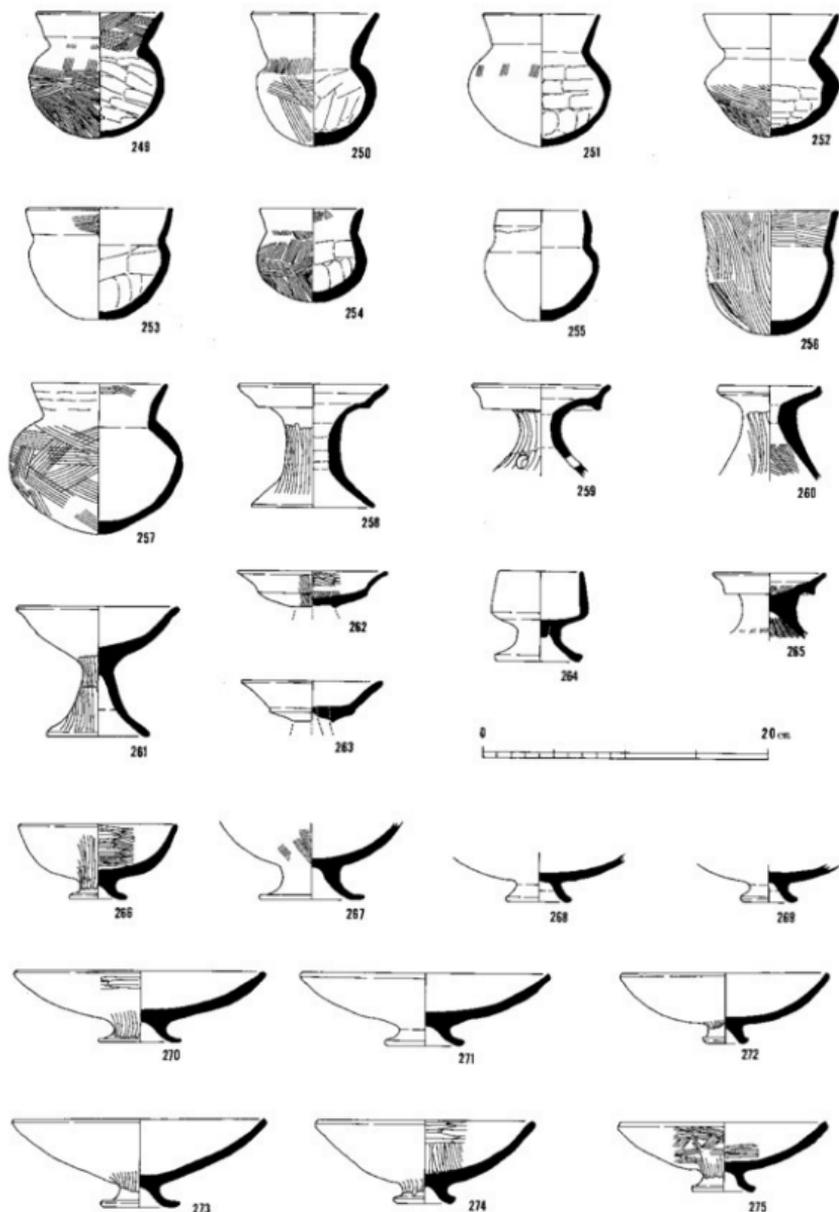
I区 235

II区 236. 240. 241. 245. 247

III区 238. 243. 244. 246

IV区 237. 239. 248

III区・IV区 242

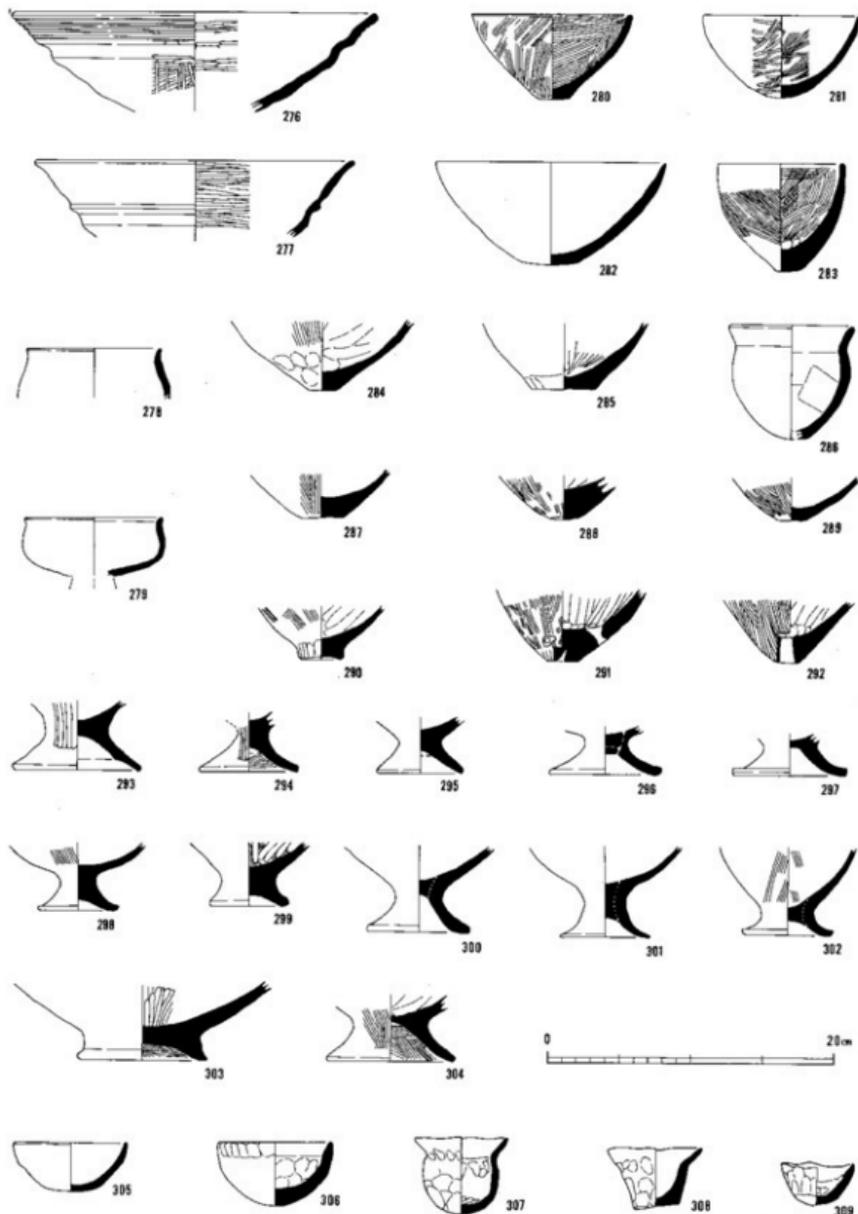


I 区 250. 251. 256. 269

II 区 254. 258. 265. 267.

III 区 {264. 266. 270. 271. 272. 273. 274. 275.
249. 253. 255. 257. 259. 260. 262. 263

IV 区 252. 261. 268

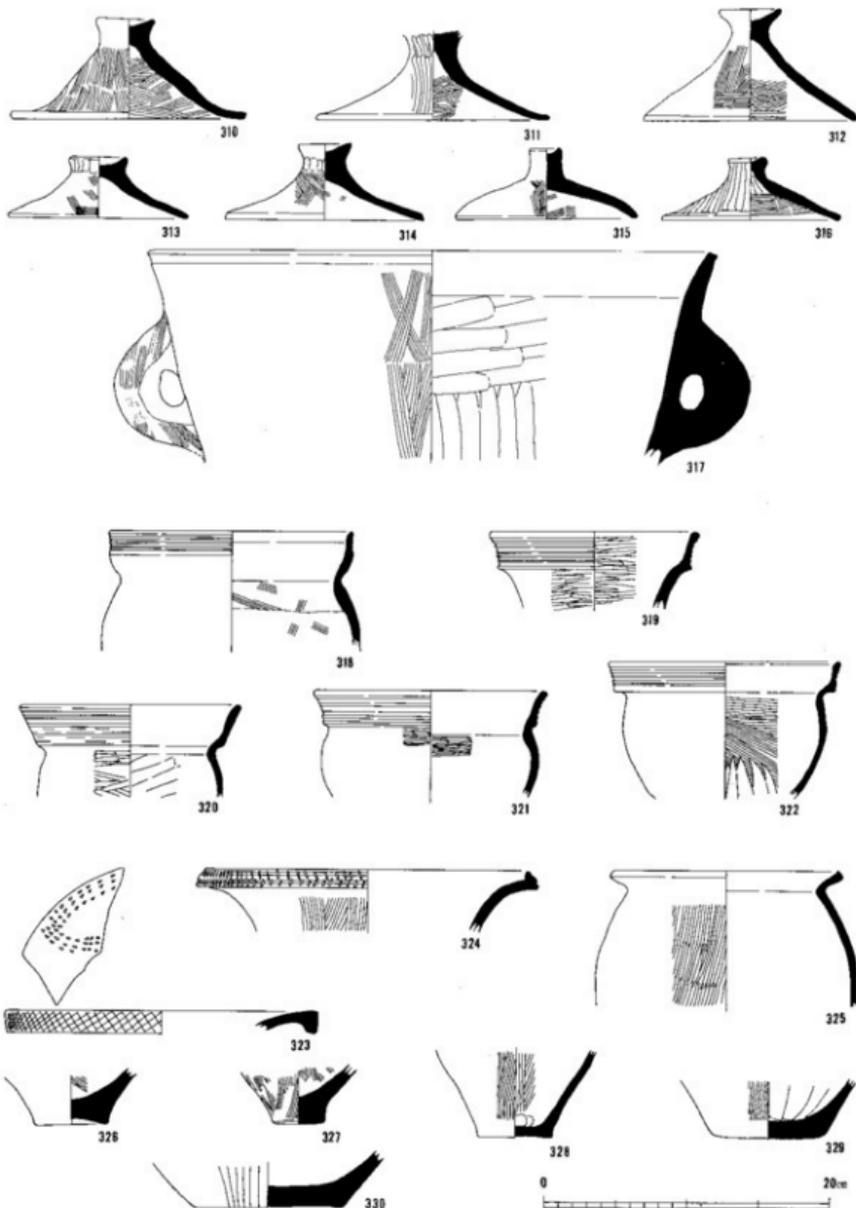


I区 278. 306

II区 {276. 277. 279. 280. 282. 283. 284.
1286. 288. 296. 299. 302. 304}

III区 {285. 287. 291. 292. 293. 294.
1297. 303. 305. 307. 308. 309}

IV区 281. 289. 290. 295. 298. 300. 301



I 区 322

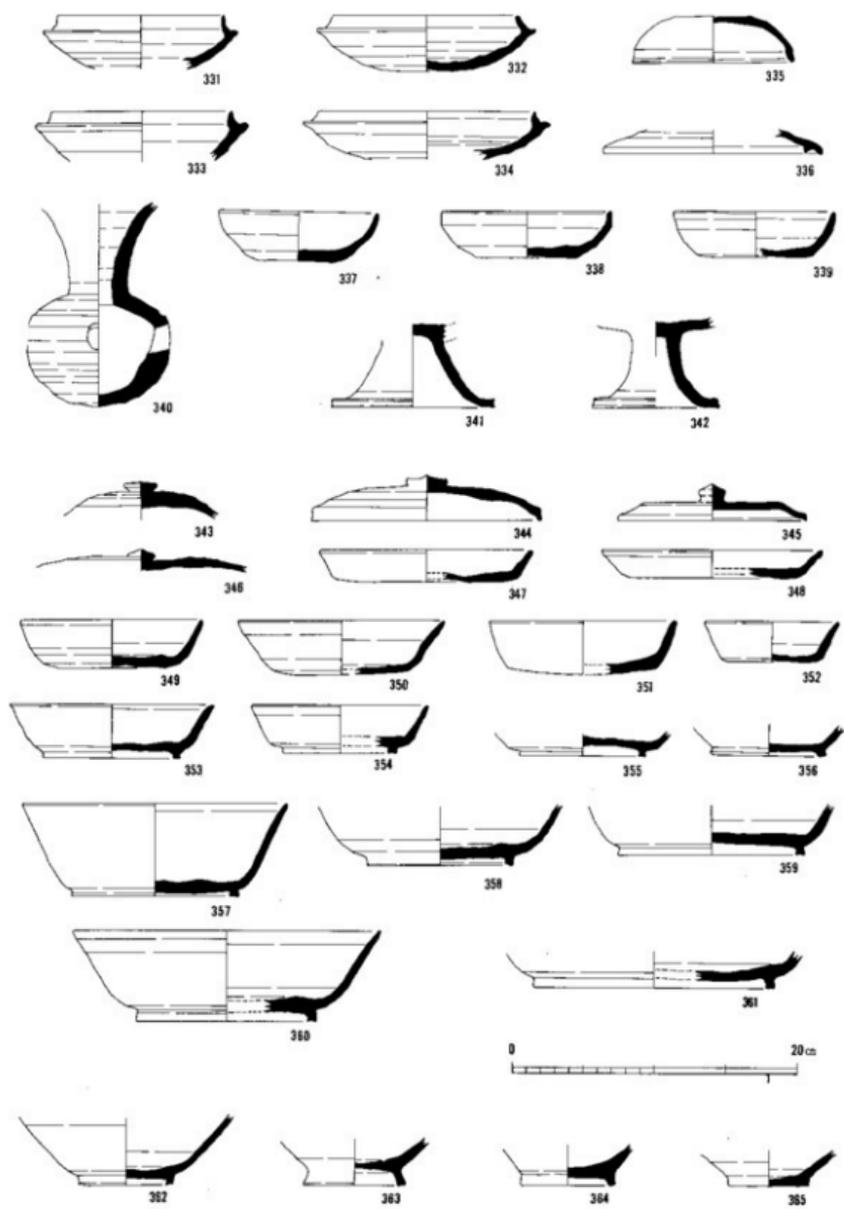
II 区 310. 312. 315. 318. 320. 329

II 区・III 区 319

III 区 {311. 313. 314. 316. 317.
323. 324. 326. 327. 328}

IV 区 321. 330

表押 325

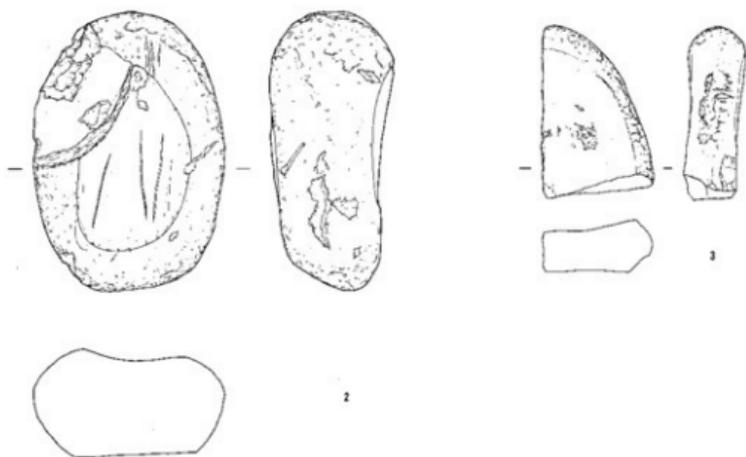
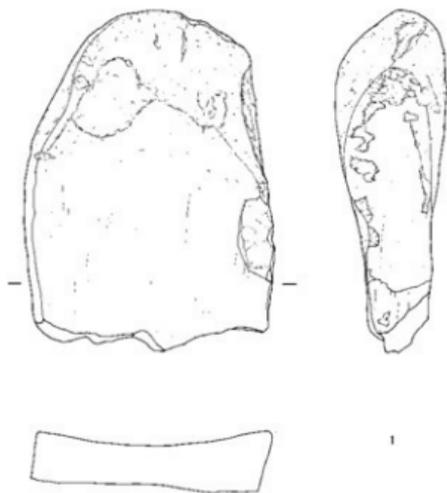


I 区 331. 335. 349

II 区 {337. 356. 357. 358.
362. 363. 364. 365

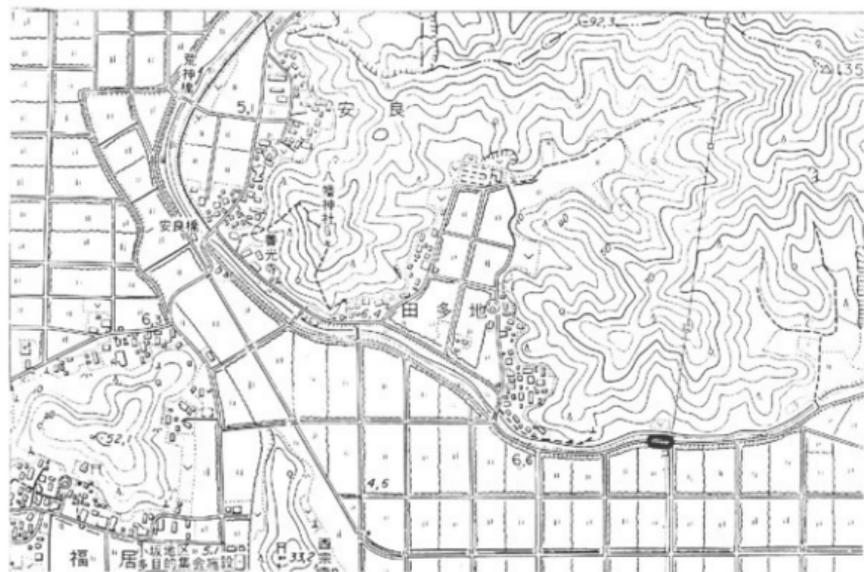
III 区 {332. 333. 336. 343. 345.
348. 351. 352. 354. 361

IV 区 {334. 338. 339. 341. 342. 344. 346.
347. 350. 353. 355. 359. 360 表採 340





(a) 遺跡遠景





(a) 調査地近景



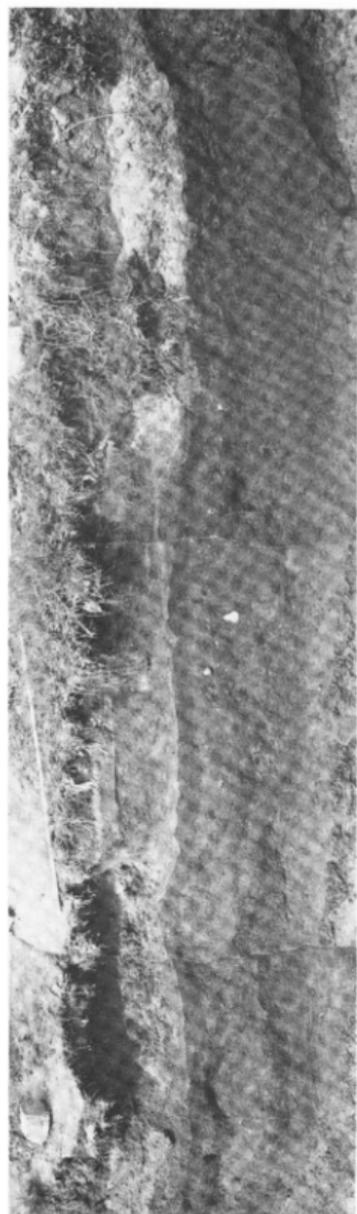
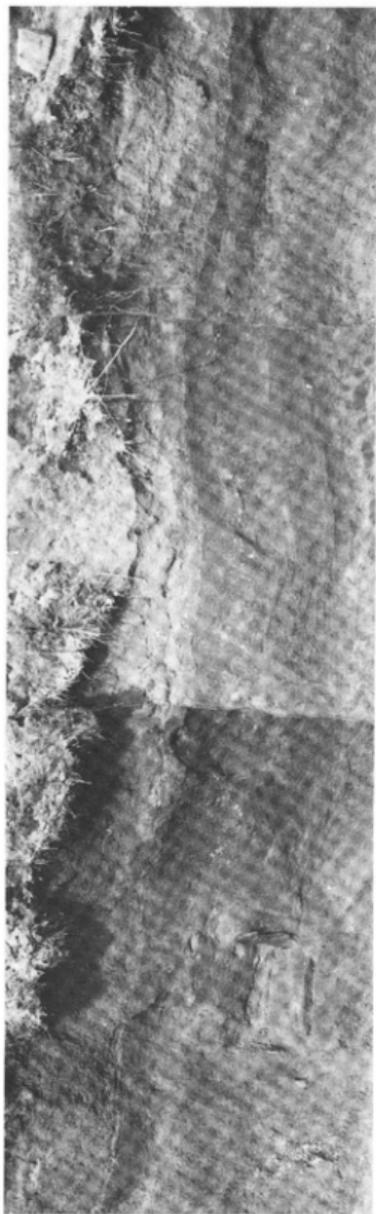
(b) 田多地小谷遺跡



(a) 第 I トレンチ



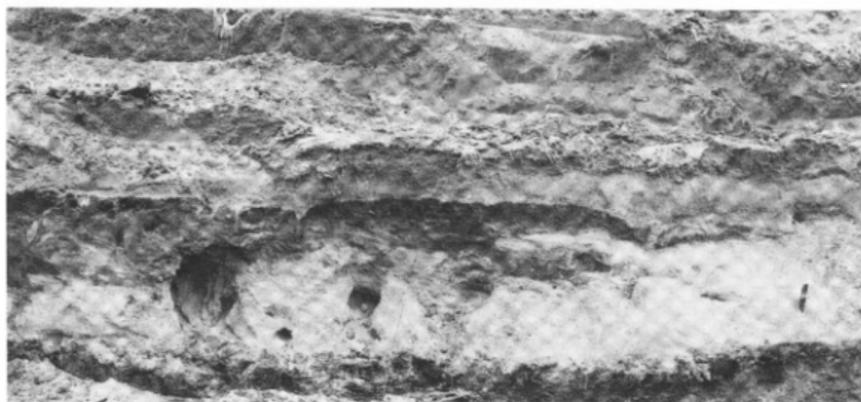
(b) 第 IV トレンチ



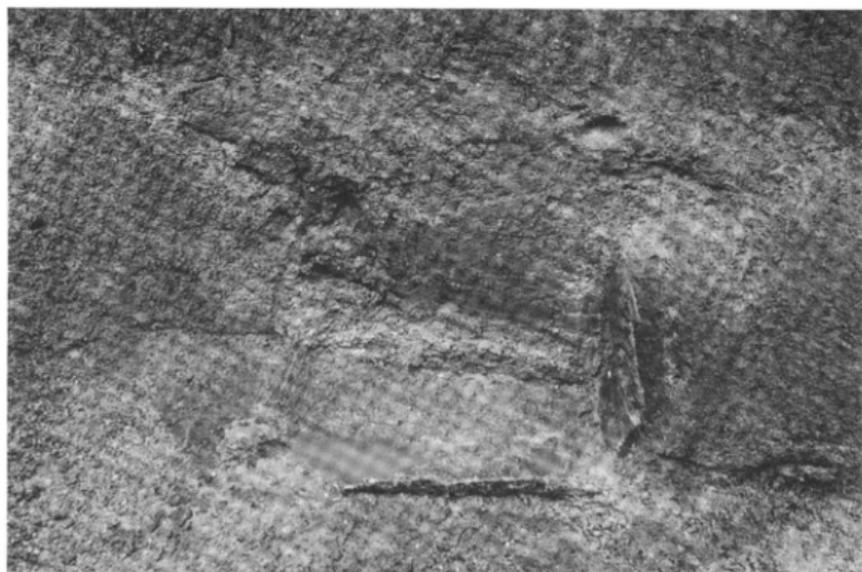
第Iトレンチ 土層断面



(a) 第IIトレンチ 土層断面



(b) 第IVトレンチ 土層断面



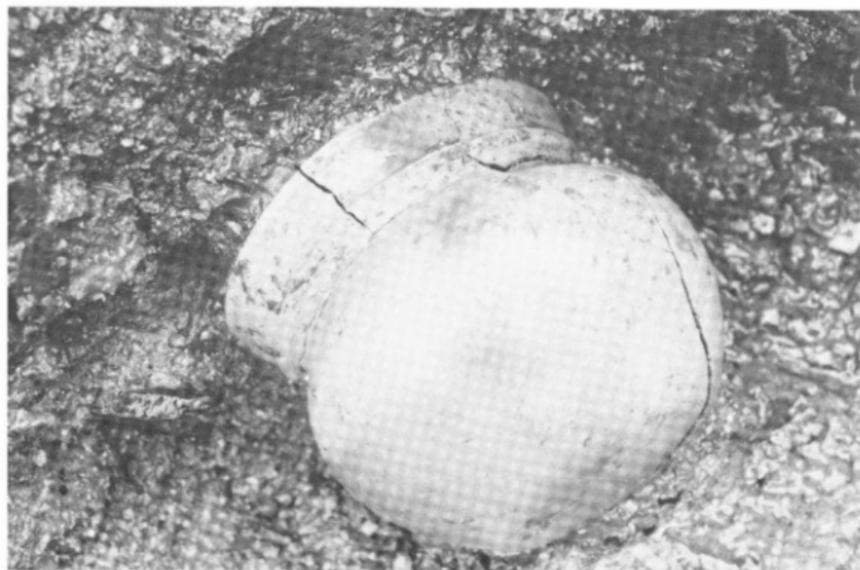
(a) 第Iトレンチ 井戸状遺構



(b) 第Iトレンチ 遺物出土状況



(a) 第Iトレンチ 遺物出土状況



(b) 第IIトレンチ 遺物出土状況



18



19



21



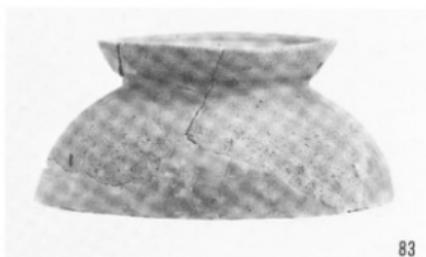
30



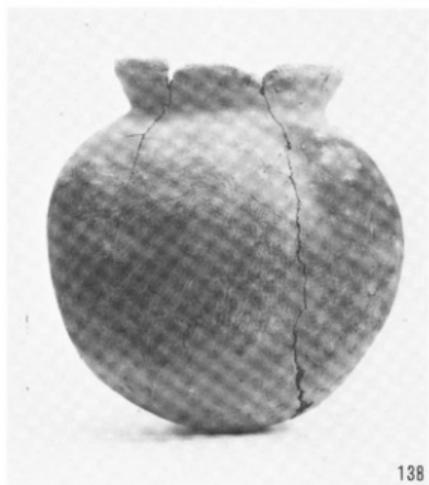
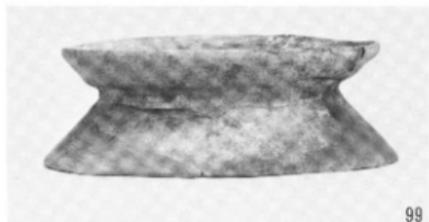
47

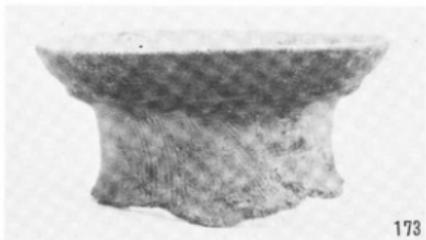
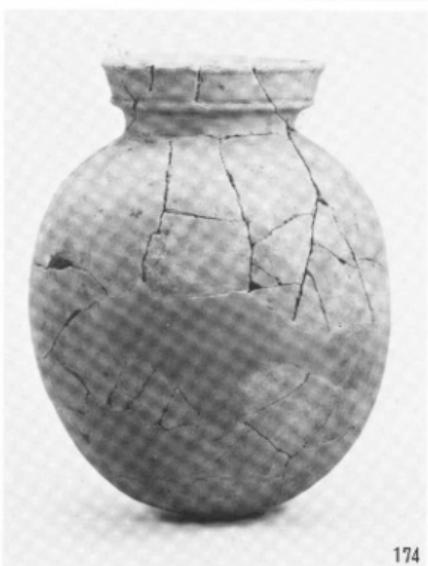
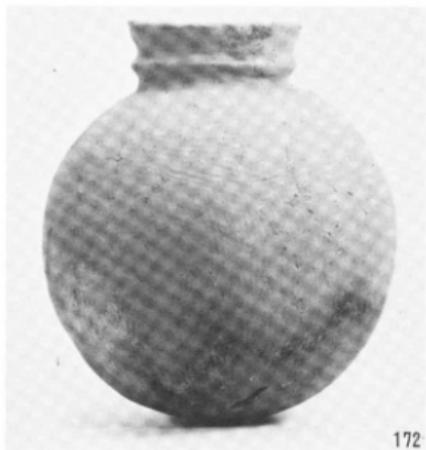


64



83









175



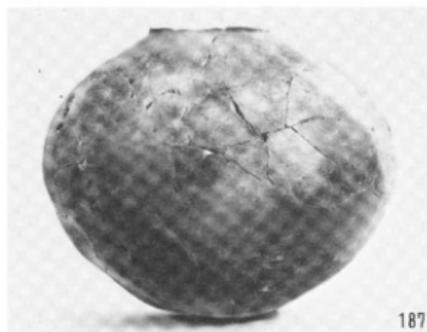
179



186



188



187



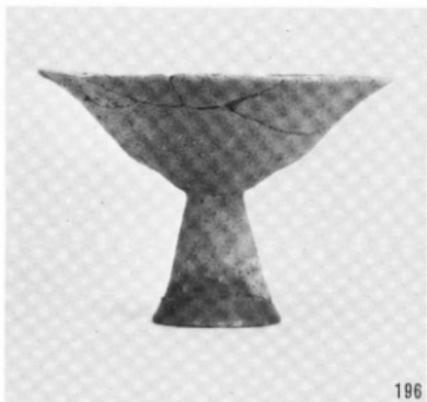
192



194



195



196



197



198



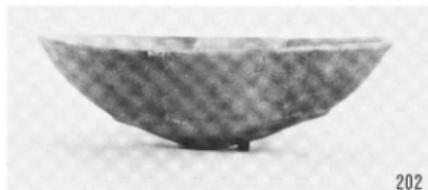
199



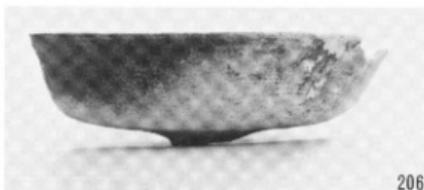
200



204



202



206



213



214



218



221



222



225

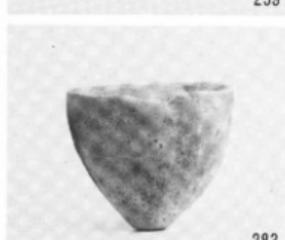
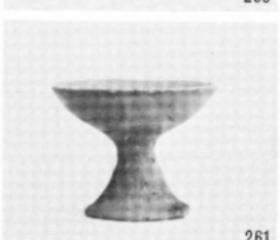
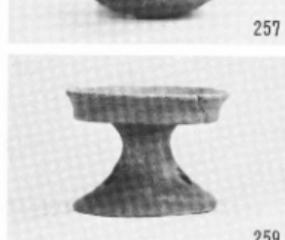
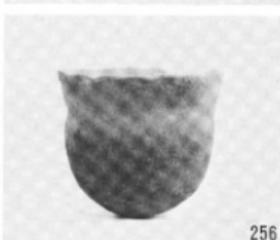
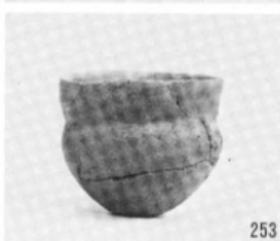


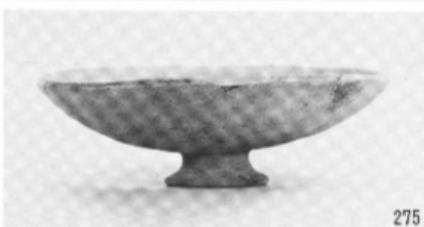
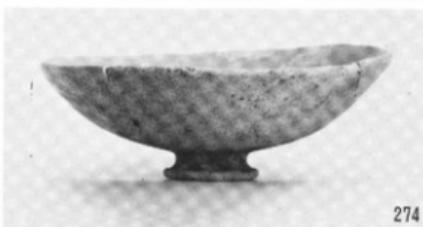
226



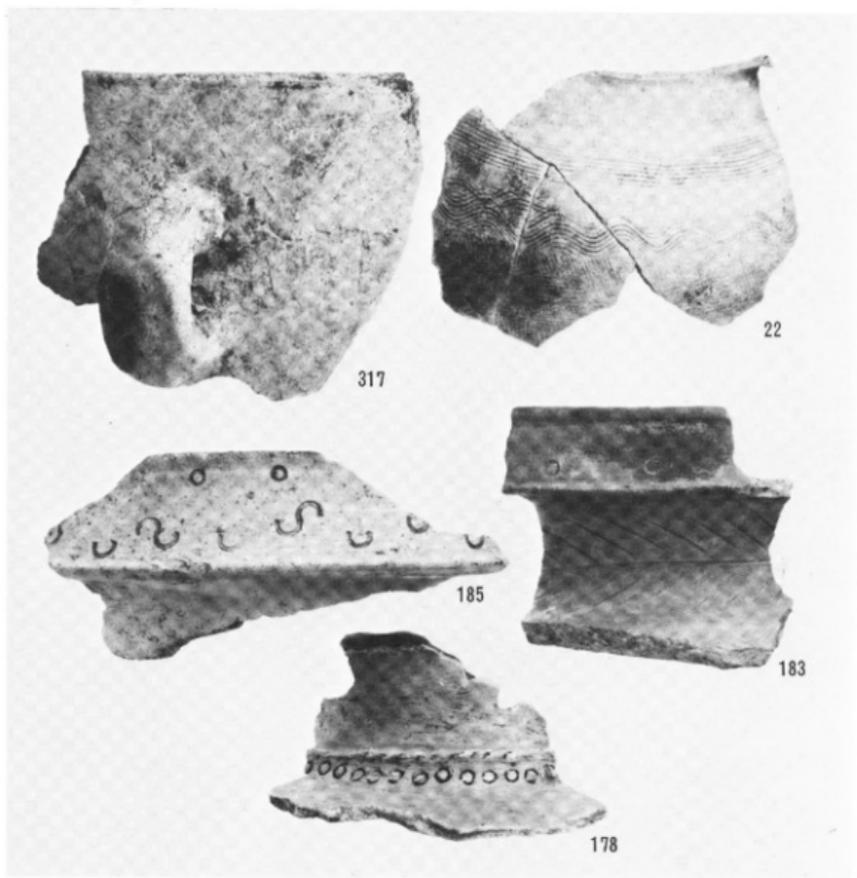
228

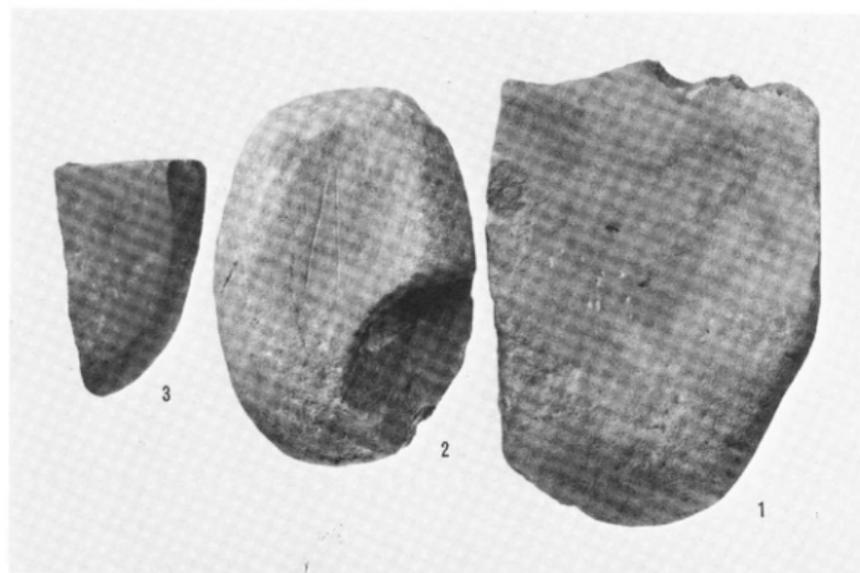
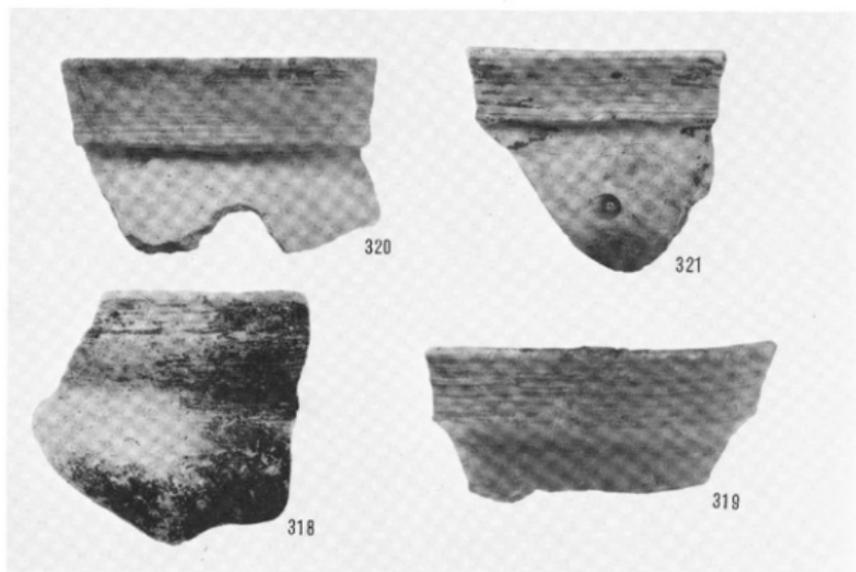


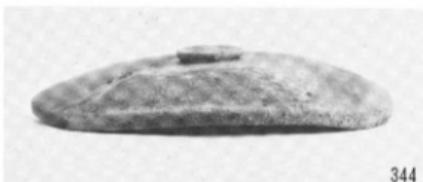


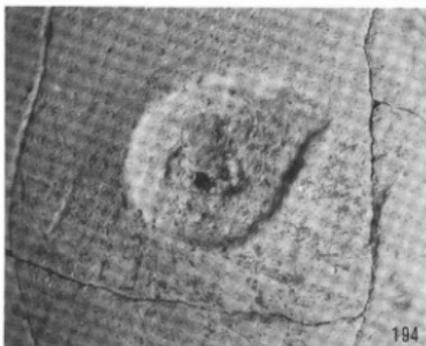
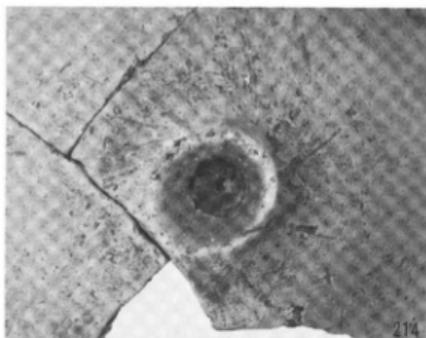
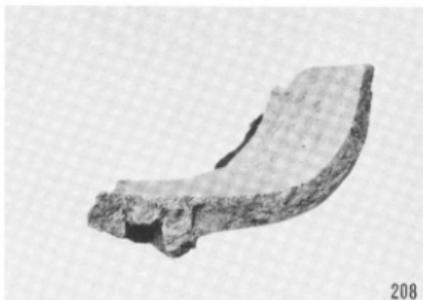












田 多 地 小 谷 遺 跡

—六方川災害復旧工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

昭和58年3月31日 発行

編 集 者 兵 庫 県 教 育 委 員 会

発 行 者 兵 庫 県 教 育 委 員 会

印 刷 所 株 式 会 社 精 文 舎